PRIMERGY

B7FH-6591-01 Z0

リモートマネジメントコントローラ ユーザーズガイド

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　リモートマネジメント コントローラの概要

この章では、リモートマネジメントコントローラの概要について説明しています。

第 2 章　準備

この章では、リモートマネジメントコントローラを使用する前の準備について説明しています。

第 3 章　起動と終了

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動と終了の方法について説明しています。

第 4 章　情報の参照と設定

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの各画面の意味と設定について説明しています。

付録

この章では、LDAP を使用する際に必要な設定や、リモートストレージサーバツールの設定について説明しています。

FUJITSU

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
(→ P.xx)	参照先のページを示しています。クリックすると該当ページへ移動します。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：　「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■「CD/DVD ドライブ」の表記について

本書では、CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブなどを「CD/DVD ドライブ」と表記しています。お使いの環境に合わせて、ドライブ名を読み替えてください。

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
         ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD/DVD ドライブのドライブ文字は、お使いの環境によって異なるため、本書では「CD/DVD ドライブ」で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせてドライブ文字を入力してください。
  ［CD/DVD ドライブ］:¥setup.exe

■ Linux の操作について

お使いのバージョンにより、CD/DVD ドライブおよびフロッピーディスクドライブへのマウントコマンドが異なります。本書で「/media/cdrom/」、「media/floppy」と記載している操作については、お使いのバージョンにより、次の操作に読み替えてください。

- RHEL-AS4(x86) ／ RHEL-ES4(x86) ／ RHEL-AS4(IPF) の場合
  /media/cdrecorder、/media/floppy
- RHEL5(x86) ／ RHEL5(Intel64) ／ RHEL-AS4(EM64T) ／ RHEL-ES4(EM64T) の場合
  /media/cdromy、/media/floppy

重 要

▶ RHEL5(x86)/RHEL5(Intel64) の場合、マウント処理は次の手順で行ってください。

```
# mkdir /media/cdrom
# mount /dev/cdrom /media/cdrom
または
# mkdir /media/floppy
# mount /dev/floppy /media/floppy
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ ServerView 名称について

ServerView とはサーバに付属する管理用ソフトの総称です。
「ServerView Operations Manager」は「ServerView エージェント」で監視しているサーバの情報を表示するソフトウェアです。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

<table>
<tr><th>製品名称</th><th colspan="2">本文中の表記</th></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2008 Standard
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter
Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Standard
Microsoft® Windows® Small Business Server 2008 Premium</td><td>Windows Server 2008 または
Windows Server 2008 (64-bit)</td><td rowspan="4">Windows</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems
Microsoft® Windows® Small Business Server 2003</td><td>Windows Server 2003</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition
Microsoft® Windows® Small Business Server 2003 R2
Microsoft® Windows® Storage Server 2003 R2, Standard Edition</td><td>Windows Server 2003 R2</td></tr>
<tr><td>Microsoft® Windows® XP Professional</td><td colspan="2">Windows XP</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Red Hat Enterprise Linux 5（for x86）</td><td>Red Hat Linux</td><td rowspan="7">Linux</td></tr>
<tr><td>RHEL5(x86)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux 5（for Intel64）</td><td>RHEL5(Intel64)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for x86）</td><td>RHEL-AS4(x86)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for x86）</td><td>RHEL-ES4(x86)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for EM64T）</td><td>RHEL-AS4(EM64T)</td></tr>
<tr><td>Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for EM64T）</td><td>RHEL-ES4(EM64T)</td></tr>
<tr><td>リモートサービスボード
（PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105）</td><td colspan="2">リモートサービスボード</td></tr>
</table>

■ Server Core インストールオプションについて

本書では Windows Server 2008 オペレーティングシステムを Server Core インストールオプションにてインストールした環境を Server Core と表記しています。

参考情報

■ サポート OS について

本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください。

■ ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、インターネット情報ページ（http://primeserver.fujitsu.com/primergy/）に記載されています。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

目　次

第 1 章　リモートマネジメントコントローラの概要

1.1　リモートマネジメントコントローラとは 10
1.1.1　機能 10
1.2　留意事項 11

第 2 章　準備

2.1　準備 13
2.1.1　IP アドレスの設定 13
2.1.2　ユーザ名とパスワードの設定 13
2.2　リモートマネジメントコントローラの通信プロトコル 14

第 3 章　起動と終了

3.1　Web インターフェースの起動 16
3.2　Web インターフェースの操作 18
3.2.1　Web インターフェースのメニュー一覧 19
3.3　Web インターフェースの終了 22

第 4 章　情報の参照と設定

4.1　システム情報 24
4.1.1　システムの概要 24
4.1.2　システム構成情報 26
4.2　iRMC S2 28
4.2.1　iRMC S2 情報 28
4.2.2　リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定 29
4.2.3　iRMC S2 ファームウェア設定の保存 30
4.2.4　認証データ アップロード 31
4.2.5　自己署名 RSA 証明書の作成 32
4.2.6　iRMC S2 ファームウェアアップデート 34
4.3　電源制御 36
4.3.1　Power On/Off 36
4.3.2　電源制御オプション 38
4.3.3　電源装置情報 39
4.4　電力制御 41
4.4.1　消費電力制御 41
4.4.2　現在のシステム消費電力 43
4.4.3　消費電力モニタリング履歴 44
4.5　センサ 46

4.5.1 ファン 46
4.5.2 温度 49
4.5.3 電圧 51
4.5.4 電源装置個別情報 52
4.5.5 センサの状態 53
4.6 システムイベントログ 54
4.6.1 システムイベントログ内容 54
4.6.2 システムイベントログ設定 56
4.7 サーバ管理情報 57
4.8 ネットワーク 59
4.8.1 ネットワーク インタフェース 59
4.8.2 ポート番号とネットワークサービス 61
4.8.3 DHCP 構成 62
4.8.4 DNS 構成 63
4.9 通知情報設定 64
4.9.1 SNMP トラップ送信設定 64
4.9.2 E-mail 設定 65
4.10 ユーザ管理 67
4.10.1 ユーザ管理 67
4.10.2 ディレクトリサービス構成 73
4.11 コンソールリダイレクション 75
4.11.1 BIOS テキストコンソール 75
4.11.2 ビデオリダイレクション（AVR） 77
4.11.3 ビデオリダイレクションの画面構成 82
4.11.4 マウスカーソルのシンクロ動作設定 83
4.11.5 リモートストレージ接続 86
4.11.6 グラフィカルキーボード 90
4.11.7 マウス、キーボードの設定 90
4.12 リモートストレージ 92
4.13 iRMC S2 SSH アクセス 94
4.13.1 接続方法と終了方法 95
4.13.2 メインメニュー 96
4.14 iRMC S2 Telnet アクセス 97
4.15 セッションログアウト 98

付　録

A LDAP を使用する場合の設定 100
A.1 ディレクトリ・サービスを利用する際に必要な設定 100
A.2 ディレクトリ・サービスの手動設定（iRMC S2 V3.77 より前の場合） . 101
A.3 SVS_LdapDeployer ツールを使用した LDAP 設定（iRMC S2 V3.77 以降の場合） 104
A.4 SSL copyright 122
B リモートストレージサーバツール 124

B.1　リモートストレージサーバツールのインストール 124
B.2　リモートストレージサーバツールの設定 128

第 1 章

リモートマネジメントコントローラの概要

この章では、リモートマネジメントコントローラの概要について説明しています。

1.1　リモートマネジメントコントローラとは . . . . . .　10
1.2　留意事項 . . . . . .　11

1.1 リモートマネジメントコントローラとは

リモートマネジメントコントローラとは、メインボード（On Board）に搭載される Baseboard Management Controller（BMC）にリモートサービスボード（RSB）の機能を付加し、リモート環境からサーバの状態確認や設定、電源制御などを行える機能です。
ここでは、リモートマネジメントコントローラにリモートからアクセスし、操作するための Web インターフェースについて説明します。

1.1.1 機能

● リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの機能

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースには、次の機能があります。

- システム情報の表示「4.1 システム情報」（→ P.24）
- サーバの操作（再起動、電源投入／切断）「4.3 電源制御」（→ P.36）
- 各センサの状態表示（ファン、温度、電圧、電源）「4.5 センサ」（→ P.46）
- ログの表示「4.6 システムイベントログ」（→ P.54）
- サーバ管理情報の表示と設定「4.7 サーバ管理情報」（→ P.57）
- ネットワークの設定「4.8 ネットワーク」（→ P.59）
- アラート送信「4.9 通知情報設定」（→ P.64）
- ユーザ情報の表示と設定「4.10 ユーザ管理」（→ P.67）
- ビデオリダイレクションとリモートストレージ接続「4.11 コンソールリダイレクション」（→ P.75）

重 要

- リモートマネジメントコントローラは、メインボード上では BMC（Baseboard Management Controller）の一部となるため、統合されて「iRMC S2」と表示されます。
- ビデオリダイレクション（AVR）およびリモートストレージ接続の機能を使用するには、専用のライセンスキー（オプション品）が別途必要です。
- 画面データおよび画面の説明は、機種、構成、版数により表示されない場合があります。

1.2 留意事項

リモートマネジメントコントローラをお使いになるうえでの留意事項について説明します。

■ セキュリティについて

リモートマネジメントコントローラの扱う情報の中には、管理者名などの個人情報や、その他の重要情報が含まれています。本装置を外部からアクセスできるドメインに設置する場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意いただくと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

■ その他の留意事項

- Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition（PRIMERGY ServerView Suite DVD 1 内に格納されている以降の版数）の JRE が必要です。
- リモートマネジメントコントローラアクセス用に個別の IP アドレスが必要です（DHCP でも可能です）。
- 機種により、リモートマネジメントコントローラに接続する LAN ポートが決まっています。サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』をご覧になり、正しい LAN ポートに接続してください。
- シリアル接続による制御は、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』をご覧ください。
- シリアル／モデム通知設定機能については、未サポートです。
- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースでは、次のブラウザのみをサポートします。
  - ・Windows ：Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
  - ・Linux ：Mozilla FireFox

重 要

- Mozilla FireFox は、V1.5.0.7 以降のバージョンをお使いください。
- Microsoft Internet Explorer 7 で iRMC S2 へアクセスすると何度もログインが要求される場合があります。その場合は、次の URL にあるマイクロソフトのパッチを適用してください。
  http://support.microsoft.com/kb/904942/ja

- リモートマネジメントコントローラを使用する場合、10MB 以上のネットワーク転送速度が必要となります。

第 2 章

準備

この章では、リモートマネジメントコントローラを使用する前の準備について説明しています。

2.1　準備 13
2.2　リモートマネジメントコントローラの通信プロトコル . . 14

2.1 準備

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースおよびリモートマネージャへのアクセス用に、IP アドレス／ユーザ名／パスワードを設定します。

2.1.1 IP アドレスの設定

初期状態では、DHCP が「有効」に設定されています。変更の必要がある場合は、IP アドレスの設定を行ってください。
IP アドレスを個別に設定する場合は、Web インターフェースを利用するか、BIOS セットアップユーティリティで設定してください。

POINT

- 現在設定されている IP アドレスが不明な場合は、BIOS セットアップユーティリティで確認できます。

2.1.2 ユーザ名とパスワードの設定

リモートマネジメントコントローラへアクセスするためのユーザ名とパスワードは、初期状態で次のように設定されています。

ユーザ名	パスワード	アクセスレベル／ 動作 Shell 種別
admin	admin	OEM / RemoteManager

ユーザ名とパスワードを個別に設定する場合は、Web インターフェース（「4.10.1 ユーザ管理」（→ P.67））を利用して設定してください。

2.2 リモートマネジメントコントローラの通信プロトコル

リモートマネジメントコントローラが使用する通信プロトコル、ポートおよび方向は次のとおりです。

リモート側［注 1］	通信方向	リモートマネジメントコントローラ（iRMC S2）側（ポート番号 / プロトコル）
RMCP	→	（623/UDP）
	←	（623/UDP）ACK など
HTTP ポート	→	（80/TCP）
	←	（80/TCP）ACK など
HTTPS ポート	→	（443/TCP）
	←	（443/TCP）ACK など
Telnet	→	（3172/TCP）
	←	（3172/TCP）ACK など
SSH	→	（22/TCP）
	←	（22/TCP）ACK など
Trap	→	（162/UDP）
E-mail	→	（25/TCP）
	←	（25/TCP）ACK など
リモートストレージ	→	（5901/TCP）
	←	（5901/TCP）ACK など
VNC ポート		
Standard ポート	→	（80/TCP）
	←	（80/TCP）ACK など
Secure ポート	→	（443/TCP）
	←	（443/TCP）ACK など

注 1：リモート側はすべて「outPort」を使用します。

第 3 章

起動と終了

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動と終了の方法について説明しています。

3.1 Web インターフェースの起動 16
3.2 Web インターフェースの操作 18
3.3 Web インターフェースの終了 22

3.1 Web インターフェースの起動

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースの起動方法について説明します。

POINT

- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースでは、Java または JavaScript を使用します。Web ブラウザ側で、Java または JavaScript を使用できるように設定してください。
- 自サーバのリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを自サーバの OS 上からアクセスする際、iRMC S2 の LAN ポートを OS の LAN ポートと共用している場合には、OS の該当 LAN ポートを無効に設定してください。
- iRMC S2 の Web インターフェースにおけるセッション可能数は 6 つまでです。

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動には、Web ブラウザを使用します。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレス欄に、次のように入力します。

▶http を利用する場合

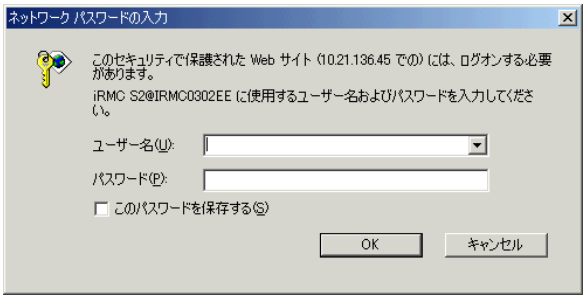
http:// ＜リモートマネジメントコントローラに設定した IP ＞ : ＜ポート番号（デフォルトは 80）＞

▶https を利用する場合

https:// ＜リモートマネジメントコントローラに設定した IP ＞ : ＜ポート番号（デフォルトは 443）＞

3 【Enter】キーを押します。

ネットワークパスワードの入力画面が表示されます。

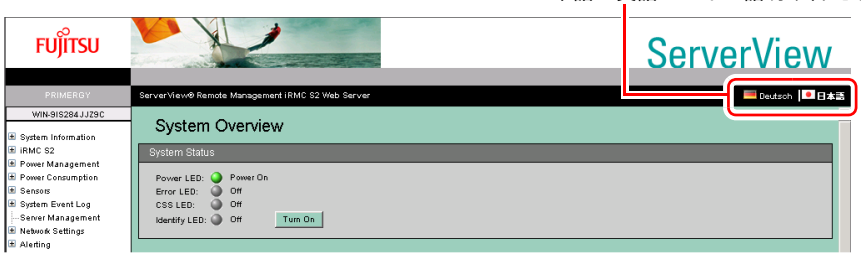


4 リモートマネジメントコントローラに設定したユーザ名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

Web インターフェースのメイン画面が表示されます。

5 日本語（日本語／英語／ドイツ語切り替えボタン）をクリックすると、日本語表示に切り替わります。

日本語／英語／ドイツ語切り替えボタン



Web インターフェース接続の自動切断時間（セッションタイムアウト時間）、および iRMC S2 の再起動によって自動ログアウトした場合は、英語表示になります。

POINT

- ServerView Operations Manager の「リモートマネージメント」画面からリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを起動することもできます。

3.2 Web インターフェースの操作

各設定画面の表示方法および、設定の操作について説明します。

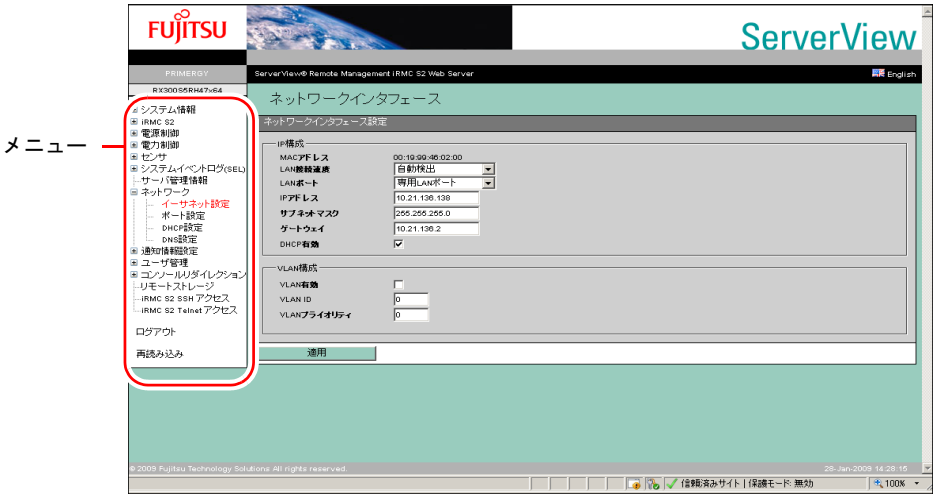
1 Web インターフェースのメイン画面を表示します。

「3.1 Web インターフェースの起動」（→ P.16）

2 画面左部のツリーメニューから、メニューを選択します。

「+」が付いているメニューは、下位メニューがあります。「＋」部分をクリックすると下位メニューが表示されます。

「3.2.1 Web インターフェースのメニュー一覧」（→ P.19）



3 情報を参照、または設定します。

設定値を変更した場合は、各項目で「適用」をクリックして反映します。
その他のボタンについては、各画面での説明をご覧ください。
各画面での詳細な説明については、「第 4 章 情報の参照と設定」（→ P.23）をご覧ください。

POINT

- Web インターフェース画面の再読み込みを行いたい場合は、メニューから「再読み込み」を選択します。

重要

- 各メニュー選択で表示される画面の URL は変更しないでください。変更した場合は、サポートの対象外となります。

3.2.1 Web インターフェースのメニュー一覧

Web インターフェースのメニューについて説明します。

メニュー	説明
システム情報	リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムの情報を表示します。
システムの概要	システムの概要情報が表示されます。 「4.1.1 システムの概要」（→ P.24）
システムの構成情報	システムの内部構成情報が表示されます。 「4.1.2 システム構成情報」（→ P.26）
iRMC S2	リモートマネジメントコントローラに関する表示、設定を行います。
iRMC S2 情報	リモートマネジメントコントローラに関する情報を表示します。 「4.2.1 iRMC S2 情報」（→ P.28）
設定の保存	リモートマネジメントコントローラの情報をセーブします。 「4.2.3 iRMC S2 ファームウェア設定の保存」（→ P.30）
認証データ設定	リモートマネジメントコントローラの認証データを設定します。 「4.2.4 認証データ アップロード」（→ P.31）
証明書の作成	リモートマネジメントコントローラで RSA 認証を取得します。 「4.2.5 自己署名 RSA 証明書の作成」（→ P.32）
電源制御	電源制御に関する設定を行います。
Power On/Off	サーバの電源状態を表示します。また、サーバの電源の ON/OFF や再起動を行います。 「4.3.1 Power On/Off」（→ P.36）
電源制御オプション	AC 復帰時の動作設定やスケジュール運転の設定を行います。 「4.3.2 電源制御オプション」（→ P.38）
電源ユニット情報	サーバに搭載されている電源装置（Power Supply）の情報を表示します。 「4.3.3 電源装置情報」（→ P.39）
電力制御	消費電力に対する動作設定を行います。
電力制御オプション	サーバの消費電力に対する動作を指定します。 「4.4.1 消費電力制御」（→ P.41）
現在の消費電力	サーバの現在の消費電力を表示します。 「4.4.2 現在のシステム消費電力」（→ P.43）
消費電力履歴	サーバの消費電力のモニタリング結果を表示します。 「4.4.3 消費電力モニタリング履歴」（→ P.44）

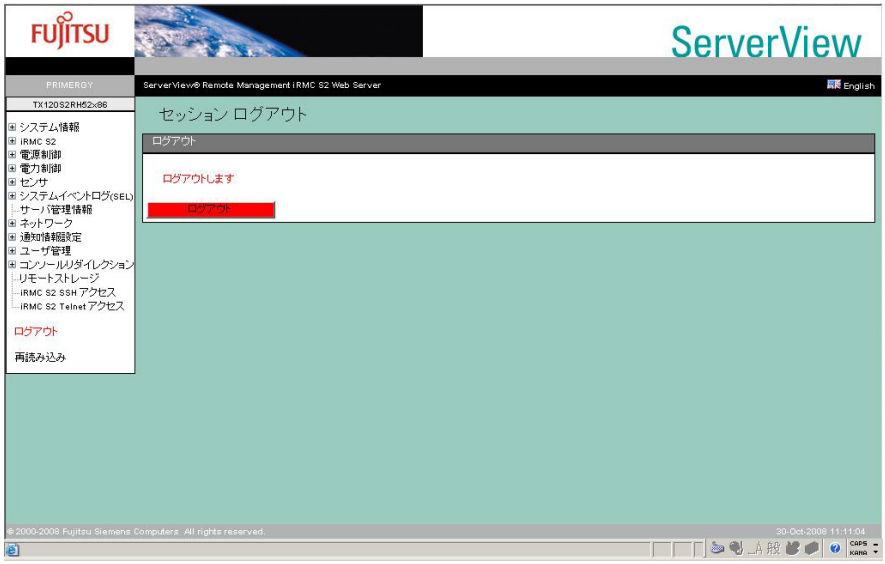
メニュー	説明
センサ	サーバ内の各センサの状態を表示します。 サーバによっては表示されないメニューがあります。
ファン	ファンの状態表示と異常時の動作設定を行います。 「4.5.1 ファン」（→ P.46）
温度	温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行います。 「4.5.2 温度」（→ P.49）
電圧	サーバ内の電圧と電流の状態を表示します。 「4.5.3 電圧」（→ P.51）
電源ユニット	サーバに搭載されている電源ユニット（PSU）の状態を表示します。 「4.5.4 電源装置個別情報」（→ P.52）
コンポーネント	各センサの状態を表示します。 「4.5.5 センサの状態」（→ P.53）
システムイベントログ (SEL)	メインボード上に格納されているシステムイベントログを表示します。
SEL の表示	イベントログを表示／クリアを行います。 「4.6.1 システムイベントログ内容」（→ P.54）
SEL の設定	イベントログに関する設定を行います。 「4.6.2 システムイベントログ設定」（→ P.56）
サーバ管理情報	サーバ管理情報の表示とサーバの起動や再起動の設定を行います。 「4.7 サーバ管理情報」（→ P.57）
ネットワーク	リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定を行います。
イーサネット設定	リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどを設定します。 「4.8.1 ネットワーク インタフェース」（→ P.59）
ポート設定	ポート番号を設定します。 「4.8.2 ポート番号とネットワークサービス」（→ P.61）
DHCP 設定	DHCP の設定を行います。 「4.8.3 DHCP 構成」（→ P.62）
DNS 設定	DNS の設定を行います。 「4.8.4 DNS 構成」（→ P.63）
通知情報設定	SNMP トラップや E-mail の送信設定を行います。
SNMP トラップ設定	SNMP トラップの送信設定を行います。 「4.9.1 SNMP トラップ送信設定」（→ P.64）
シリアル／モデム設定	シリアルポート／モデムの設定を行います。未サポートです。 サーバによっては、本メニューは表示されません。
E-mail 設定	送信する E-mail の設定を行います。 「4.9.2 E-mail 設定」（→ P.65）
ユーザ管理	リモートマネジメントコントローラで使用するユーザの情報を設定します。
iRMC S2 ユーザ管理	リモートマネジメントコントローラにログインするユーザ情報を設定します。 「4.10.1 ユーザ管理」（→ P.67）
LDAP 構成設定	ディレクトリサービスを利用する場合の設定を行います。 「4.10.2 ディレクトリサービス構成」（→ P.73）

メニュー	説明
コンソールリダイレクション	コンソールリダイレクションに関する設定、起動を行います。
BIOS テキスト	テキストコンソールリダイレクションを行う場合の設定を行います。 「4.11.1 BIOS テキストコンソール」（→ P.75）
ビデオ（AVR）	ビデオリダイレクションを起動します。リモートでコンソールのリダイレクションを行う場合の設定を行います。また、リモートストレージの設定を行います。 「4.11.2 ビデオリダイレクション（AVR）」（→ P.77）
リモートストレージ	リモートストレージ接続状態表示、および外部起動ディスクの設定を行います。 「4.12 リモートストレージ」（→ P.92）
iRMC S2 SSH アクセス	リモートマネジメントコントローラへの SSH アクセス画面を起動します。 「4.13 iRMC S2 SSH アクセス」（→ P.94）
iRMC S2 Telnet アクセス	リモートマネジメントコントローラへの Telnet アクセス画面を起動します。 「4.14 iRMC S2 Telnet アクセス」（→ P.97）
ログアウト	リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのセッションからログアウトします。 「4.15 セッションログアウト」（→ P.98）
再読み込み	リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェース画面の再読み込みを行います。

3.3 Web インターフェースの終了

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースの終了方法について説明します。

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了する場合は、メニューの「ログアウト」からログアウトしてください。



重 要

- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了する場合は、必ずメニューの「ログアウト」からログアウトしてください。ログアウトせずに Web ブラウザを終了した場合、セッションタイムアウト時間（「4.8.2 ポート番号とネットワークサービス」（→ P.61））で設定された時間に自動的にログアウトされます。

第 4 章

情報の参照と設定

4

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの各画面の意味と設定について説明しています。

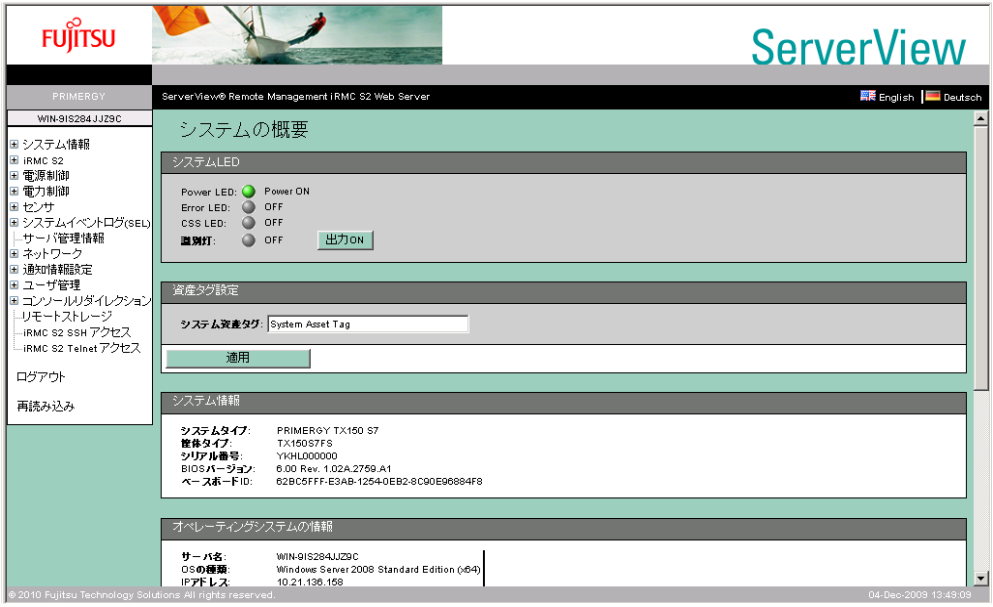
4.1 システム情報 24
4.2 iRMC S2 28
4.3 電源制御 36
4.4 電力制御 41
4.5 センサ 46
4.6 システムイベントログ 54
4.7 サーバ管理情報 57
4.8 ネットワーク 59
4.9 通知情報設定 64
4.10 ユーザ管理 67
4.11 コンソールリダイレクション 75
4.12 リモートストレージ 92
4.13 iRMC S2 SSH アクセス 94
4.14 iRMC S2 Telnet アクセス 97
4.15 セッションログアウト 98

4.1 システム情報

リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムのシステム情報を表示します。

4.1.1 システムの概要

システムの概要情報が表示されます。



項目	説明
システム LED	システム LED の状態を表示します。
Power LED	サーバ前面の電源ランプの状態を表示します。 サーバによっては本項目は表示されません。
Error LED	サーバ前面の Error LED の点灯（On）／消灯（Off）が表示されます。
CSS LED	サーバでユーザが交換可能なメモリや CPU の異常（予兆）がある場合に点灯します。
識別灯	サーバのシステム識別灯の点灯（On）／消灯（Off）が表示されます。 情報名の右側に表示されている「出力 ON」／「出力 OFF」をクリックすることによって、点灯（On）／消灯（Off）を切り替えることができます。サーバによっては本項目は表示されません。
資産タグ設定	情報が入力でき、資産管理に利用することができます。
システム資産タグ	システムの資産管理に使用できます。40 桁まで入力できます。 使用可能文字種は 7Bit ASCII コードの文字です。その中で次の記号は問題が発生する可能性があるため、使用しないようにしてください。 ＞ ＜ " / ¥ ＝ ！ ？ ； ， ＆

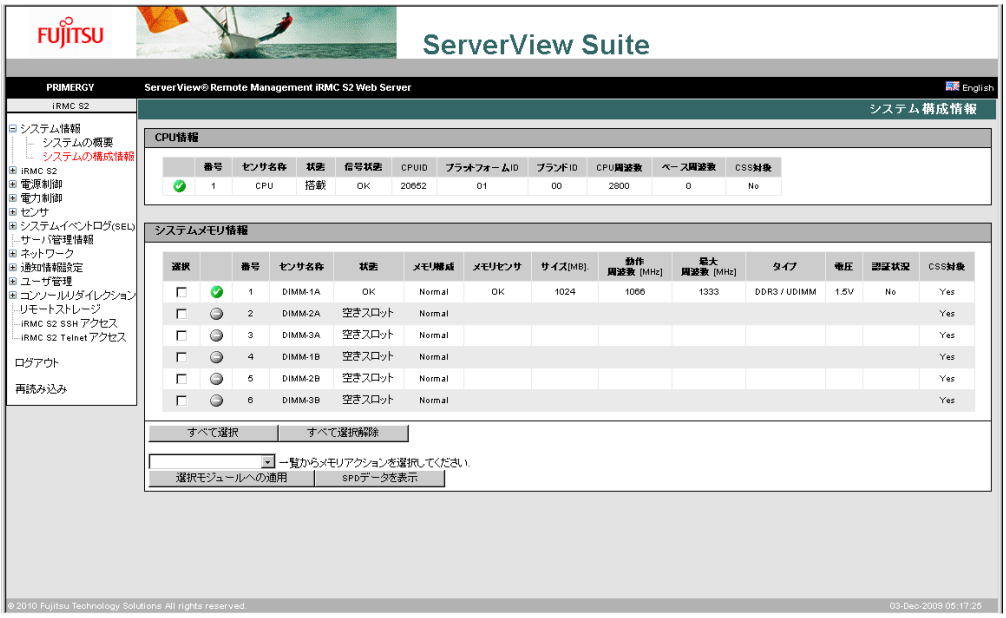
項目	説明
システム情報	メインボードの情報が表示されます。
システムタイプ	サーバのシステムタイプが表示されます。
筐体タイプ	サーバのシャーシタイプが表示されます。
シリアル番号	メインボードのシリアル番号が表示されます。
BIOS バージョン	BIOS のバージョンが表示されます。
ベースボード ID	メインボード ID が表示されます。
オペレーティングシステムの情報	OS の情報が表示されます。
サーバ名	OS で設定されたサーバ名が表示されます。
OS の種類	OS の種類が表示されます。
IP アドレス	OS に設定された IP アドレスが表示されます。
場所	OS の SNMPService に設定されたシステムの場所が表示されます。
管理者	OS の SNMPService に設定された管理者名が表示されます。
ハードウェア情報	ハードウェアの情報が表示されます。
ハードウェア部品名	ハードウェアに設定されている部品名です。
製造会社	各部品の製造会社が表示されます。
情報タイプ	ハードウェア情報のタイプが表示されます。
製品名 / モデル	製品名、またはモデル名が表示されます。
シリアル番号	シリアル番号が表示されます。
部品番号	個体番号が表示されます。
バージョン / その他	バージョン情報が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。
他のハードウェア情報	上記以外にハードウェア情報がある場合に表示されます。
ハードウェア部品名	ハードウェアに設定されている部品名です。
製造会社	各部品の製造会社が表示されます。
情報タイプ	ハードウェア情報のタイプが表示されます。
製品名 / モデル	製品名、またはモデル名が表示されます。
シリアル番号	シリアル番号が表示されます。
部品番号	個体番号が表示されます。
バージョン / その他	バージョン情報が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。
現在の全体消費電力	現在の消費電力量を表示します。サーバの電源が OFF 状態のとき、この項目は表示されません。
現在の電力	現在の消費電力量です。
最小電力	現在の最小電力量です。
ピーク電力	現在の最大電力量です。
平均電力	現在の平均電力量です。
現在値 / 合計値電力	現在の消費電力量／最大消費電力量です。

POINT

- 「場所」および「管理者」に日本語を使用している場合、文字化けして表示されます。この場合、WEB ブラウザのエンコードを、自動選択または日本語（シフト JIS）に変更してください。

4.1.2 システム構成情報

システムの内部構成情報が表示されます。



項目	説明
CPU 情報	CPU の情報が表示されます。
番号	CPU の通し番号が表示されます。
センサ名称	CPU のセンサ名が表示されます。
状態	CPU の有無が表示されます。
信号状態	CPU の状態が表示されます。
CPU ID	CPU の ID が表示されます。
プラットフォーム ID	CPU のプラットフォーム ID が表示されます。
ブランド ID	CPU のブランド ID が表示されます。
CPU 周波数	CPU の動作周波数が表示されます。
ベース周波数	CPU のベースクロック周波数が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

項目	説明
システムメモリ情報	サーバ搭載メモリ情報が表示されます。
選択	メモリアクション（コレクタブルエラーカウンタのクリア）を実施するメモリを選択します。 **注意事項：** ▶ **この操作は保守操作です。「状態」表示が「OK」のメモリに対して実施した場合、エラーカウントがクリアされ、メモリの予兆監視が正しく行われなくなります。**
番号	メモリカードの通し番号が表示されます。
センサ名称	メモリのセンサ名が表示されます。
状態	メモリスロットの搭載有無が表示されます。
メモリ構成	メモリの構成情報が表示されます。
メモリセンサ	メモリの状態が表示されます。
サイズ [MB]	メモリのサイズが「MB」単位で表示されます。
動作周波数	メモリの動作周波数が「MHz」単位で表示されます。
最大周波数	メモリの最大動作周波数が「MHz」単位で表示されます。
タイプ	メモリのタイプが表示されます。
電圧	メモリの電圧が表示されます。
認証状況	メモリの認証状況を表示します（N/A、NO でも問題ありません）。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。
「SPD データ表示」	メモリのベンダ情報を表示します。

4.2 iRMC S2

リモートマネジメントコントローラに関する情報の表示／設定を行います。

4.2.1 iRMC S2 情報

リモートマネジメントコントローラの情報表示、設定を行います。

項目	説明
動作中ファームウェア	動作中のファームウェアに関する情報が表示されます。
iRMC バージョン	iRMC S2 のバージョンが表示されます。
ファームウェア作成日	iRMC S2 ファームウェアの作成日が表示されます。
動作中ファームウェア	動作中のファームウェア番号（ROM 内番号）が表示されます。
ハードウェアバージョン	サーバのハードウェアのバージョンが表示されます。
SDRR バージョン	センサ、しきい値を定義した情報のバージョンが表示されます。
実行中のセッション情報	iRMC S2 に接続しているマシンの情報です。
IP アドレス	接続している（していた）マシンの IP アドレスが表示されます。
ユーザ名	iRMC S2 へのログイン ID が表示されます。
ユーザ ID	ログイン ID のユーザ番号です。「4.10 ユーザ管理」（→ P.67）
接続プロトコル	接続プロトコルが表示されます。
アクセス権限	アクセス権限が表示されます。
アクセス形態	アクセス形態が表示されます。
リモートポート	接続マシンの使用ポートが表示されます。

項目	説明
iRMC S2 その他のオプション	Web インターフェースのデフォルト表示設定を行います。 サーバによっては本項目は表示されません。
デフォルト言語	表示言語を指定します。 ・English ・Deutsch ・日本語
温度単位	温度表示単位を指定します。 ・摂氏温度 ・華氏温度
デザイン	画面スタイルを指定します。どちらのバージョンも表示項目は同じです。 ・スタイルガイド Version1 ・スタイルガイド Version2

POINT

- サーバの OS 上で ServerView エージェントが動作している場合、iRMC S2 のリブート実施後、ServerView エージェントの再起動が行われます。

4.2.2 リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定

リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定を行います。

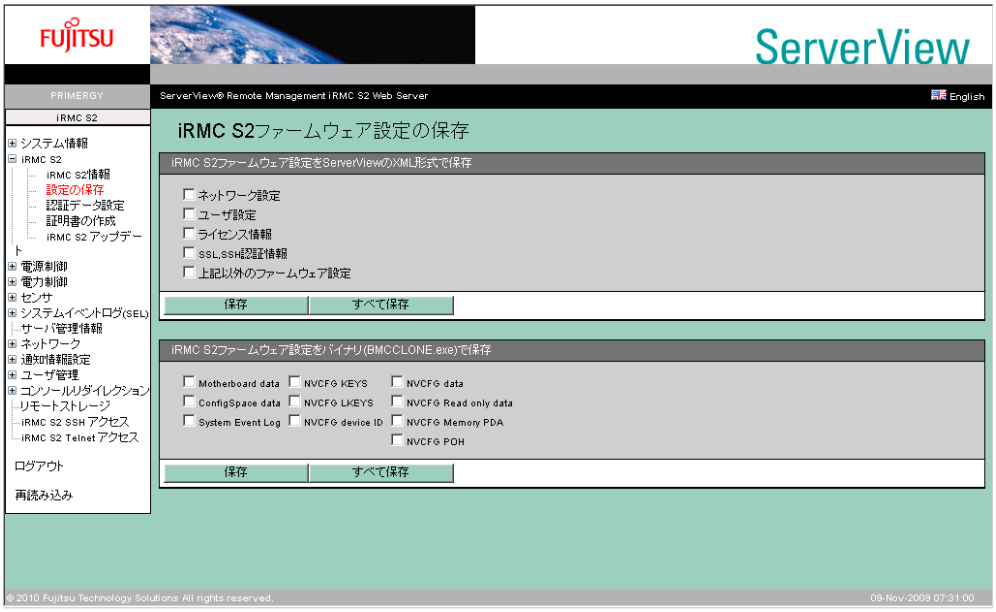
項目	説明
ライセンスキー	マネジメントコントローラのライセンスキーを操作します。 ライセンスキーが不要なサーバでは、本項目は表示されません。
「アップロード」	リモートマネジメントコントローラのライセンスを承認します。ライセンスが承認されるとビデオリダイレクション、リモートストレージ機能が使用可能になります。

POINT

- ライセンスキー、およびライセンスの設定方法の詳細はリモートマネジメントコントローラアップグレードのマニュアルをご覧ください。ライセンスが承認されていない状態ではビデオリダイレクション、リモートストレージ機能が使用できません。
  それぞれの機能については、「4.11.2 ビデオリダイレクション（AVR）」（→ P.77）、「4.11.5 リモートストレージ接続」（→ P.86）をご覧ください。

4.2.3 iRMC S2 ファームウェア設定の保存

リモートマネジメントコントローラの設定情報データをバックアップします。



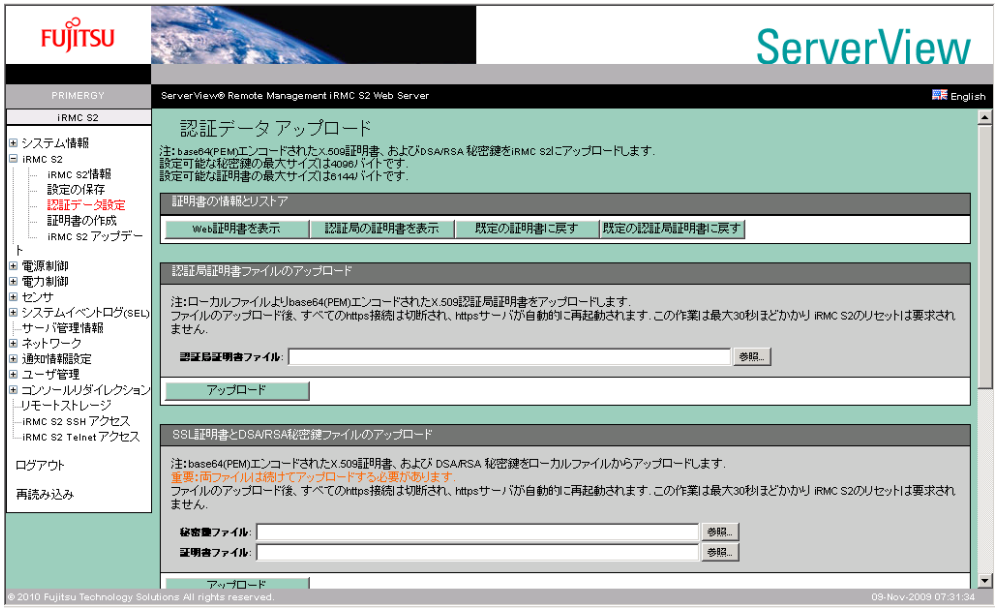
項目	説明
iRMC S2 ファームウェア設定を ServerView の XML 形式で保存	選択した項目を Windows 用 ServerViewAgent の SystemConfigurationUtility でインポート可能な XML 形式でセーブします。
iRMC S2 ファームウェア設定をバイナリ (BMCCLONE.exe) で保存	選択した項目を BMCCLONE.exe ツールでインポート可能なバイナリ形式でセーブします。

POINT

- BMCCLONE.exe ツールは保守作業者向けツールです。一般には提供されません。
- Server Core では ServerViewAgent の SystemConfigurationUtility がないため、保存したデータをインポートできません。

4.2.4 認証データ アップロード

リモートマネジメントコントローラの認証データをアップロードします。



項目	説明
証明書の情報とリストア	
「Web 証明書を表示」	適用されている Web 証明書が表示されます。
「認証局の証明書を表示」	適用されている認証局の証明書が表示されます。
「既定の証明書に戻す」	デフォルトの Web 証明書に戻します。
「既定の認証局証明書に戻す」	デフォルトの認証局の証明書に戻します。
認証局証明書ファイルのアップロード	認証局（CA）証明書を適用します。
認証局証明書ファイル	認証局（CA）証明書ファイルを指定します。「参照」をクリックすると、ファイルを選択できます。
「アップロード」	認証局（CA）証明書を適用します。
SSL 証明書と DSA/RSA 秘密鍵ファイルのアップロード	公的認証機関や独自の認証機関で作成された秘密鍵ファイル、および証明書ファイルを適用します。
秘密鍵ファイル	秘密鍵ファイルを指定します。「参照」をクリックすると、ファイルを選択できます。
証明書ファイル	証明書ファイルを指定します。「参照」をクリックすると、ファイルを選択できます。
「アップロード」	秘密鍵、および証明書を適用します。適用には秘密鍵ファイル、証明書ファイルの両方が必要です。
コピー & ペーストでの SSL DSA/RSA 証明書、および DSA/RSA 秘密鍵をアップロード	「秘密鍵」、「証明書」をファイルではなく、データ形式で適用します。テキストボックスに「秘密鍵」、「証明書」を貼り付けてください。
「アップロード」	テキストボックス内のデータを適用します。

POINT

- 証明書の秘密鍵は暗号化なしの Key を使用してください。

4.2.5 自己署名 RSA 証明書の作成

リモートマネジメントコントローラで RSA 認証データを取得します。

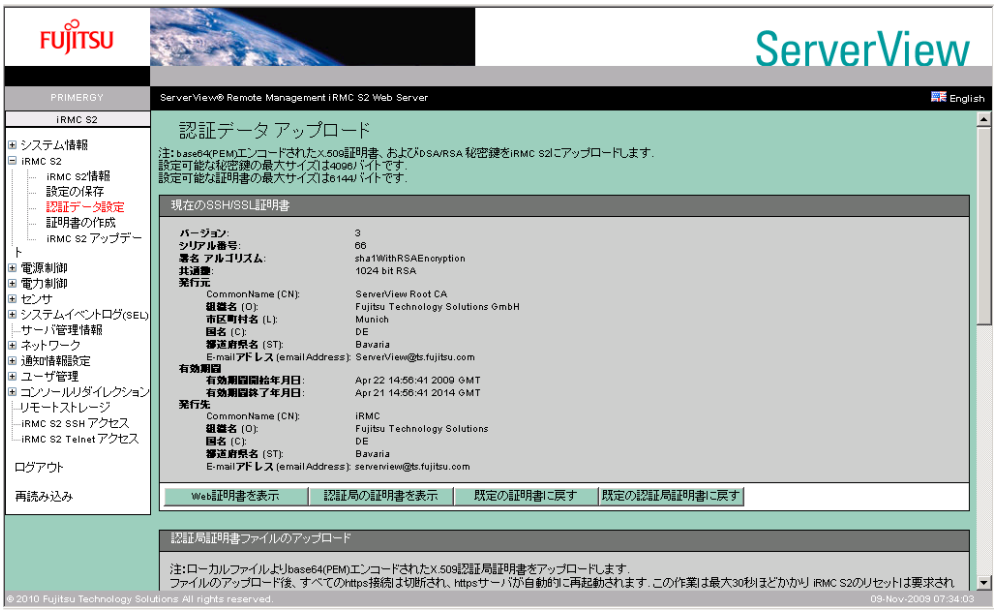
項目	説明
証明書の情報とリストア	証明書の情報とリストア
「Web 証明書を表示」	現在設定されている認証 RSA データが表示されます。
「既定の証明書に戻す」	認証 RSA データをデフォルト設定に戻します。

項目	説明
証明書の作成	証明書を作成します。認証機関が使用できない場合、iRMC S2 内で証明書を作成します。
CommonName（CN）	iRMC S2 のアクセス名を指定します（ドメイン込みで指定）。
組織名（O）	組織（会社）名を指定します。例：FUJITSU
部署名（OU）	所属名を指定します。例：Solution Center
国名（C）	国を指定します。日本は「JP」、アメリカは「US」など 2 字で指定します。
都道府県名（ST）	都道府県名を指定します。
市区町村名（L）	市区町村名を指定します。
E-mail アドレス	E-Mail アドレスを指定します。
有効期間開始年月日	証明書の有効開始日です。指定できません。
有効期日［日］	証明書の有効期間を日で指定します。デフォルトは 730 日（2 年）です。
暗号キー長［bits］	暗号化のキー長を bit で指定します。デフォルトは 1024bit です。
「作成」	上記指定内容で証明書を作成します。作成には 5 分程度かかります。作成後は自動的に iRMC S2 へ適用されます。

POINT

- 「CommonName（CN）」、「有効期日［日］」、「暗号キー長［bits］」の設定だけでも証明書を作成することができます。

「Web 証明書を表示」をクリックすると、現在設定されている認証 RSA データが次のとおり表示されます。



4.2.6 iRMC S2 ファームウェアアップデート

iRMC S2 のファームウェアを選択、アップデートします。

項目	説明
ファームウェア情報	現在インストールされているファームウェアの情報が表示されます。
ファームウェア	インストールされているファームウェアの通番です。
起動プログラム	iRMC S2 の起動プログラムバージョンが表示されます。
ファームウェアバージョン	iRMC S2 のバージョンが表示されます。
SDRR バージョン	センサ、しきい値を定義した情報のバージョンが表示されます。
SDRR ID	SDRR の ID 番号が表示されます。
チェックサム	iRMC S2 ファームウェアのチェックサム結果が表示されます。
状態	インストールされているファームウェアの使用状態が表示されます。
ファームウェア変更	使用するファームウェアを選択します。
「適用」	設定の適用ボタンです。
ファイルからのファームウェアアップデート	iRMC S2 のファームウェアファイルを使用したファームアップデートを行います。
Flash 書き込み先の選択	上書きするファームウェアを選択します。 ・自動 - 不活性なファームウェア 使用していないファームウェアに上書きします。 ・ファームウェア 1 ファームウェア 1 に上書きします。 ・ファームウェア 2 ファームウェア 2 に上書きします。
アップデートファイル	ファームウェアのファイルを指定します。
「適用」	ファイルからのファームウェアアップデートを開始します。

項目	説明
iRMC S2 TFTP 設定	TFTP を使用したファームアップデートを行います。
TFTP サーバ	TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
アップデートファイル	アップデートするファームウェア名を指定します。
Flash 書き込み先の選択	上書きするファームウェアを選択します。 ・自動 - 不活性なファームウェア 使用していないファームウェアに上書きします。 ・ファームウェア 1 ファームウェア 1 に上書きします。 ・ファームウェア 2 ファームウェア 2 に上書きします。
「適用」	設定を適用します。ファームウェアアップデートは開始されません。
「TFTP テスト」	TFTP サーバとの接続をテストします。
「TFTP 開始」	TFTP を使用したファームウェアアップデートを開始します。

POINT

- TFTP からのファームウェアアップデートを行う場合、事前に TFTP サーバ環境を用意する必要があります。

4.3 電源制御

サーバの電源に関する設定を行います。

4.3.1 Power On/Off

サーバの電源の ON/OFF、再起動などの設定を行います。

項目	説明
電源状態概要	現在の電源状態が表示されます。
電源状態	現在のサーバの電源状態が ON/OFF で表示されます。
電源投入からの稼働時間	サーバの電源状態が "ON" になってから現在までの、総稼働時間が表示されます。
電源投入要因	サーバの電源投入要因が表示されます。
電源切断要因	サーバの電源切断要因が表示されます。

項目	説明
起動オプション	サーバ起動時の設定を行います。
POST エラー時の動作	起動時にエラーが発生した場合のサーバの対応動作を設定します。設定値は次のとおりです。リストから選択します。 ・起動継続 起動時にエラーが発生しても、起動処理を続けます。 ・起動停止 起動時にエラーが発生すると、オペレータの介入があるまで起動を停止します。
起動デバイス選択	起動するデバイスを選択します。設定値は次のとおりです。リストから選択します。 ・変更しない BIOS に設定されているデバイスを使用します。 ・PXE/iSCSI PXE/iSCSI 装置より起動します。 ・Hard-drive ハードディスク装置より起動します。 ・CDROM/DVD CD-ROM/DVD 装置より起動します。 ・Floppy フロッピーディスクより起動します。
電源制御	サーバの電源制御を行います。各項目の動作は次のとおりです。 ・電源投入 サーバの電源が入ります。 ・電源切断 システム情報などを保存せずに、ただちにサーバの電源が切断されます。 ・ハードリセット システム情報などを保存せずに、ただちにサーバがリセットされます。 ・電源 Off-ON システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断され、その直後に電源が投入されます。 ・電源切断（シャットダウン） システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断されます。 ・リセット（シャットダウン） システム情報などを保存してから、サーバの電源がリセットされます。 ・NMI 発行 NMI 信号を発行します。 NMI がサポートされている装置でのみ動作します。 ・電源ボタンを押す 電源ボタンを押した場合の動作を行います（4 秒未満の短押下）。 BIOS に設定されている動作が実行されます。 BIOS に設定がない機種は、ハード的に設定されている動作を行います。

4.3.2 電源制御オプション

AC 電源復帰時の動作設定、およびサーバの自動電源投入、自動電源切断のスケジュール設定を行います。

項目	説明
電源復旧時動作設定	停電などによってサーバの電源断が起こった場合の、電源復旧時の動作を設定します。 ・電源投入しない サーバは電源復旧の動作を行いません。 ・電源投入する サーバは自動で電源復旧の動作を行います。 ・電源断前の状態に戻す サーバの電源断が起こる直前の状態に戻します。 サーバの電源断前の状態が「On」：自動で電源復旧の動作を行います。 サーバの電源断前の状態が「Off」：電源復旧の動作を行わず、電源断の状態を維持します。
自動電源投入 / 切断時刻設定	サーバが自動で行う電源投入の時刻と電源切断の時刻を設定します。 時刻は、hh:mm 形式（hh：00 ～ 23 の 2 桁の時、mm：00 ～ 59 の 2 桁の分）で入力します。毎日、または曜日を指定して設定できます。 サーバの電源投入／切断を行う内容の Trap を送信できます。 サーバの電源投入／切断のどれくらい前に Trap を送信するかを「Trap」に分単位で指定します。

4.3.3 電源装置情報

サーバに搭載されている電源装置（Power Supply）の情報を参照します。

項目	説明
電源装置個別情報 'PSUn' ハードウェア情報	電源装置 'PSUn' に関する情報が表示されます。
ハードウェア部品名	サーバに定義されている電源装置名が表示されます。
製造会社	製造会社が表示されます。
情報タイプ	ハードウェア情報のタイプが表示されます。
製品名 / モデル名	個体名またはモデル名が表示されます。
シリアル番号	シリアル番号が表示されます。
部品番号	部品番号が表示されます。
バージョン / その他	バージョン情報が表示されます。
CSS 対象	ユーザ交換の可／不可が表示されます。
出力ケーブル番号	出力ケーブル番号が表示されます。
待機電力	待機電力の有／無が表示されます。
定格出力電圧	定格出力電圧が表示されます。
最小出力電圧	最小出力電圧が表示されます。
最大出力電圧	最大出力電圧が表示されます。
出力値誤差	出力値の誤差が表示されます。
最小出力電流	最小出力電流が表示されます。
最大出力電流	最大出力電流が表示されます。
出力許容電力	出力許容電力が表示されます。
最高出力電力	最高出力電力が表示されます。
最高出力許容時間	最高出力の継続可能時間が表示されます。

項目		説明
	出力電流	出力電流が表示されます。
	出力電流インターバル	出力電流のインターバルが表示されます。
	入力範囲 1	入力電力の範囲 1 が表示されます。
	入力範囲 2	入力電力の範囲 2 が表示されます。
	入力周波数	入力電力の周波数が表示されます。
	瞬断耐性	瞬断に対する耐性が表示されます。

POINT

- 「電源装置情報」は電源装置の種類によっては表示されない項目があります。

4.4 電力制御

サーバの消費電力に関する設定を行います。

4.4.1 消費電力制御

サーバの消費電力に関する設定を行います。

項目	説明
電力制御オプション	サーバの消費電力に対する設定を行います。
電力制御	サーバの消費電力に対する動作を設定します。 ・電力制御．無効 消費電力に対する特別な動作は行いません。 ・性能優先動作 消費電力にかかわらず性能が最大となる動作にします。 ・省電力動作 消費電力を最も抑える動作にします。 ・スケジュール 曜日、時間単位で動作を切り替えるスケジュールを有効にします。 ・電力制限 消費電力の電力制限、警告しきい値を設定し、これらの設定値を超えた場合の動作を指定します。 **注意事項：** ▶ サーバによっては「電力制限」は表示されません。

項目		説明
	消費電力監視単位	消費電力モニタリングを行う場合の電力表示単位を指定します。 ・Watt 消費電力をワット単位で表示します。 ・BTU/h 消費電力を英熱量（British Thermal Unit）単位で表示します。
	消費電力モニタリング有効	消費電力をモニタリングします。
電力制限オプション		「電力制御」で「電力制限」を選択した場合、この項目での電力制御設定が有効になります。
	電力制限	電力制限値（Watt ／ BTU ／ h）を設定します。現在の電力値から最大電力値まで設定できます。
	警告しきい値	警告しきい値（%）を設定します。消費電力が、このしきい値を超えた場合、アラートを発生させます。
	電力制限据置時間	「電力制限」で設定された値がここで設定した時間（分）を経過すると、「電力制限到達時の動作」で設定された動作を行います。0 ～ 600 まで設定できます。
	電力制限到達時の動作	「電力制限」で設定された値が据置時間を経過した場合の動作を設定します。 ・継続稼動する ・電源切断（シャットダウン） ・電源切断
	動的な電力制御を有効にする	動的な電力制御が有効になります。
電力制御スケジュール		「電力制御」で「スケジュール」を選択した場合、この項目でのスケジュール設定が有効になります。 設定方法については、「■ 電力制御スケジュール設定」（→ P.42）をご覧ください。

POINT

- 電力制御機能で電力制御を行う場合は、BIOS セットアップユーティリティの「Advanced」メニュー内にある「Processor Power Management」または「Enhanced SpeedStep」設定を有効にしてください。無効の場合、「電力制御」項目の設定は変更できません。
  ただし、サーバによっては電力制御機能がサポートされてない場合があります。その場合、「電力制御」の項目は、グレーアウト表示されます。

■ 電力制御スケジュール設定

「電力制御」で「スケジュール」を設定した場合、曜日ごと、または各曜日 2 回までの消費電力に対する動作スケジュールが設定できます。

1 設定を行いたい曜日の「時刻 1」、または「時刻 2」に動作を開始する時刻を入力します。

2 入力した時刻に開始される動作を「モード 1」、または「モード 2」で選択します。

選択できる動作は「 電力制御」（→ P.41）と同じです（スケジュールは除く）。

3 「適用」をクリックします。

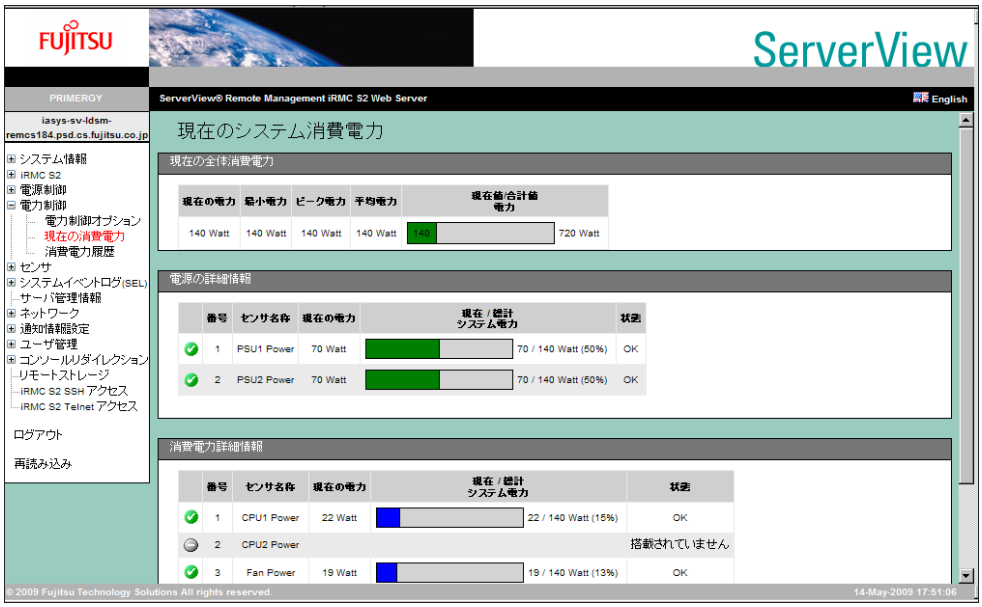
設定内容が適用され、設定した曜日の設定した時刻に、選択した動作が開始されます。

POINT

- 時刻は、hh:mm 形式（hh：00 ～ 23 の 2 桁の時、mm：00 ～ 59 の 2 桁の分）で入力します。
- 時刻 1 と時刻 2 に同じ時刻を設定した場合、時刻 2 の動作となります。
- すべての曜日に同じ設定を行いたい場合、「毎日」に設定するとすべての曜日に反映されます。
- 設定を無効にする場合は、入力してある設定時刻を消して、「適用」をクリックしてください。
- 電力制限オプションは、曜日ごとに異なる内容を設定できません。

4.4.2 現在のシステム消費電力

サーバの現在の消費電力を表示します。サーバの電源が OFF 状態のときには、この画面は表示されません。



項目		説明
現在の全体消費電力		現在の消費電力量を表示します。
	現在の電力	現在の消費電力量です。
	最小電力	現在の最小電力量です。
	ピーク電力	現在の最大電力量です。
	平均電力	現在の平均電力量です。
	現在値 / 合計値電力	現在の消費電力量／最大消費電力量です。
電源の詳細情報		電源ユニット（PSU）ごとの消費電力量を表示します。
	番号	電源ユニットの通し番号が表示されます。
	センサ名称	電源ユニット名が表示されます。
	現在の電力	現在の消費電力量です。
	現在 / 総計システム電力	現在の消費電力量／合計の消費電力量です。
	状態	電源ユニットの状態が表示されます。

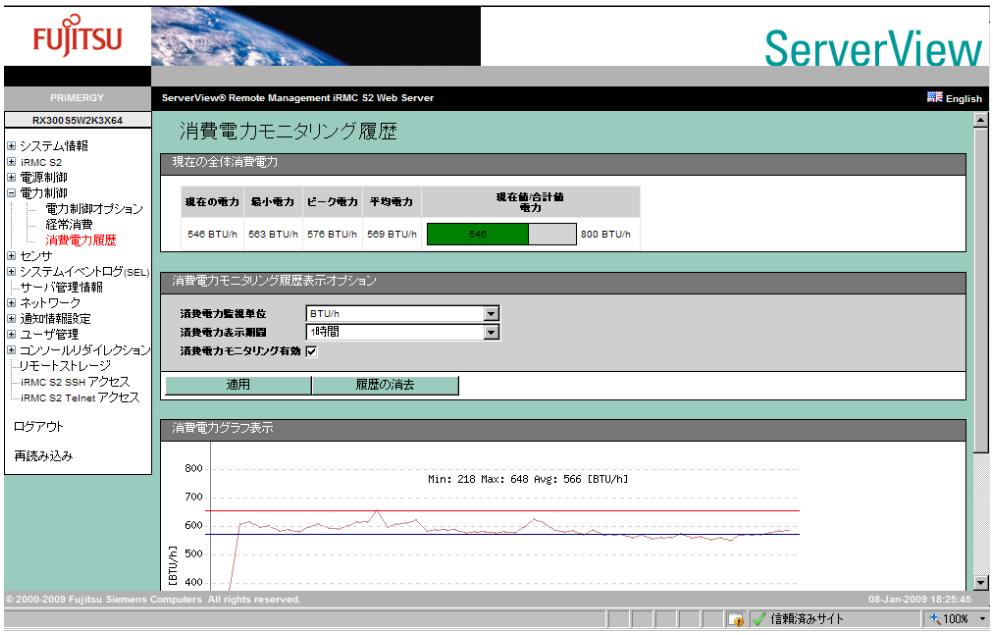
項目		説明
消費電力詳細情報		消費電力センサの情報が表示されます。
	番号	消費電力センサの通し番号が表示されます。
	センサ名称	消費電力センサ名が表示されます。
	現在の電力	現在の消費電力量です。
	現在 / 総計システム電力	現在の消費電力量／合計の消費電力量です。
	状態	消費電力センサの状態が表示されます。

POINT

- サーバまたは電源装置の種類によっては表示されない項目があります。

4.4.3 消費電力モニタリング履歴

サーバの消費電力モニタリング結果を表示します。

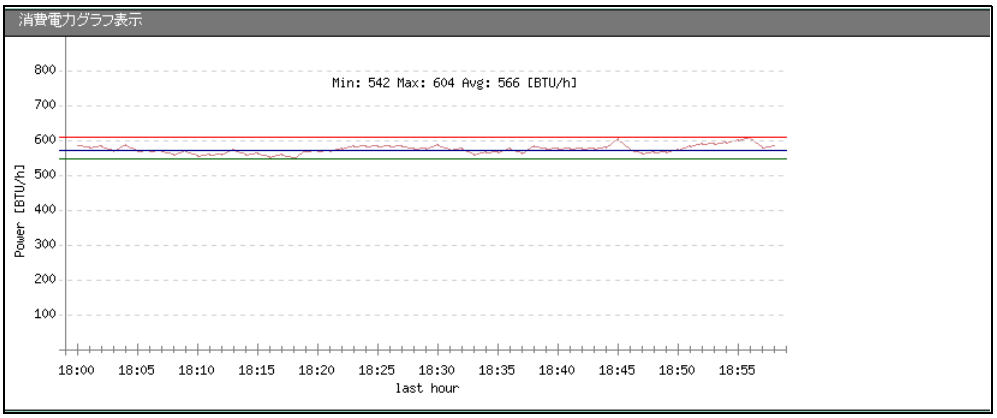


項目		説明
現在の全体消費電力		現在の消費電力量を表示します。サーバの電源が OFF 状態のとき、この項目は表示されません。
	現在の電力	現在の消費電力量です。
	最小電力	現在の最小電力量です。
	ピーク電力	現在の最大電力量です。
	平均電力	現在の平均電力量です。
	現在値 / 合計値電力	現在の消費電力量／最大消費電力量です。

項目		説明
消費電力モニタリング履歴表示オプション		消費電力グラフの表示設定を行います。
	消費電力監視単位	消費電力モニタリングを行う場合の電力表示単位を指定します。 ・Watt 消費電力をワット単位で表示します。 ・BTU/h 消費電力を英熱量（British Thermal Unit）単位で表示します。
	消費電力表示期間	消費電力グラフの横軸（表示期間）の設定を行います。
	消費電力モニタリング有効	消費電力をモニタリングします。
	「履歴の消去」	モニタリングしたデータを消去します。
消費電力グラフ表示		モニタリングした消費電力をグラフ表示します。 グラフの見方については、「■ 消費電力グラフ の見方」（→ P.45）をご覧ください。

■ 消費電力グラフ の見方

モニタリングした消費電力をグラフ表示します。



項目	説明
縦軸	「消費電力監視単位」で設定した単位が表示されます。
横軸	「消費電力表示期間」で設定した表示期間が表示されます。
茶線	消費電力量の変遷を表します。
緑線	表示期間内の最小消費電力量を表します。
赤線	表示期間内の最大消費電力量を表します。
青線	表示期間内の平均消費電力量を表します。

POINT

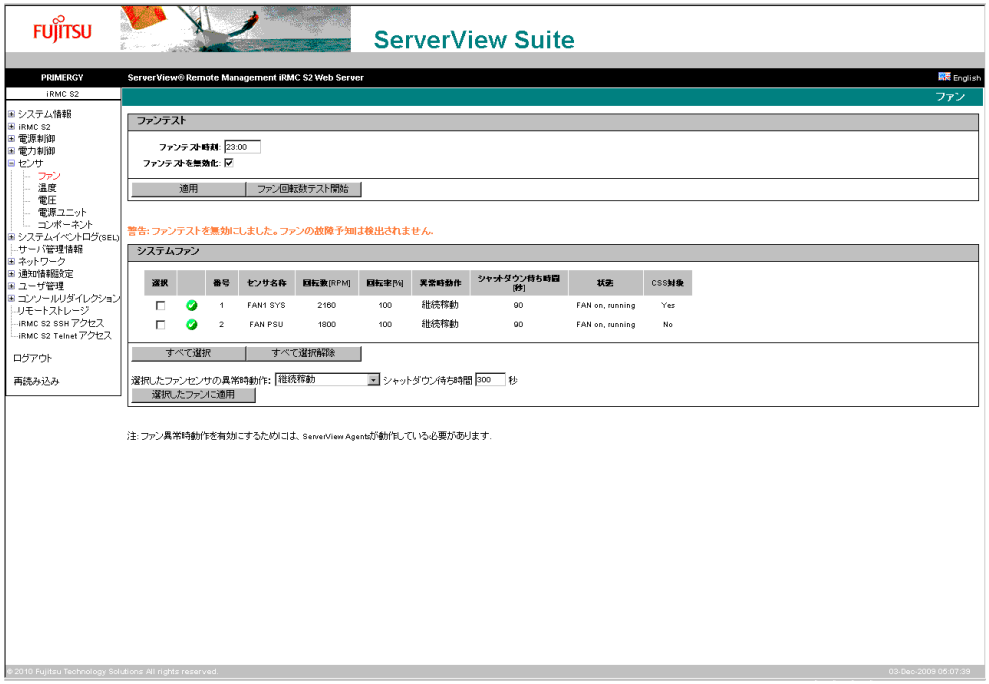
- 本機能で表示される消費電力量は 20% 程度の誤差を含む可能性があります。

4.5 センサ

サーバに搭載されたファン、温度センサ、電圧および電源ユニットの状態を参照できます。

4.5.1 ファン

サーバに搭載された各種ファン（CPU ファン、システムファン）の状態表示と異常時の動作設定を行います。ファンを搭載していない装置では、この項目は表示されません。



項目	説明
ファンテスト	ファンの動作状態を調査する定時刻を設定します。「ファンテスト時刻」にファンの動作状態を調査する時刻を入力します。 時刻は、hh:mm 形式（hh：00 ～ 23 の 2 桁の時、mm：00 ～ 59 の 2 桁の分）で入力します。 「ファンテストを無効化」にチェックを付けると、ファンテスト時刻になってもファンテストを実施しません。
「ファン回転数テスト開始」	クリックすると、ただちに現在のファンの動作状態を調査します。

項目	説明
システムファン	現在のファンの状態が表示されます。また、ファンに異常が発生した場合の、システムの動作を設定します。
選択	異常が発生した場合の対応動作を設定するファンを選択します。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.48）をご覧ください。
番号	ファンの通し番号が表示されます。
センサ名称	ファンのセンサ名が表示されます。
回転数 [RPM]	現在のファン回転数が、RPM 形式で表示されます。
回転率 [%]	前回にファンの動作状態を調査したときの回転数を基準（100）にして、現在のファンの回転数との割合が表示されます。単位は%です。
異常時動作	ファンに異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.48）をご覧ください。
シャットダウン待ち時間 [秒]	ファンに異常が発生した時間から、システムが対応を開始するまでの待ち時間が、秒単位で表示されます。対応動作の設定方法は、「■ ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.48）をご覧ください。
状態	現在のファンの状態が、異常な状態かどうかが表示されます。 ・running：問題ありません ・not installed：未搭載 ・failed：異常 ・Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

POINT

- ファンの電源が切断されているなどの理由により、ファンの情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。
- ファンテストは一時的にファンを数分間、高速回転させるため、サーバによっては回転音が大きくなります。気になる場合は、「ファンテストを無効化」にチェックを付けて、ファンテストを回避してください。
- 「ファンテストを無効化」にチェックを付け、ファンテストが行われない場合、ファン回転数の予兆、故障の検出先がなくなる場合があります。
- ファンテスト時刻のデフォルトは「23:00」です。この時間にサーバが動作していない場合、ファンテストが実施されませんので、動作している時間内に変更してください。

■ ファンに異常が発生した場合の動作設定

ファンに異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。

1 「選択」欄から、設定対象のファンのチェックボックスをクリックして、チェックを付けます。

POINT

- このとき、「すべて選択」をクリックすると、表示されているすべてのファンが選択できます。また、「すべて選択解除」をクリックすると、現在選択しているすべてのファンの選択を解除できます。

2 下段に表示されている動作設定リストから、「継続稼動」または「シャットダウン & 電源断」を選択します。

動作	説明
継続稼動	ファンの異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
シャットダウン & 電源断	ファンの異常を検知した場合は、設定した待ち時間（この待ち時間は、次の手順で設定します）が経過するまでは、システムはそのまま動作を続けます。その後、待ち時間を経過しても異常から復旧しない場合は、システムは自動でシャットダウンを行います。

3 システムがファン異常への対応を開始するまでの、待ち時間を入力します。

単位は「秒」です。0 ～ 600 までの数値を入力できます。

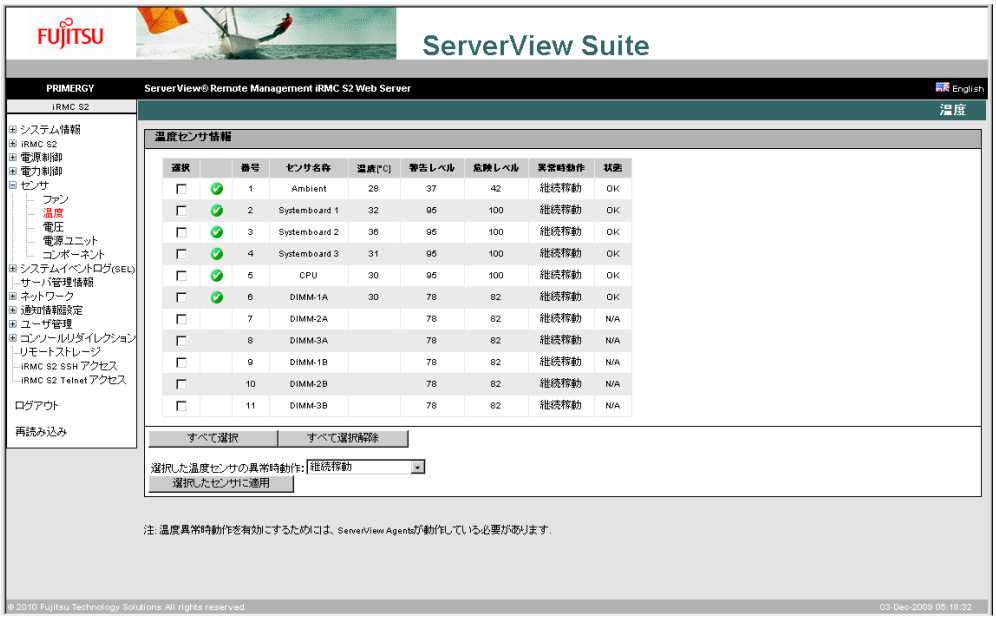
4 「選択したファンに適用」をクリックして、各設定値を反映させます。

画面上の各項目で、設定値が反映されたことを確認してください。

・対応動作の設定→「異常時動作」欄
・待ち時間の設定→「シャットダウン待ち時間」欄

4.5.2 温度

サーバ内の各温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行います。



項目	説明
温度センサ情報	現在の温度センサの状態が表示されます。また、温度異常が発生した場合のシステムの動作を設定します。
選択	温度異常が発生した場合、対応動作を設定する温度センサを、チェックボックスにチェックを付けて選択します。対応動作の設定方法は、「■ 温度異常が発生した場合の動作設定」（→ P.50）をご覧ください。
番号	温度センサの通し番号が表示されます。
センサ名称	温度センサ名が表示されます。
温度 [℃]	現在の温度値が表示されます。
警告レベル	警告レベルの温度値が表示されます。
危険レベル	異常レベルの温度値が表示されます。
異常時動作	温度異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「■ 温度異常が発生した場合の動作設定」（→ P.50）をご覧ください。
状態	現在の温度値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません ・N/A：未接続 ・Warning：警告 ・Critical：異常 ・Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません

POINT

- 温度情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。

■ 温度異常が発生した場合の動作設定

温度異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。

1 「選択」欄から、設定対象の温度センサのチェックボックスをクリックして、チェックを付けます。

POINT

- このとき、「すべて選択」をクリックすると、表示されているすべての温度センサが選択できます。また、「すべて選択解除」をクリックすると、現在選択しているすべての温度センサの選択を解除できます。

2 下段に表示されている動作設定リストから、「継続稼動」または「シャットダウン & 電源断」を選択します。

動作	説明
継続稼動	温度異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
シャットダウン & 電源断	温度異常を検知した場合は、システムが自動でシャットダウンを行います。

3 「選択したセンサに適用」をクリックして、設定値を反映させます。

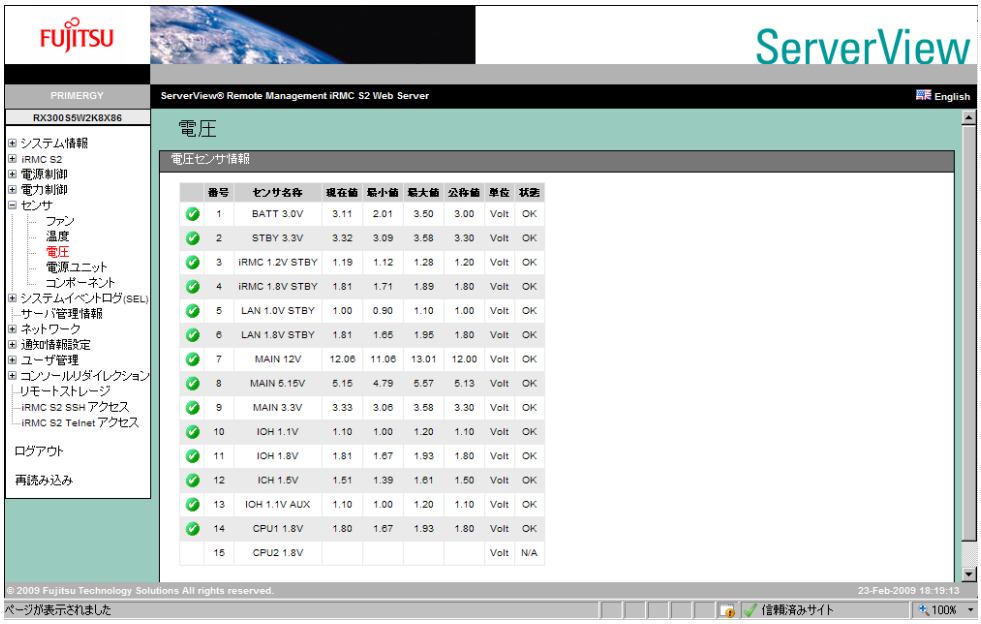
「異常時動作」欄で、設定値が反映されたことを確認してください。

POINT

- 温度異常時における、対応動作までの待ち時間の設定はありません。異常を検知した場合、ただちに対応動作を行います。

4.5.3 電圧

サーバ内の各電圧値を参照します。



番号	センサ名称	現在値	最小値	最大値	公称値	単位	状態
1	BATT 3.0V	3.11	2.01	3.50	3.00	Volt	OK
2	STBY 3.3V	3.32	3.09	3.58	3.30	Volt	OK
3	iRMC 1.2V STBY	1.19	1.12	1.28	1.20	Volt	OK
4	iRMC 1.8V STBY	1.81	1.71	1.89	1.80	Volt	OK
5	LAN 1.0V STBY	1.00	0.90	1.10	1.00	Volt	OK
6	LAN 1.8V STBY	1.81	1.65	1.95	1.80	Volt	OK
7	MAIN 12V	12.06	11.06	13.01	12.00	Volt	OK
8	MAIN 5.15V	5.15	4.79	5.57	5.13	Volt	OK
9	MAIN 3.3V	3.33	3.06	3.58	3.30	Volt	OK
10	IOH 1.1V	1.10	1.00	1.20	1.10	Volt	OK
11	IOH 1.8V	1.81	1.67	1.93	1.80	Volt	OK
12	ICH 1.5V	1.51	1.39	1.61	1.50	Volt	OK
13	IOH 1.1V AUX	1.10	1.00	1.20	1.10	Volt	OK
14	CPU1 1.8V	1.80	1.67	1.93	1.80	Volt	OK
15	CPU2 1.8V					Volt	N/A

項目	説明
電圧センサ情報	電圧センサに関する情報です。
番号	電圧センサの通し番号が表示されます。
センサ名称	電圧センサ名が表示されます。
現在値	現在の電圧値が表示されます。
最小値	許容最小電圧値が表示されます。
最大値	許容最大電圧値が表示されます。
公称値	規定された電圧値が表示されます。
単位	電圧の単位が表示されます。
状態	現在の電圧値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません ・N/A：未接続またはデジタルセンサ（ON/OFF のみ） ・Upper-Warn：上限警告 ・Lower-Warn：下限警告 ・Upper-Crit：上限異常 ・Lower-Crit：下限異常 ・Power Off：サーバの電源が Off のため状態が取得できません

POINT

- 「電圧」では、異常時におけるシステムの対応動作の設定はありません。

4.5.4 電源装置個別情報

サーバに搭載されている電源ユニット（PSU）の状態を参照します。電源ユニットを搭載していない装置では、この項目は表示されません。

項目	説明
電源装置センサ情報	電源ユニットセンサの情報が表示されます。
番号	電源ユニットの通し番号が表示されます。
センサ名称	電源ユニット名が表示されます。
状態	電源ユニットの状態が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

POINT

- 電源ユニットが冗長構成の場合、冗長の状態を示すセンサも表示されます。

4.5.5 センサの状態

サーバ内の各センサの状態を表示します。

番号	センサ名称	センサ種類ID	センサ種類別通し番号	LED点灯状況	信号状態	CSS対象
1	CPU1	Processor	0	Yes	OK	No
2	CPU2	Processor	1	Yes	搭載されていません	No
3	FAN1 SYS	Fan/Cooling Device	5	Yes	OK	No
4	FAN2 SYS	Fan/Cooling Device	6	Yes	OK	No
5	FAN3 SYS	Fan/Cooling Device	7	Yes	OK	No
6	FAN4 SYS	Fan/Cooling Device	8	Yes	OK	No
7	FAN5 SYS	Fan/Cooling Device	9	Yes	OK	No
8	FAN6 SYS	Fan/Cooling Device	0	Yes	OK	No
9	FAN7 SYS	Fan/Cooling Device	1	Yes	OK	No
10	FAN8 SYS	Fan/Cooling Device	2	Yes	OK	No
11	FAN9 SYS	Fan/Cooling Device	3	Yes	OK	No
12	FAN10 SYS	Fan/Cooling Device	4	Yes	OK	No
13	FAN1 PSU1	Power Supply	5	Yes	OK	No
14	FAN2 PSU1	Power Supply	6	Yes	OK	No
15	FAN1 PSU2	Power Supply	7	Yes	OK	No
16	FAN2 PSU2	Power Supply	8	Yes	OK	No

項目	説明
コンポーネントの状態 センサ情報	
番号	センサの通し番号が表示されます。
センサ名称	センサ名が表示されます。
センサ種類 ID	センサの種類が表示されます。
センサ種類別通し番号	センサの種類ごとの通し番号が表示されます。
LED 点灯状況	センサ LED の点灯状況が表示されます。
信号状態	センサの状態が表示されます。
CSS 対象	ユーザが交換可能であるか否かが表示されます。

4.6 システムイベントログ

サーバのシステムイベントログの表示、および表示設定を行います。

4.6.1 システムイベントログ内容

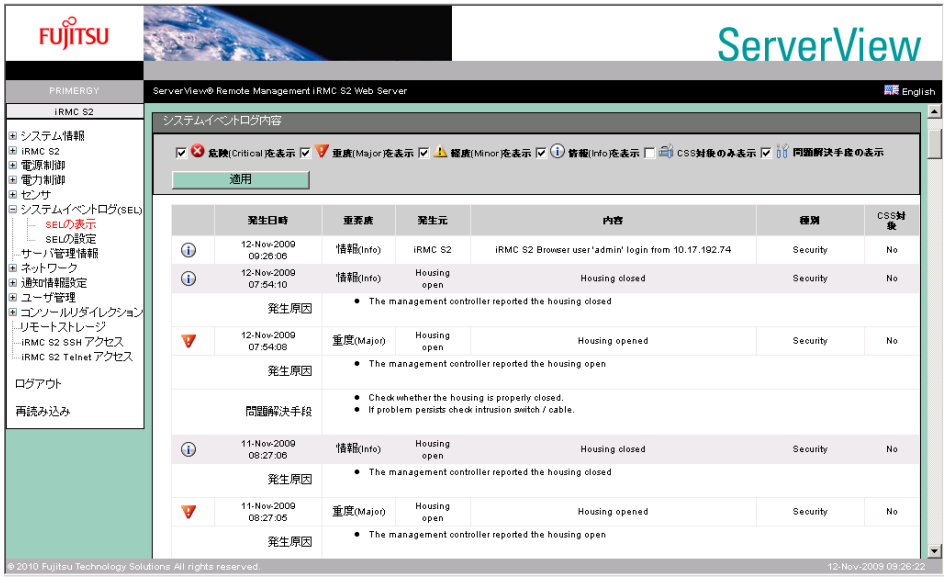
メインボード上に格納されるイベントログ（SEL）を参照します。

項目		説明
システムイベントログ（SEL）情報		イベントログに関する情報が表示されます。
	イベントログの状態	現在のイベントログ数が表示されます。
	最新のエントリ	最後にログされた日時が表示されます。
	クリア日時	イベントログがクリアされた日時が表示されます。
	「ログのクリア」	すべてのシステムイベントログがクリアされます。
	「ログの保存」	システムイベントログを Text 形式で退避します。

項目		説明
システムイベントログ内容		イベントログ一覧です。各項目（チェックボックス）を選択し「適用」をクリックすると、選択した内容が表示されます。
	危険 (Critical) を表示	「Critical」レベルのイベントログを表示します。
	重度 (Major) を表示	「Major」レベルのイベントログを表示します。
	軽度 (Minor) を表示	「Minor」レベルのイベントログを表示します。
	情報 (Info) を表示	「Information」レベルのイベントログを表示します。
	CSS 対象のみ表示	「CSS」が有効なイベントログのみを表示します。
	問題解決手段の表示	発生原因や問題解決手段が設定されているログの「発生原因」と「問題解決手段」を表示します。
	発生日時	イベントの発生日時が表示されます。
	重要度	イベントの重要度が表示されます。重要度は低い順から、Info / Minor / Major / Critical の 4 段階があります。
	発生元	イベントの発生元が表示されます。
	内容	発生したイベント内容が表示されます。
	種別	イベントの種別が表示されます。
	CSS 対象	ユーザが交換可能なモジュールで発生したイベントであるか否かが表示されます。

POINT

- システムイベントログの最大格納数は 256 ～ 512 個ほどで、サーバ（BIOS）により異なります。
- システムイベントログの格納方法（上書きなど）は、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』をご覧ください。
- 「問題解決手段の表示」にチェックを付けると、「発生原因」と「問題解決手段」が次のように表示されます。なお、すべてのログに対して表示されるわけではありません。



4.6.2 システムイベントログ設定

「4.6.1 システムイベントログ内容」（→ P.54）で表示させるシステムイベントログのデフォルト設定を行います。

項目	説明
システムイベントログ内容画面で表示させるログの既定値	システムイベントログ内容画面で初期表示させるシステムイベントログのレベルを指定します。
危険 (Critical) を表示	「Critical」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
重度 (Major) を表示	「Major」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
軽度 (Minor) を表示	「Minor」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
情報 (Info) を表示	「Information」レベルのイベントログ表示をデフォルトで設定します。
CSS 対象のみ表示	「CSS」が有効なイベントログのみの表示をデフォルトで設定します。
問題解決手段の表示	「発生原因」と「問題解決手段」の表示をデフォルトで設定します。
Ring SEL	Ring SEL の格納件数形式での表示をデフォルトで設定します。
IPMI SEL	IPMI SEL の格納件数形式での表示をデフォルトで設定します。
ヘルプデスク情報	サポートデスク情報を設定します。「問題解決手段の表示」を選択している場合、「問題解決手段」の問い合わせ先に使用されます。

POINT

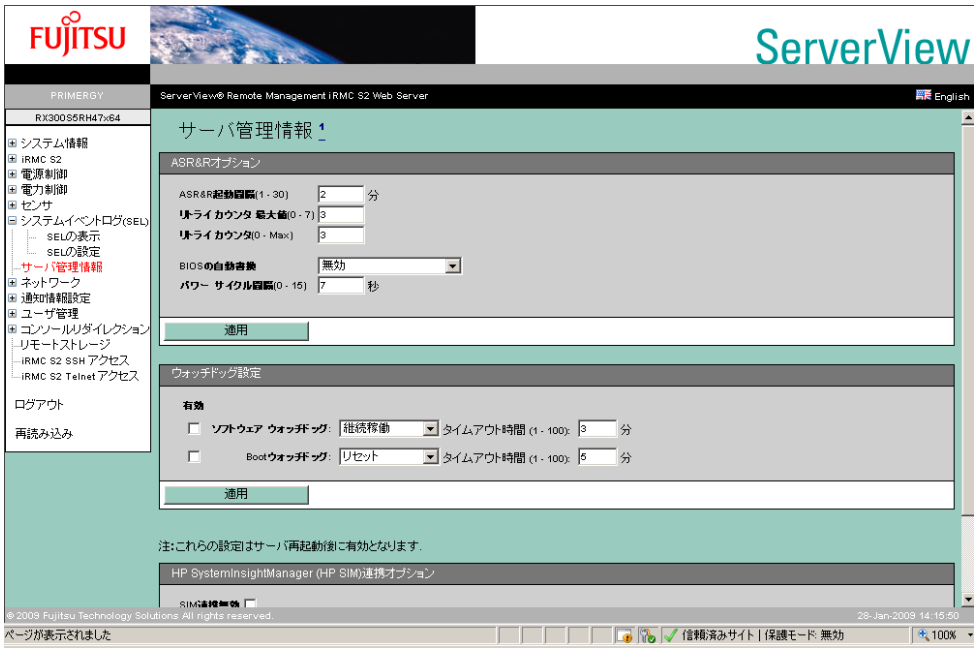
- システムイベントログ設定の内容は iRMC S2 へのログイン時に反映されます。

4.7 サーバ管理情報

サーバ管理情報の表示と設定を行います。

POINT

- サーバによっては、設定できる内容に制約がある場合があります。詳細はサーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』をご覧ください。



項目		説明
ASR&R オプション		サーバの再起動に関する設定を行います。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
	ASR & R 起動間隔	ファン異常、または温度異常によるシャットダウンが行われた後、ここで設定した時間（単位：分）が経過すると、サーバは自動で電源を投入します。ただし、「リトライ カウンタ」の設定値が 0 の場合は、自動起動しません。
	リトライ カウンタ最大	異常が発生し、サーバがシャットダウンされた後の自動再起動回数のデフォルト値を、0 ～ 7 の間で設定します。 システムが継続して 6 時間稼動していた場合、当項目で設定された値は下記項目のリトライカウンタに反映されます。

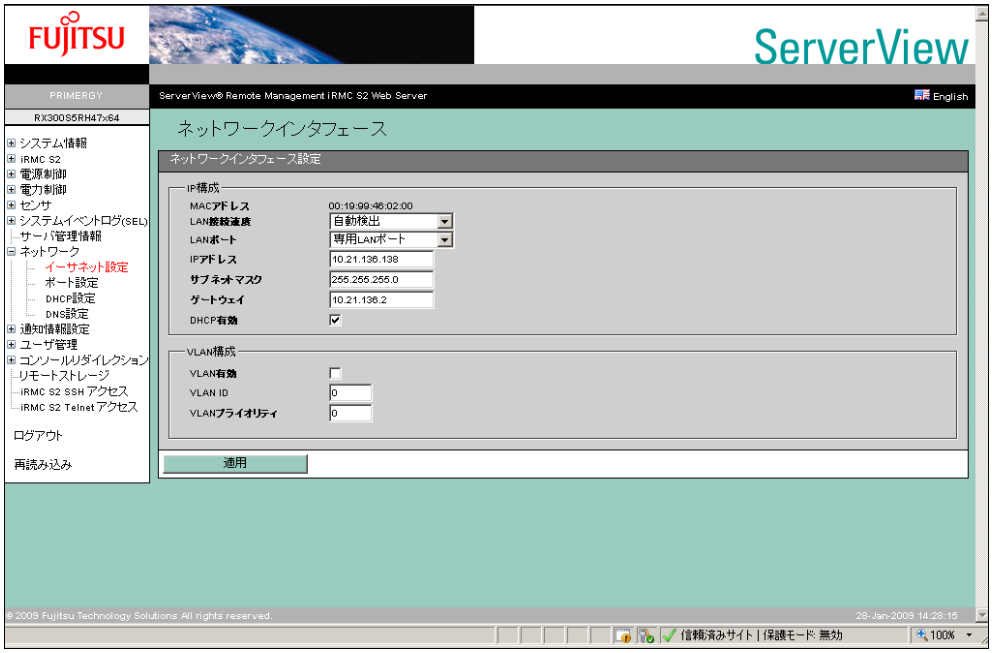
項目		説明
	リトライ カウンタ	現在のサーバの自動再起動回数を表示します。0 ～「リトライカウンタ 最大」値の間が設定可能な値です。このカウンタ値は、ファン異常、温度異常、ソフトウェアウォッチドッグ タイムアウト、Boot ウォッチドッグ タイムアウトで再起動が行われるたびに、1 ずつ減少します。カウンタ値が 0 になると、自動起動しません。 **注意事項：** ▶ **本項目の設定を変更した場合、設定をサーバに反映させるためにサーバの再起動が必要です。**
	BIOS の自動書換	BIOS の自動書き換えを設定します。 ・有効 自動書き換えを有効にします。BIOS 自動書き換えエリアに書き換え対象の BIOS イメージが設定されている場合、自動的に BIOS の書き換えが行われます。未サポートです。 ・無効 自動書き換えを無効にします。
	パワー サイクル間隔	パワー サイクル実行時に、Power Off から Power On を行うまでの時間を 0 ～ 15（単位は秒）で設定します。
ウォッチドッグ設定		指定した時間内に OS からの応答がない場合や、Boot が終了しなかった場合の動作を設定します。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
	有効	ソフトウェア ウォッチドッグ、Boot ウォッチドッグを有効にします。 **注意事項：** ▶ **本項目の設定を変更した場合、設定をサーバに反映させるためにサーバの再起動が必要です。**
	ソフトウェアウォッチドッグ	OS からの応答の有無監視をします。 ・パワー サイクル タイムアウト時に、Power Off / On を行います。 ・リセット タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。 ・継続稼働 タイムアウト時に、何も行いません。
	Boot ウォッチドッグ	Boot（BIOS 終了後から OS が起動されるまで）の時間を監視します。 ・パワー サイクル タイムアウト時に、Power Off / On を行います。 ・リセット タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。 ・継続稼働 タイムアウト時に、何も行いません。
	タイムアウト時間指定	1 ～ 100 まで指定できます（単位は分）。サーバ（BIOS）により、最大設定時間や指定できる値が異なります。
HP SystemInsightManager (HP SIM) 連携オプション		HP 社の SIM からの応答要求に対する設定を行います。
	SIM 連携無効	HP 社の SIM への応答を行わない設定にします。

4.8 ネットワーク

リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定の参照、変更を行います。

4.8.1 ネットワーク インタフェース

リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどの設定を行います。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。



項目	説明
IP 構成	
MAC アドレス	リモートマネジメントコントローラに搭載された、LAN の MAC アドレスが表示されます。
LAN 接続速度	LAN 接続速度を設定します。 ・自動検出 接続速度を自動検出し、設定します。 ・100MBit/s 全二重 100MBits/s 全二重で接続します。 ・100MBit/s 半二重 100MBits/s 半二重で接続します。 ・10MBits/s 全二重 10MBits/s 全二重で接続します。 ・10MBits/s 半二重 10MBits/s 半二重で接続します。

項目		説明
	LAN ポート	リモートマネジメントコントローラが使用する LAN ポートを指定します。 ・専用 LAN ポート リモートマネジメントコントローラ専用の LAN ポートを使用します。 ・共用 LAN ポート リモートマネジメントコントローラとサーバで LAN ポートを共用します。
	IP アドレス	リモートマネジメントコントローラの IP アドレスを指定します。
	サブネットマスク	リモートマネジメントコントローラのサブネットマスクを指定します。
	ゲートウェイ	リモートマネジメントコントローラのゲートウェイアドレスを指定します。
	DHCP 有効	リモートマネジメントコントローラのイーサネット設定に DHCP を使用する場合に、チェックします。設定を有効にすると、上記の設定値より DHCP が優先されるようになります。
VLAN 構成		
	VLAN 有効	VLAN を使用する場合にチェックします。
	VLAN ID	VLAN の ID を設定します。
	VLAN プライオリティ	VLAN のプライオリティを設定します。

POINT

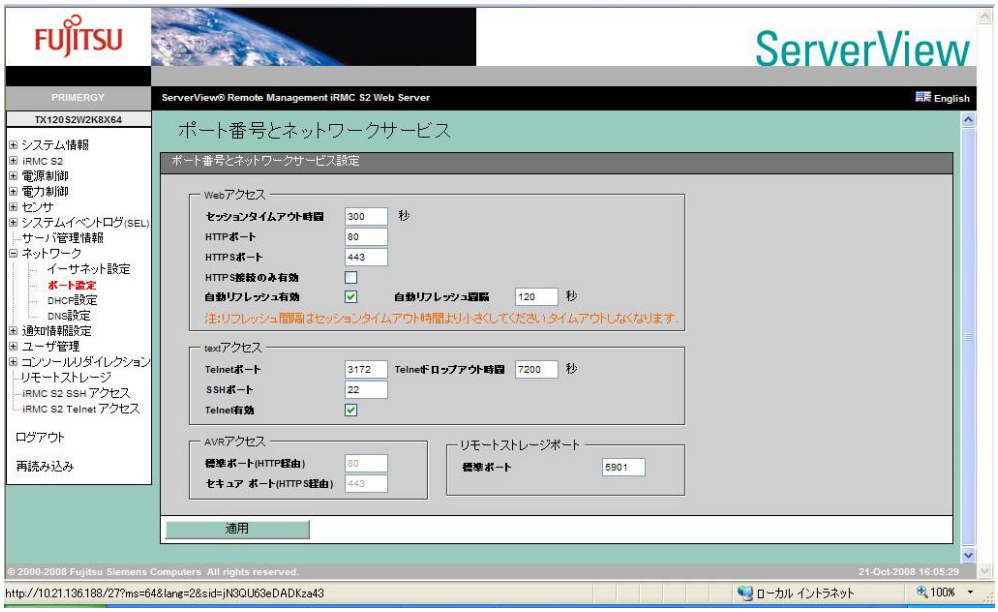
- サーバによっては表示されない項目があります。

重要

- VLAN の各項目に間違った値を設定すると、リモートマネジメントコントローラへの Web インターフェース、SSH、Telnet への接続ができなくなる場合があります。設定の際には、十分注意してください。

4.8.2 ポート番号とネットワークサービス

各アクセスのポート番号の設定を行います。



項目	説明
Web アクセス	
セッションタイムアウト時間	Web インターフェース接続の自動切断時間（秒）を設定します。デフォルトでは「300」に設定されています。
HTTP ポート	HTTP へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「80」に設定されています。
HTTPS ポート	HTTPS へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「443」に設定されています。
HTTPS 接続のみ有効	HTTPS 接続のみを有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「無効」に設定されています。
自動リフレッシュ有効	自動リフレッシュを行う場合、チェックします。デフォルトでは「有効」に設定されています。
自動リフレッシュ間隔	自動リフレッシュを行う場合の間隔（秒）を指定します。デフォルトでは「120」に設定されています。
text アクセス	
Telnet ポート	Telnet へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「3172」に設定されています。
Telnet ドロップアウト時間	Telnet 接続時の自動切断時間（秒）を指定します。デフォルトでは「600」に設定されています。
SSH ポート	SSH 経由でアクセスを行う場合のポート番号を指定します。デフォルトでは「22」に設定されています。
Telnet 有効	Telnet 接続を有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「有効」に設定されています。

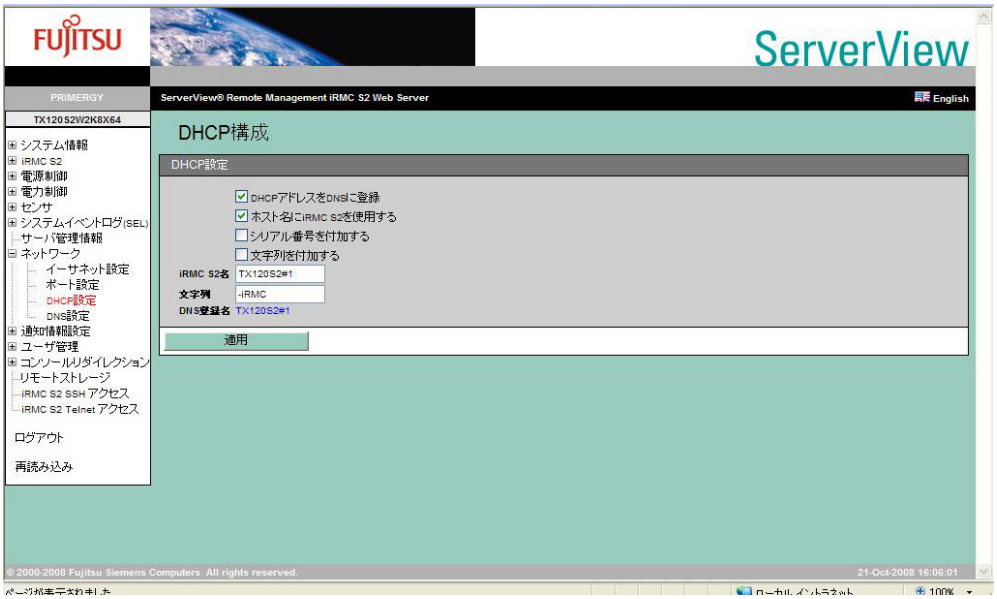
項目	説明
AVR アクセス	
標準ポート	ビデオリダイレクション を行う場合のポート番号を表示します。 デフォルトは「80」です（HTTP の設定ポートと連動）。
セキュアポート	ビデオリダイレクションで SSH/SSL を使用する場合のポート番号を表示します。 デフォルトは「443」です（HTTP の設定ポートと連動）。
リモートストレージポート	
標準ポート	ビデオリダイレクションでリモートストレージを接続する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5901」です。

POINT

- 「セッションタイムアウト時間」の設定時間より「自動リフレッシュ間隔」の設定時間が短い場合、Web インターフェース接続の自動切断は行われません。
- Telnet/SSH の接続は iRMC S2 WebUI から接続してください。それ以外の接続は未サポートです。

4.8.3 DHCP 構成

DHCP に関する設定を行います。



項目	説明
DHCP アドレスを DNS に登録	有効に設定すると、DNS へ DHCP 取得アドレスを登録します。
ホスト名に iRMC S2 を使用する	有効に設定すると、「iRMC S2 名」に入力された文字を DNS 登録名として使用します。
シリアル番号を付加する	有効に設定すると、DNS 登録名にシリアル番号を付加します。

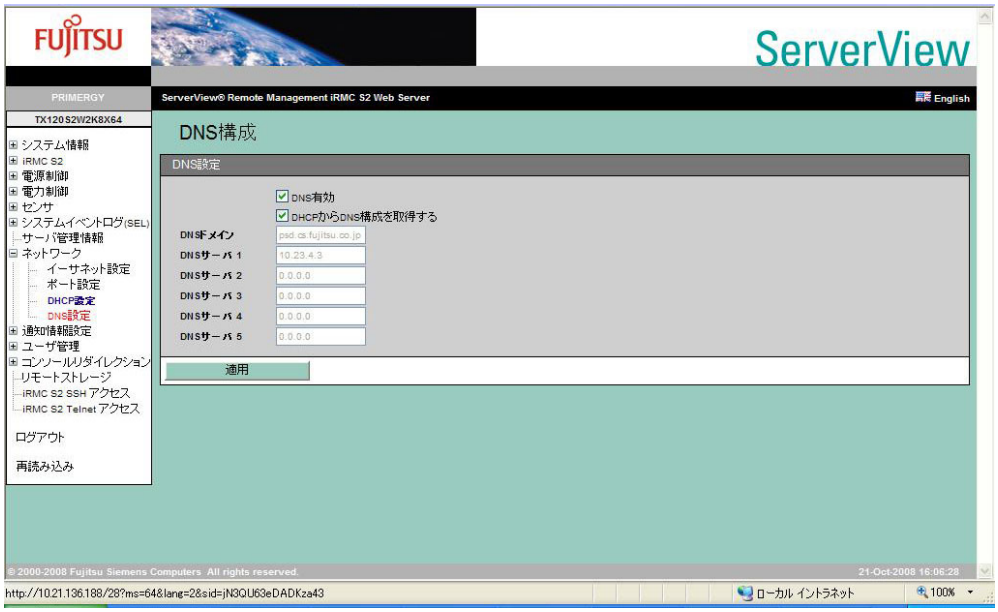
項目	説明
文字列を付加する	有効に設定すると、「文字列」に入力された文字を DNS 登録名の最後に付加します。
DNS 登録名	DNS への登録名が表示されます。

POINT

- 設定された「DNS 登録名」は Web ブラウザの最上位部（タイトルバー）に表示されます。

4.8.4 DNS 構成

DNS に関する設定を行います。



項目	説明
DNS 有効	有効に設定すると、名前の解決に DNS を使用します。
DHCP から DNS 構成を取得する	有効に設定すると、DHCP から DNS の設定を取得します。
DNS ドメイン	DNS ドメインを設定します。
DNS サーバ 1 ～ 5	DNS サーバ 1 ～ 5 の IP を設定します。

4.9 通知情報設定

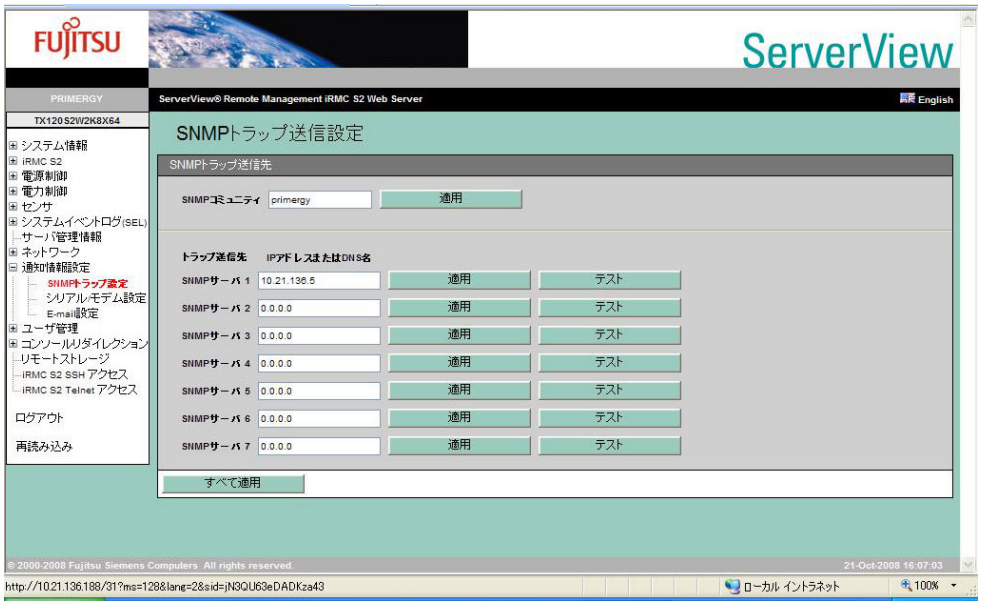
SNMP トラップおよび E-mail の送信設定を行います。また、SNMP トラップのテスト送信が行えます。

POINT

- シリアル / モデム送信設定は未サポートです。

4.9.1 SNMP トラップ送信設定

SNMP トラップの送信設定を行います。



項目	説明
SNMP コミュニティ	SNMP トラップ送信時のコミュニティ名を設定します。デフォルトは「public」に設定されています。コミュニティ名を入力後、「適用」をクリックして決定します。受信サーバでトラップを受信するには、SNMP 受信のコミュニティ名が同じ名前になっている必要があります。
トラップ送信先 SNMP サーバ 1 ～ 7	SNMP トラップの送信先サーバ（トラップ受信サーバ）の IP アドレスを指定します。送信先サーバは 7 カ所まで指定可能です。送信先サーバの IP アドレスを入力後、「適用」をクリックし、設定を反映します。DNS を有効に設定してある場合は、IP の代わりにサーバ名を設定することもできます。「テスト」をクリックすると、設定したサーバに対し Test トラップを送信します。
「すべて適用」	各設定値を入力後、「すべて適用」をクリックすると、すべての設定値が反映されます。

4.9.2 E-mail 設定

E-mail の設定を行います。

項目	説明
E-mail 送信設定	SMTP サーバに対する設定を行います。
E-mail での警告送信を有効にする	SMTP サーバに対する設定の有効／無効を設定します。
SMTP リトライ回数	E-mail 送信エラーとなった場合の、リトライ回数を設定します。
SMTP リトライ間隔	リトライを行う間隔（秒）を設定します。
SMTP 応答待ち時間	SMTP サーバからのレスポンス待ち時間（秒）を設定します。
プライマリ SMTP サーバ設定	プライマリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP サーバ	プライマリ SMTP サーバの IP（DNS 有効であればサーバ名でも可）を設定します。
SMTP ポート	プライマリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
認証タイプ	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。 ・認証を行わない SMTP サーバはユーザ認証を行いません。 ・認証を行う (RFC2554) SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。

項目	説明
セカンダリ SMTP サーバ設定	セカンダリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP サーバ	セカンダリ SMTP サーバの IP（DNS 有効であればサーバ名でも可）を設定します。
SMTP ポート	セカンダリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
認証タイプ	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。 ・認証を行わない SMTP サーバはユーザ認証を行いません。 ・認証を行う (RFC2554) SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。
E-Mail 送信フォーマット	E-mail の送信フォーマットを設定します。
送信元	送信元の名前を設定します。
題名	E-mail の題名を設定します。ただし、設定が有効になるのは題名固定フォーマット時のみです。
メッセージ	E-mail 本文に付加するメッセージを設定します。ただし、設定が有効になるのは題名固定フォーマット時のみです。
管理者名	送信元の管理者名を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
管理者電話番号	送信元の管理者電話番号を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
装置 ID	REMCS ID を設定します。ただし、設定が有効になるのは REMCS フォーマット時のみです。
送信元サーバ URL	送信元の URL を設定します。

POINT

- 「E-Mail 送信フォーマット」で設定できるのは、送信フォーマットのみです。送信先の指定や送信レベルの設定は、「4.10 ユーザ管理」（→ P.67）で行います。
- E-mail 送信で指定するメールサーバのメールソフトの種類、または LAN 回線の速度などによりメールが不達エラーとなる場合があります。その場合、「E-mail 送信設定」の「SMTP 応答待ち時間」の値を 50 秒程度に変更してください。

4.10 ユーザ管理

リモートマネジメントコントローラやディレクトリサービスにログインする設定を行います。

4.10.1 ユーザ管理

リモートマネジメントコントローラにログインするユーザ名／パスワードの設定や、ユーザ名に対する動作レベル、E-mail 送信に関する詳細設定を行います。

項目	説明
有効	ユーザの有効／無効が表示されます。
ID	ユーザの通し番号が表示されます。
名前	ユーザ名が表示されます。
説明	ユーザの説明が表示されます。
LAN アクセス権限	LAN ポート経由のアクセス権限が表示されます。
シリアルアクセス権限	シリアルポート経由のアクセス権限が表示されます。未サポートです。

「削除」をクリックすると、登録されているユーザが削除されます。デフォルトで作成されるユーザ名／パスワード、および権限については、「2.1 準備」（→ P.13）をご覧ください。

重 要

- 次の場合、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースへのアクセスができなくなるか、使用できる機能が限定され、「ユーザ」の作成および変更ができなくなります。
  ・すべてのユーザを削除した場合
  ・Administrator/OEM のアクセス権限を持つユーザをすべて削除、または権限変更した場合
  この場合、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』をご覧になり、アカウント情報を初期化してから、再度アカウントを設定してください。

■ ユーザ情報の変更

登録されているユーザ名をクリックすると、登録されている設定を変更できます。

項目	説明
iRMC S2 ユーザ情報	ユーザ情報を設定します。
ユーザを有効にする	ユーザの有効／無効を設定します。有効から変更できません。
名前	ユーザ ID を設定します。
パスワード	パスワードを設定します。
確認用パスワード	確認のため、パスワードを再入力します。
説明	ユーザの説明を設定します。
使用シェル	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。「Remote Manager」以外は未サポートです。

項目	説明
権限 / 許可	動作レベルを設定します。
LAN アクセス権限	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。 ・USER ほとんどの項目において、参照のみが行えます。 ・Operator USER 権限に加え、修正が行えます。 ・Administrator Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。 ・OEM Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
シリアルアクセス権限	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
ユーザアカウント変更権限	ユーザアカウントの変更権限を与えます。
iRMC S2 設定変更権限	iRMC S2 の設定変更権限を与えます。
AVR 使用権限	ビデオリダイレクションの使用権限を与えます。
リモートストレージ使用権限	リモートストレージの使用権限を与えます。
ファイルからのユーザ SSHv2 公開認証鍵のアップロード	SSH 接続に使用される公開認証鍵（ユーザ別）を設定します。
SSHv2 公開認証鍵ファイル	SSHv2 公開認証鍵のファイルを指定します。

重 要

- ユーザアカウントの制限は次のとおりです。
  - ・ユーザ ID 文字数
    16Byte
  - ・パスワード 文字数
    15Byte

  なお、使用可能文字種は 7Bit ASCII コードの文字です。その中で次の記号は問題が発生する可能性があるため、使用しないようにしてください。
  ＞ ＜ " / ¥ ＝ ！ ？ ； ， ＆

■ E-Mail 送信設定

ユーザごとの E-Mail 送信設定を行います。

項目	説明
E-Mail を有効にする	設定の有効／無効を設定します。
Mail フォーマット選択	送信する E-mail のフォーマットを選択します。 ・標準メール 通常の E-mail フォーマットです。 ・題名固定 「4.9.2 E-mail 設定」（→ P.65）で設定した題名、およびメッセージ内容が反映されるフォーマットです。 ・ITS フォーマット ITS 形式の E-mail フォーマットです。未サポートです。 ・Fujitsu REMCS フォーマット REMCS 形式の E-mail フォーマットです。
優先 Mail サーバ	「4.9.2 E-mail 設定」（→ P.65）で設定した SMTP サーバから使用する SMTP サーバを選択します。 ・自動選択 プライマリ、セカンダリの順で使用可能な SMTP サーバが選択されます。 ・プライマリ プライマリ SMTP サーバで設定した SMTP サーバを使用します。 ・セカンダリ セカンダリ SMTP サーバで設定した SMTP サーバを使用します。
送信先 E-mail アドレス	送信先 E-mail アドレスを設定します。

項目	説明
事象毎の Mail 送信設定	E-mail を送信する事象を選択します。事象ごとに設定します。 各事象での選択肢は次のとおりです。 ・送信しない E-mail を送信しません。 ・危険以上 危険レベルの事象発生時に、E-mail を送信します。 ・警告以上 警告レベル以上の事象発生時に、E-mail を送信します。 ・すべて送信 事象が発生したすべてのレベルに対して、E-mail を送信します。
「テスト」	E-mail のテスト送信を行います。

■ ユーザ情報の新規作成

「ユーザの新規作成」をクリックすると、ユーザを新規に作成できます。

項目	説明
ユーザを有効にする	ユーザの有効／無効を設定します。有効から変更できません。
名前	ユーザ ID を設定します。
パスワード	パスワードを設定します。
確認用パスワード	確認のため、パスワードを再入力します。
ユーザの説明	ユーザの説明を設定します。
使用シェル	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。Remote Manager 以外は未サポートです。

項目	説明
LAN アクセス権限	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。 ・User ほとんどの項目において、参照のみが行えます。 ・Operator USER 権限に加え、修正が行えます。 ・Administrator Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。 ・OEM Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
シリアルアクセス権限	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
ユーザアカウント変更権限	ユーザアカウントの変更権限を与えます。
iRMC S2 設定変更権限	iRMC S2 の設定変更権限を与えます。
AVR 使用権限	ビデオリダイレクションの使用権限を与えます。
リモートストレージ使用権限	リモートストレージの使用権限を与えます。

重 要

- ユーザアカウントの制限は次のとおりです。
  - ・ユーザ ID 文字数：16Byte
  - ・パスワード 文字数：15Byte

  なお、使用可能文字種は 7Bit ASCII コードの文字です。その中で次の記号は問題が発生する可能性があるため、使用しないようにしてください。

  ＞ ＜ " / ¥ ＝ ！ ？ ； ， ＆

4.10.2 ディレクトリサービス構成

リモートマネジメントコントローラでディレクトリ サービスを使用するための設定を行います。

項目	説明
ディレクトリ サービス構成設定	
LDAP を有効にする	ディレクトリ サービスアクセスを有効にします。
LDAP SSL 接続を有効にする	ディレクトリ サービス へ SSL でのアクセスを有効にします。
ローカル ID でのログインを無効にする	ディレクトリ サービス有効時、ローカル ID でのログインを無効にします。
常に SSL ログインを使用する	ディレクトリ サービス有効時、iRMC S2 へのアクセスを SSL 接続に制限します。
ディレクトリ サーバ タイプ	ディレクトリ サービスのタイプを設定します。 ・Active Directory ディレクトリ サービスのタイプを「Active Directory」とします。 ・Novell ディレクトリ サービスのタイプを「Novell」とします。未サポートです。 ・OpenLDAP ディレクトリ サービスのタイプを「OpenLDAP」とします。
LDAP サーバ 1	ディレクトリ サービスのサーバ IP を設定します。
LDAP サーバ 2	ディレクトリ サービスのサーバ IP を設定します。
ディレクトリ サービス構成設定（ディレクトリサーバタイプに Active Directory を設定した場合）	
ドメイン名	ディレクトリ サービスアクセスのドメイン名を指定します。
Base DN	設定されているドメインが表示されます。
Dept. name	ディレクトリ サービスの部署名を設定します。

項目	説明
ディレクトリ サービス構成設定（ディレクトリサーバタイプに OpenLDAP を設定した場合）	
Dept. name	ディレクトリ サービスの部署名を設定します。
Base DN	組織ユニット（OU）が含まれるベースドディレクトリ名を指定します。
Base DN 配下のグループディレクトリ	ベースドディレクトリ配下のグループディレクトリパスを指定します。
User Search Context	ベースドディレクトリ配下のユーザディレクトリパスを指定します。
ディレクトリ サービス アクセス構成（ディレクトリサーバタイプに Active Directory を設定した場合）	
LDAP 認証ユーザ名	ディレクトリ サービスへアクセスするユーザ ID を設定します。
LDAP 認証パスワード	ディレクトリ サービスへアクセスするパスワードを設定します。
確認用パスワード	確認のため、パスワードを再入力します。
ディレクトリ サービス アクセス構成（ディレクトリサーバタイプに OpenLDAP を設定した場合）	
LDAP 認証パスワード	ディレクトリ サービスへアクセスするパスワードを設定します。
確認用パスワード	確認のため、パスワードを再入力します。
Principal User DN	ユーザディレクトリが含まれる OU（組織ユニットディレクトリ）を指定します。
Principal User DN に Base DN を追加する	ディレクトリ サービス構成設定で指定した Base DN を使用します。 Principal User DN では Base DN を指定する必要はありません。
Bind DN	設定された OU、DN のパスが表示されます。
拡張ユーザ ログイン	ログインユーザのフィルタリング設定を有効にします。 この項目にチェックを付けると「ユーザ ログイン検索フィルタ」項目が表示されます。
ユーザ ログイン検索フィルタ	ログインのユーザ名検索をフィルタリングします。[%s] で指定された cn フォルダに含まれるユーザのみ許可します。
ディレクトリ サービス E-mail 警告構成	
LDAP E-mail 警告を有効にする	LDAP に設定した E-Mail 設定を有効にします。
LDAP 警告テーブルを更新する	LDAP の警告テーブルを更新する間隔を時間単位で指定します。

POINT

- リモートマネジメントコントローラで LDAP を使用するには、ディレクトリ サービスにリモートマネジメントコントローラ専用の設定が必要です。設定方法は「付録 A LDAP を使用する場合の設定」（→ P.100）をご覧ください。
- LDAP を有効に設定すると、ログイン画面は SSL アクセスとなります。

4.11 コンソールリダイレクション

コンソール（出力画面）のリダイレクションに関する設定、表示（動作）を行います。

4.11.1 BIOS テキストコンソール

テキストコンソールリダイレクション設定を行います。

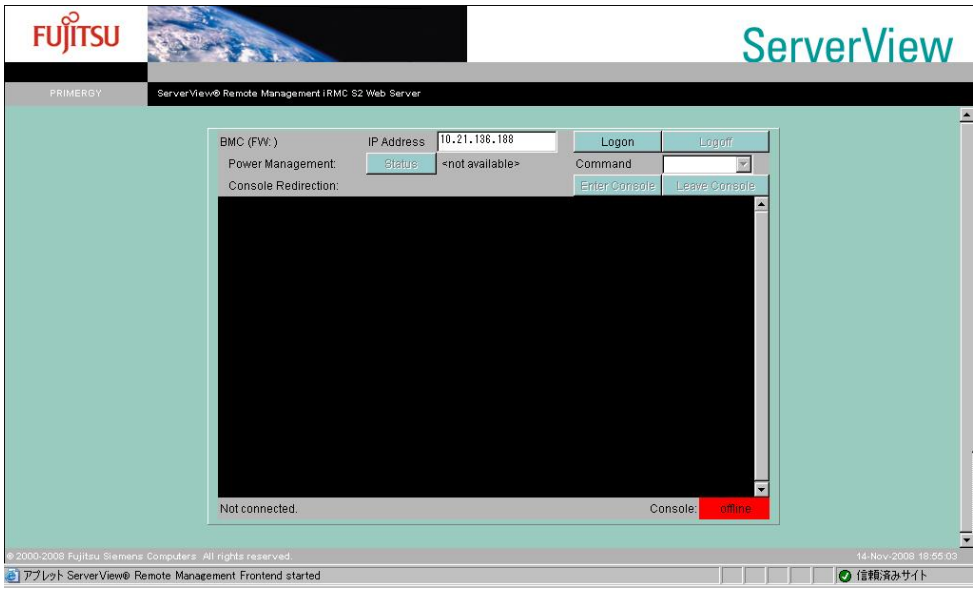
項目	説明
BIOS コンソール リダイレクション オプション	
コンソール リダイレクションを有効にする	コンソールリダイレクションの有効／無効を設定します。
コンソール リダイレクション モード	コンソールリダイレクションのモードを設定します。
コンソール リダイレクション ポート	コンソールリダイレクションで使用するポートを設定します。
シリアルポート ボーレート	コンソールリダイレクションで使用するボーレートを設定します。
シリアルポート フロー制御	コンソールリダイレクションのフロー制御を設定します。
端末エミュレーション	コンソールリダイレクションを使用するコンソールのタイプを設定します。
シリアル 1 マルチプレクサ	シリアルポート 1 の機能を設定します。
テキストコンソールのリダイレクション（LAN 上のシリアル通信）	
「コンソールリダイレクションの開始」	テキストコンソールリダイレクションを開始します。 「■ テキストコンソールのリダイレクション」（→ P.76）

重 要

- BIOS テキストコンソールを使用する際の設定項目は、サーバおよび BIOS の版数によって異なります。詳しくは、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』をご覧ください。

■ テキストコンソールのリダイレクション

リモートでテキストコンソールのリダイレクションを行う場合は、BIOS テキストコンソール画面で「コンソールリダイレクションの開始」をクリックした後、表示された Web 画面上の「Login」をクリックします。



項目	説明
BMC（FW:）	ログオン後、iRMC S2 ファームウェアのバージョンを表示します。
IP Address	iRMC S2 に設定された IP アドレスが表示されます。
「Logon」	「IP Address」に表示されている iRMC S2 にログオンします。
「Logoff」	iRMC S2 からログオフします。
Power Management:	サーバの電源制御を行います。サーバに対して行う操作を選択します。 「Status」をクリックすると、現在のサーバの電源状態が表示されます。
Command	サーバに対して行う電源制御操作のコマンドを選択します。
Power On	電源を入れます。
Power Off	電源を切ります。
Reset	再起動します。
Power Cycle	電源を切り、再度電源を入れます。
Shutdown	シャットダウンします。
Console Redirection:	iRMC S2 にログオンしている場合のみ有効です。
「Enter Console」	コンソールリダイレクションを開始します。
「Leave Console」	コンソールリダイレクションを終了します。

重 要

BIOS テキストコンソールで起動した Web 画面に何も表示されない場合

- BIOS テキストコンソールで起動した Web 画面上の「Logon」、「Enter Console」をクリック後、オンライン状態となったが画面に何も表示されない場合は、クライアント側のキーボードで【Ctrl】＋【r】キーを押してください。画像の再読み込みを行います。

POINT

- テキストコンソールのリダイレクションは、テキストベースのコンソールリダイレクションです。POST から OS（Windows/Linux）の起動開始まで（BIOS 設定含む）のリダイレクションが行えます。

4.11.2 ビデオリダイレクション（AVR）

リモートでコンソールのリダイレクションを行います。

重 要

- ビデオリダイレクションの機能を使用するには、別途、ライセンスキーが必要になります。
  ライセンスキーおよびライセンスの承認方法については、リモートマネジメントコントローラアップグレードのマニュアルをご覧ください。
  ライセンスキーの設定については、「4.2.2 リモートマネジメントコントローラのライセンスキー設定」（→ P.29）をご覧ください。
- ユーザの権限に「AVR 使用権限」が設定されていない場合、ビデオリダイレクションは行えません。
  「4.10.1 ユーザ管理」（→ P.67）の「■ ユーザ情報の変更」（→ P.68）を確認してください。
- リモートマネジメントコントローラを接続する LAN ポートに対しスパニングツリーが設定されている場合、サーバの電源 OFF/ON のタイミングでビデオリダイレクション、リモートストレージが切断されることがあります。スパニングツリーを設定しないでください。
  サーバ本体の LAN とリモートマネジメントコントローラの LAN が同じポートを使用している場合、サーバ本体の電源 OFF/ON を行うと、サーバ本体 LAN の初期化が行われ、それと同時にスパニングツリーが再構成されます。
  スパニングツリーの再構成には 30 秒以上かかるため、その間リモートマネジメントコントローラの LAN も通信ができなくなりビデオリダイレクション、リモートストレージが切断されます。
- ビデオリダイレクション経由で OS のインストールが可能です。
- OS のインストール中などに、ビデオリダイレクションで使用する USB デバイス（マウス、キーボード）が切断され操作不可能となった場合、「4.2.1 iRMC S2 情報」（→ P.28）の「iRMC S2 を再起動」をクリックして、iRMC S2 を再起動してください。その際、ビデオリダイレクションおよびリモートストレージのセッションが切断されます。iRMC S2 にログインし直して、再度ビデオリダイレクションおよびリモートストレージの接続を行ってください。

ライセンスが承認されていると、次の画面が表示されます。

項目	説明
スクリーンショット	ウォッチドッグタイムアウトなどが発生した場合に、その時点のスクリーンショットが自動的に作成され、リモートマネジメントコントローラ内に保持されます。
「全画面表示」	保持されているスクリーンショットを別画面で表示します。スクリーンショットが保持されていない場合、ボタンは表示されません。 「● スクリーンショットの全画面表示」（→ P.80）
「プレビュー」	保持されているスクリーンショットを画面内にプレビュー表示します。スクリーンショットが保持されていない場合、ボタンは表示されません。 「● スクリーンショットのプレビュー」（→ P.80）
「作成」	ボタンをクリックした時点のスクリーンショットを取得します。
「削除」	保持されているスクリーンショットを削除します。 スクリーンショットが保持されていない場合、ボタンは表示されません。

項目	説明
AVR 実行中セッション表	ビデオリダイレクション（AVR）に接続しているマシンの情報が表示されます。接続していない場合は表示されません。
番号	接続マシンの通し番号です。
IP アドレス	接続マシンの IP アドレスです。
ユーザ名	リモートサービスコントローラへのログインユーザ名です。
ユーザ ID	ログインユーザ名の ID 番号です。 詳しくは、「4.10.1 ユーザ管理」（→ P.67）をご覧ください。
アクセス権限	ビデオリダイレクション（AVR）の操作モードです。 ・表示のみ：参照モード ・フルコントロール：操作可能モード
ストレージ有効	リモートストレージ接続の状態です。
コントロール取得可能	ビデオリダイレクション（AVR）のコントロール可否です。 ・YES：コントロール権があります。 ・NO：コントロール権がありません。
セッション状況	ビデオリダイレクション（AVR）の接続状態です。
ビデオリダイレクション	
「ビデオリダイレクションの開始」	ビデオリダイレクション（AVR）を開始します。 「● ビデオリダイレクション」（→ P.81）
ビデオリダイレクションオプション	
ビデオリダイレクション中は USB ポートを無効化する	ビデオリダイレクションを行うときの USB ポートの使用を制限できます。設定値は次のとおりです。 ・None：制限なし ・前面 USB コネクタ：前面 USB コネクタを無効 ・背面 USB コネクタ：背面 USB コネクタを無効 ・すべて無効：すべての USB コネクタを無効
サーバ側のモニタ	サーバのモニタ出力を制御します。モニタ出力制御不可の場合、この項目は表示されません。
サーバ側モニタの出力を切替可能にする	サーバのモニタ出力を OFF にする場合、チェックします。この項目を有効にすると「常に出力 ON」が「出力 OFF」／「出力 ON」に変わります。 「出力 OFF」：サーバのモニタ出力を OFF にします。 「出力 ON」：サーバのモニタ出力を ON にします。
AVR 開始時に自動的にサーバ側モニタ出力を OFF にする	ビデオリダイレクション（AVR）接続時に自動的にサーバのモニタ出力を OFF にします。

POINT

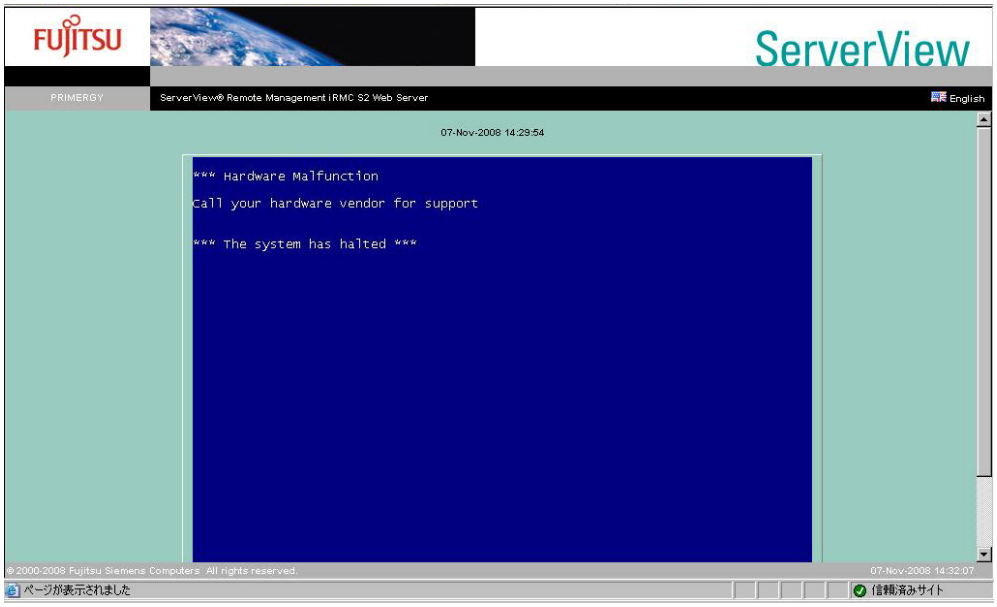
- 「サーバ側モニタの出力を切替可能にする」を有効にした場合、ビデオリダイレクション画面の「拡張機能」メニューからもサーバのモニタ出力を ON ／ OFF できます。
- 「ビデオリダイレクションオプション」は、サーバの機種や iRMC バージョンによっては表示されません。

重 要

- サーバ側のモニタが OFF の状態（「サーバ側モニタの出力を切替可能にする」が有効）の場合、サーバ前面のシステム識別灯は点滅状態となります。この状態では、「システム識別灯」ボタンを操作しても点滅状態は変わりません。

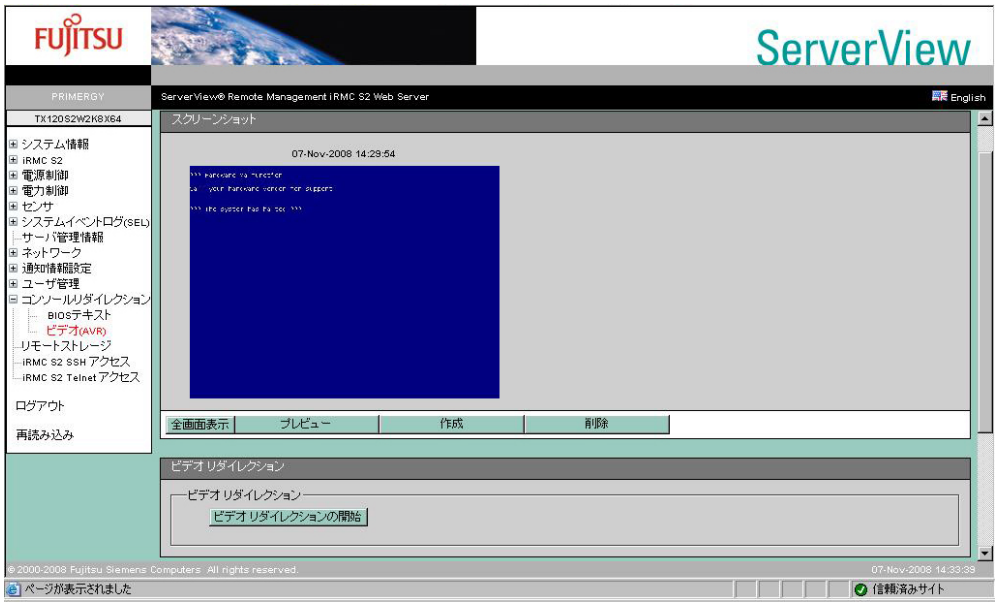
● スクリーンショットの全画面表示

スクリーンショットが保持されている状態で「全画面表示」をクリックすると、別画面にスクリーンショットが表示されます。終了するにはブラウザを閉じてください。



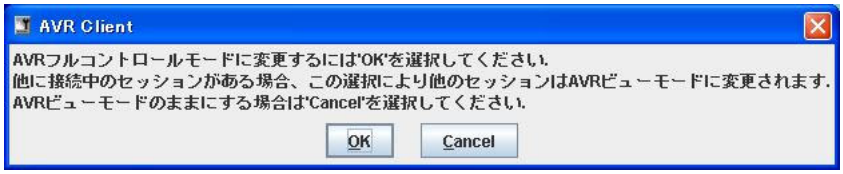
● スクリーンショットのプレビュー

スクリーンショットが保持されている状態で「プレビュー」をクリックすると、同じ画面内にスクリーンショットがプレビュー表示されます。プレビュー表示は 10 秒で自動的に閉じられます。



● ビデオリダイレクション

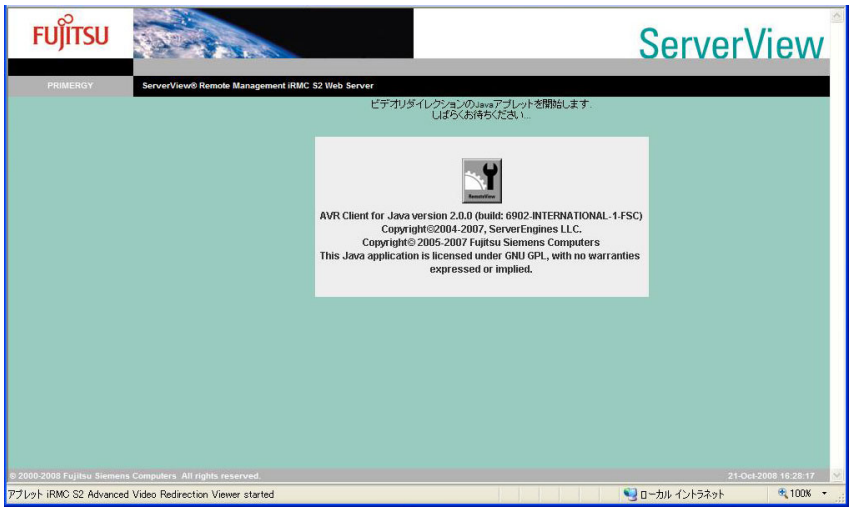
「ビデオリダイレクションの開始」をクリックするとビデオリダイレクション画面が起動します。また、起動時に次の画面が表示されます。



マウス、キーボードなどを使用する場合は、「OK」をクリックしてください。フルコントロールモードになります。「Cancel」をクリックするとビューモードになり、マウス、キーボードなどは使用できません。表示のみになります。

POINT

- ビデオリダイレクションでは Java を使用しているため、次の画面が起動されますが、ビデオリダイレクションを終了しても自動で同時終了されません。手動で終了してください。



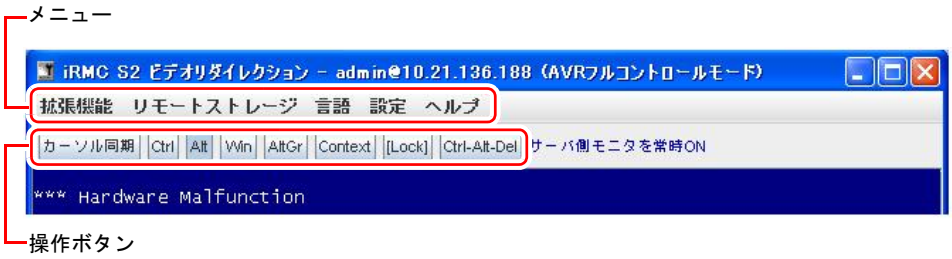
重 要

- ビデオリダイレクションでサポートしている OS の解像度は、次のとおりです。
  - ・800 × 600、16Bit/32Bit Color モード
  - ・1024 × 768、16Bit/32Bit Color モード
  - ・1152 × 864、16Bit Color モード
  - ・1280 × 1024、16Bit/24Bit Color モード（推奨）
  - ・1600 × 1200、16Bit Color モード

  上記以外、または標準以外の VGA ドライバの使用は未サポートです。
- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了せずに繰り返しビデオリダイレクションを起動した場合、Java エラーとなったり、ビデオリダイレクションが無応答となったりする場合があります。その場合には、ブラウザをすべて終了させ、再度リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを起動してください。
- ビデオリダイレクションでマウス、キーボード操作を有効にした場合、サーバ側では USB 接続のマウス、キーボードとして認識されます。サーバの設定で USB 接続が無効（USB ドライバがないなど）の場合は、マウス、キーボードのビデオリダイレクションでの操作はできません。

4.11.3 ビデオリダイレクションの画面構成

ビデオリダイレクションが起動すると、次の画面が表示されます。
画面上部にメニューがあり、その下に操作ボタンが配置されています。



■ ビデオリダイレクションのメニュー

項目		説明
拡張機能		
	グラフィカルキーボード表示	グラフィカルキーボードを表示します。 「4.11.6 グラフィカルキーボード」（→ P.90）
	サーバ側モニタ表示状態取得	サーバのモニタ出力状態を再取得します。現在のモニタ出力状態は、ビデオリダイレクション画面の操作ボタンの右側に青字で表示されます。
	サーバ側モニタ表示 ON	サーバのモニタ出力を ON にします。
	サーバ側モニタ表示 OFF	サーバのモニタ出力を OFF にします。
	画面の再読込	リダイレクション画面の再読み込みを行います。
	AVR フルコントロールモード	フルコントロールへ変更します。ビューモード時のみ有効です。
	AVR 接続の切断	ビデオリダイレクションでの接続を切断します。未サポートです。
	AVR ビューモード	ビューモードへ変更します。フルコントロールモード時のみ有効です。
	終了	ビデオリダイレクションを終了します。
リモートストレージ		リモートストレージの接続設定を行います。 「4.11.5 リモートストレージ接続」（→ P.86）
言語		言語が選択できます。
設定		マウス、キーボード、ログに関する設定を行います。 「4.11.7 マウス、キーボードの設定」（→ P.90）
ヘルプ		セッション状態、およびビデオリダイレクションのバージョンを表示します。

重 要

- 「拡張機能」メニューの「サーバ側モニタ表示状態取得」、「サーバ側モニタ表示 ON」、「サーバ側モニタ表示 OFF」の 3 項目はモニタ出力制御ができない機種では表示されません。

■ ビデオリダイレクションの操作ボタン

ボタン	説明
「カーソル同期」	サーバ側のマウスカーソル位置をシンクロ動作させます。
「Ctrl」	【Ctrl】キーに相当します。
「Alt」	【Alt】キーに相当します。
「Win」	【Windows】キーに相当します。
「AltGr」	ヨーロッパ仕様キー配列の【AltGr】キーに相当します。未サポートです。
「Context」	マウスの右クリックメニューを表示します。
「Lock」	【Ctrl】／【Alt】／【Windows】キーを押したままの状態になります。 自動解除されませんので、解除するには再度「Lock」をクリックしてください。
「Ctrl-Alt-Del」	【Ctrl】+【Alt】+【Del】キーの同時押しに相当します。

POINT

- Windows にログオンする場合は、「Ctrl-Alt-Del」をクリックしてください。

重 要

- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了せずに、URL を変更して別のリモートマネジメントコントローラに接続した場合、ビデオリダイレクションの「リモートストレージ」メニューは表示されません。別のリモートマネジメントコントローラに接続する際は、いったん、ブラウザを終了させてください。リモートストレージが使用できない場合は、その旨のメッセージが表示されます。

4.11.4 マウスカーソルのシンクロ動作設定

「カーソル同期」をクリックすると、マウスカーソルをシンクロさせることができます。
マウスカーソルがシンクロしない場合、ビデオリダイレクション対象のサーバで次の設定を行い、その後「カーソル同期」をクリックしてマウスのシンクロ操作を行ってください。

重 要

- マウスのシンクロ動作設定は、サーバサポート OS 以外はサポートしていません。
  また、マウスの動作を制御するソフトウェアが起動している場合、マウスカーソルのシンクロ動作が行えない場合があります。

■ Windows（Server Core 以外）の場合

ServerView Installation Manager（SVIM）を使用して OS をインストールした場合、設定の必要はありません。OS インストール時に自動設定されます。SVIM を使用せずに OS をインストールした場合、次の設定を行ってください。

● 手動設定方法

画面の設定

1 コントロールパネルを起動し、「画面」を選択します。

2 「設定」タブの「詳細」をクリックします。

3 「トラブルシューティング」タブの「ハードウェア アクセラレータ」を「最大」から左に 1 メモリ移動し、「OK」をクリックします。

マウスの設定

1 コントロールパネルを起動し、「マウス」を選択します。

2 マウスの動作設定を行います。

「ポインタオプション」タブの「精度を高める」にチェックを付けている場合はチェックを外します。

3 ビデオリダイレクションの「カーソル同期」をクリックし、マウスカーソルを同期させます。

マウスカーソルがずれる場合、「速度」項目のスライダーを調整してください。

● バッチを使用した設定方法

POINT

- バッチを使用した方法では OS の再起動が必要となります。
- 次の設定で間違ったバッチファイルを実行した場合、適用されません。正しいバッチファイルを再度実行してください。

1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ServerView Suite DVD 1 をセットし、お使いの OS により、次のフォルダへ移動します。

▶32 ビット OS の場合

¥DRV¥VIDEO¥MATROX¥iRMC¥W2K8

▶64 ビット OS の場合

¥DRV¥VIDEO¥MATROX¥iRMC¥x64W2K8

4 次のバッチファイルを実行します。
install_kronos2_vga.bat

5 OS を再起動します。

■ Windows（Server Core）の場合

ServerView Installation Manager（SVIM）を使用して OS をインストールした場合、設定の必要はありません。OS インストール時に自動設定されます。SVIM を使用せずに OS をインストールした場合、次の設定を行ってください。

POINT

- 次の設定で間違ったバッチファイルを実行した場合、適用されません。正しいバッチファイルを再度実行してください。

1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ServerView Suite DVD 1 をセットし、お使いの OS により、次のフォルダへ移動します。
▶32 ビット OS の場合
¥DRV¥VIDEO¥MATROX¥iRMC¥W2K8
▶64 ビット OS の場合
¥DRV¥VIDEO¥MATROX¥iRMC¥x64W2K8

4 次のバッチファイルを実行します。
install_kronos2_vga.bat

5 OS を再起動します。

■ Linux の場合

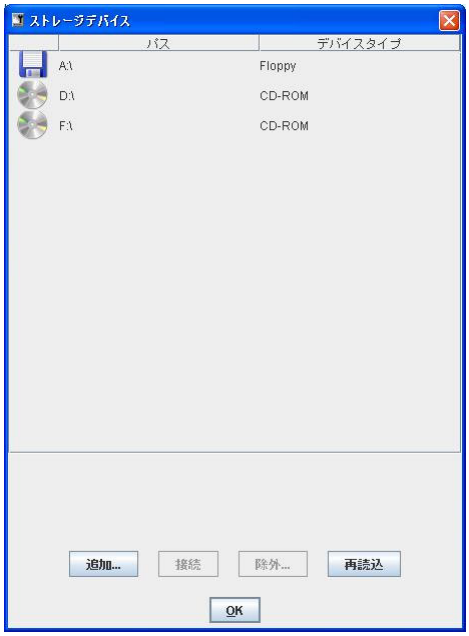
1 次のコマンドを実行します。

```
>xset m 0 0
```

このコマンドの実行は、対象サーバ側の OS でログアウト／ログインを実施するたびに必要となります。

4.11.5 リモートストレージ接続

「■ ビデオリダイレクションのメニュー」（→ P.82）から「リモートストレージ」を選択すると、リモートストレージ接続を実行することができます。リモートストレージ接続とは、Web インターフェースを起動しているマシンの外部記憶装置を、ビデオリダイレクションの対象サーバのリモート接続装置として接続させる機能です。接続したい装置を選択し「接続」をクリックすると、ビデオリダイレクションの対象サーバに接続されます。



重 要

- リモートストレージ接続の機能を使用するには、別途ライセンスキーが必要になります。
  ライセンスキー、およびライセンスの承認方法については、リモートマネジメントコントローラアップグレードのマニュアルをご覧ください。
- リモートストレージ接続の機能で利用できる機器は、次のとおりです。ただし、DVD ドライブにおける書き込み機能は未サポートです。
  ・内蔵フロッピーディスクドライブ
  ・ATAPI CD-ROM ドライブ
  ・ATAPI DVD ドライブ
  ・USB フロッピーディスクドライブ
  ・USB CD-ROM ドライブ
- リモートストレージ接続は、ビデオリダイレクション終了時に自動的に解除されます。
- リモートストレージで接続された機器は、サーバ側では USB 接続機器として認識されますので、USB が使用できない環境（USB ドライバがないなど）では使用できません。
- リモートストレージ接続で、一度に接続できる機器は 2 台までです。
- リモートストレージ接続中に媒体を交換する場合は、新たな媒体をセットした後、一度「切断」して再度リモートストレージ接続を行う必要があります。

POINT

- 装置の接続を解除したい場合は、「切断」をクリックします。
- リモートストレージの一覧に表示されていない装置がある場合は、「再読込」をクリックしてください。装置の再検索を行います。
- 画面に表示されない装置（ImageFile など）を追加する場合は、「追加」をクリックして表示される「ストレージデバイスの追加」画面で「ストレージタイプ」を選択してから指定してください。
- フロッピーディスクや CD-ROM などは、媒体がセットされていないと一覧には表示されません。
- リモートデバイスの追加接続や個別解除はできません。
- BIOS が USB Legacy をサポートしている場合には、リモートストレージで接続した媒体から起動できます。リモートストレージ接続した媒体を BOOT 順番の一番上に設定してください。
  ただし、BIOS セットアップユーティリティに「Multiboot」および「USB Legacy Support」の項目がある場合には、「Enabled」に設定する必要があります。

● リモートストレージ接続で 2 台同時接続している際の USB 速度の切り替え方法

リモートストレージで 2 台同時に接続した場合、サーバ側では USB1.1 と USB2.0 で接続されます。
どちらの接続にどの USB を接続するか選択する画面が表示されます。

1 「交換」をクリックします。

2 台の装置の接続（「USB 1.1」と「USB 2.0」）が切り替わります。

2 「OK」をクリックします。

■ Red Hat Linux でのリモートストレージ接続で一度に 2 台接続する方法

POINT

- 各コマンドの詳細は Linux コマンドのマニュアルをご覧ください。

● RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) 以外の場合

RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) 以外の機器に対してのリモートストレージ接続は、デフォルト設定では 1 台のみ有効ですが、次の方法を行うことで一度に 2 台の機器への接続が可能です。

例）フロッピーディスクドライブ／ CD-ROM ドライブの 2 台を同時接続する場合（FPD:No0,CD-ROM:No.1）

1 クライアント側でリモート接続します。

1. 「■ ビデオリダイレクションのメニュー」（→ P.82）から「リモートストレージ」をクリックします。
2. 表示された画面で、フロッピーディスクドライブ／ CD-ROM ドライブを選択して「接続」をクリックします。

2 サーバの RedHat 画面（ビデオリダイレクション）で次のコマンドを実行します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

接続デバイス情報が表示されます。

3 リモートストレージで接続された 1 台目（FPD）の設定のうち、Host 名、Channel、id、Lun の情報を控えておきます。

（例：Host 名 :scsi3 Channel:0 id:0 Lun:0）

4 次のコマンドを実行します。

```
echo "scsi add-single-device A B C D" >/proc/scsi/scsi
```

上記の A、B、C、D にはそれぞれ次の内容を設定してください。

記号	意味	説明
A	Host 名の scsi 番号	例えば Host 名が scsi3 なら A は 3 となります。接続するたびに変わります。
B	Channel 番号	リモートストレージ接続 1 台目と同じ Channel 番号を設定します。
C	id 番号	リモートストレージ接続 1 台目と同じ id 番号を設定します。
D	Lun 番号	「リモートストレージ接続 1 台目の Lun 番号」＋ 1 の数字を設定します。

▶例：Host 名 :scsi3 Channel:0 id:0 Lun:0 の場合

```
echo "scsi add-single-device 3 0 0 1" >/proc/scsi/scsi
```

5 次のコマンドを実行します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

追加設定で CDROM が設定されたことを確認します。

6 次のコマンドを実行し、media フォルダに cdrom が追加されることを確認します。

```
ls /media
```

cdrom1 があれば問題ありません。

7 次のコマンドを実行し、RemoteCDROM に入れることを確認します。

```
cd /media/cdrom1
```

8 次のコマンドを実行し、設定を削除します。

設定を削除せずにリモートストレージ接続を終了すると、cdrom1 の設定が残ったままとなるため、次回の接続では cdrom2 となります。

```
echo "scsi remove-single-device A B C D" >/proc/scsi/scsi
```

上記の A、B、C、D には、手順 4 の表の内容を設定してください。

9 次のコマンドを実行し、設定が削除されたか確認します。

```
cat /proc/scsi/scsi
```

10 クライアントでリモートストレージの接続を解除します。

Web コンソールの画面で「切断」をクリックします。

● RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) の場合

RHEL5(x86)、RHEL5(Intel64) ではそのままで接続は可能ですが、自動で OS にマウントされない場合があります。
この場合は、マウントコマンドを使用してマウントしてください。

- フロッピーディスクのマウントコマンドの例

```
mount /dev/hdb  /media/floppy
```

- CD-ROM のマウントコマンドの例

```
mount /dev/scd0  /media/cdrom
```

4.11.6 グラフィカルキーボード

「■ ビデオリダイレクションのメニュー」（→ P.82）から「拡張機能」→「グラフィカルキーボード表示…」の順に選択すると、ビデオリダイレクションの画面上にグラフィカルキーボードを表示できます。
画面上のキーボードをマウスでクリックすると、対応するキーが対象サーバに送信されます。

4.11.7 マウス、キーボードの設定

「■ ビデオリダイレクションのメニュー」（→ P.82）から「設定」→「設定」の順に選択すると、マウスの動作モード、キーボードのキー配列、ログの採取、画面の設定が行えます。
設定を選択後、「OK」をクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。
ユーザ名とパスワードを入力し、「はい」をクリックすると設定が反映されます。

重 要

- サーバ側で Num Lock On の状態でビデオリダイレクションを行うと、クライアント側も Num Lock On となります。

■ マウスタブ

マウスの動作モードを設定します。

項目	説明
マウス動作モード	
操作側を非表示 (Relative)	操作側のマウスカーソルを表示しません（モードは Relative Mode）。
Absolute モード	X 軸、Y 軸アドレス移動モードです。
Relative モード	相対アドレス移動モードです。

POINT

- 「操作側を非表示（Relative）」を選択後、再びクライアント側のマウスカーソルを表示する場合はクライアント側のキーボードで【Ctrl】＋【Alt】＋【0】を同時に押してください。
  【0】はテンキーではなく、ファンクションキーの下位置にある【0】キーを使用してください。

■ キーボードタブ

キーボードのキー配列、および接続タイプを設定します。

項目	説明
言語タイプ	キーボードのキー配列を設定します。日本語キーボードが選択可能です。

■ ログタブ

ビデオリダイレクションのログを作成します。

項目	説明
ログ採取先	ログの出力先を指定します。
ログしない	ログファイルを出力しません。
Java コンソール	Java コンソールにログを出力します。
ログファイル	指定ファイルにログを出力します。
Java コンソールとログファイル	Java コンソール、および指定ファイルにログを出力します。
ログファイル	出力するログファイルを指定します。

■ その他設定タブ

その他、ビデオリダイレクション（AVR）デバッグ項目を設定します。

項目	説明
ハードウェア圧縮	ハードウェアによる圧縮を許可します。未サポートです。

4.12 リモートストレージ

リモートストレージの状態を参照します。

ビデオリダイレクションで設定したリモートデバイスの状態が表示されます。

項目	説明
リモートストレージ接続状態	
番号	リモートデバイスの通し番号です。
IP アドレス	デバイスが存在するサーバ／ PC の IP アドレスです。
ポート番号	リモートデバイスが接続（通信）に使用するポート番号です。
接続元番号	接続の際に割り当てられた番号です。
接続元情報	デバイスが存在するサーバ／ PC での状態です。 ・接続不可（未検索状態） ・接続可能（検索済み状態）
接続状態	現在の接続状態です。 ・未接続状態 ・接続状態
リモートストレージサーバ	
番号	リモートストレージサーバの通し番号です。
IP アドレスまたは DNS 名	リモート接続するストレージサーバの IP アドレス、または DNS の登録名を指定します。
「適用」	リモートストレージサーバの設定を保存します。
「接続」	接続対象のイメージサーバを接続します。
「切断」	接続されているイメージサーバを接続解除します。

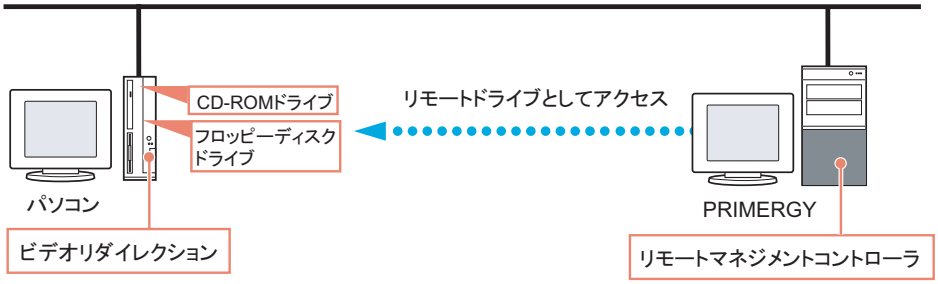
POINT

- この画面でリモートストレージ接続は行えません。接続はビデオリダイレクションから行ってください。
- 「切断」をクリックすると、リモートストレージ接続もリモートストレージサーバと同時に解除されます。
- ユーザの権限に「リモートストレージ有効」が設定されていない場合、ビデオリダイレクションは行えません。「4.10.1 ユーザ管理」（→ P.67）の「■ ユーザ情報の変更」（→ P.68）を確認してください。
- リモートストレージサーバ機能を使用するには、ツールの導入、設定が必要となります。
  詳しくは、「付録 B リモートストレージサーバツール」（→ P.124）をご覧ください。

■ リモートストレージ接続とリモートストレージサーバの違いについて

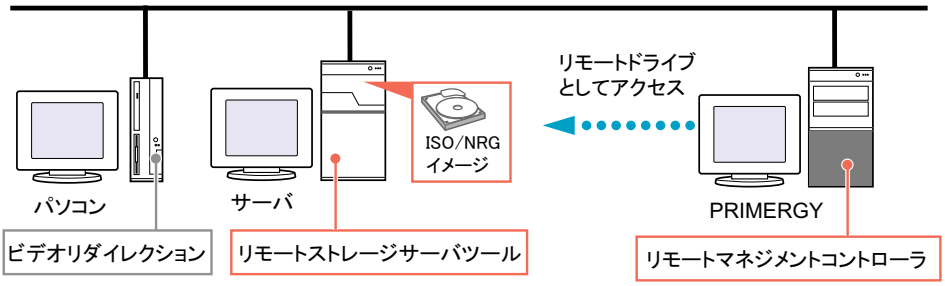
● リモートストレージ接続

ビデオリダイレクションを行っている PC またはサーバに接続中の周辺機器（CD-ROM など）を、リモートマネジメントコントローラが搭載された対象のサーバに遠隔接続します。
ビデオリダイレクションについては、「4.11.2 ビデオリダイレクション（AVR）」（→ P.77）をご覧ください。



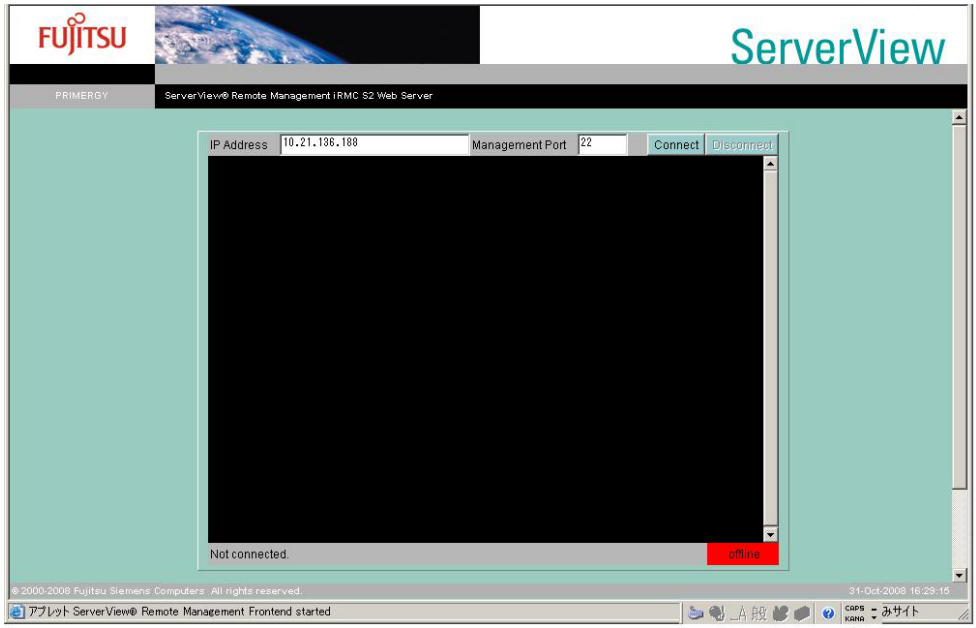
● リモートストレージサーバ

リモートストレージサーバツールが動作しているサーバの ISO / NRG イメージを、対象のサーバに遠隔接続します。
リモートストレージ接続と違い、ビデオリダイレクションからの切断や iRMC S2 からログオフを行っても接続され続けます。切断するには「切断」ボタンをクリックするか、またはリモートストレージサーバのサービス停止が必要です。



4.13 iRMC S2 SSH アクセス

リモートマネジメントコントローラへ SSH 接続を行います。



項目	説明
IP Address	iRMC S2 に設定された IP Address が表示されます。
Management Port	iRMC S2 に設定された SSH Port が表示されます。
「Connect」	「IP Address」に表示されている iRMC S2 に接続します。
「Disconnect」	iRMC S2 から切断します。

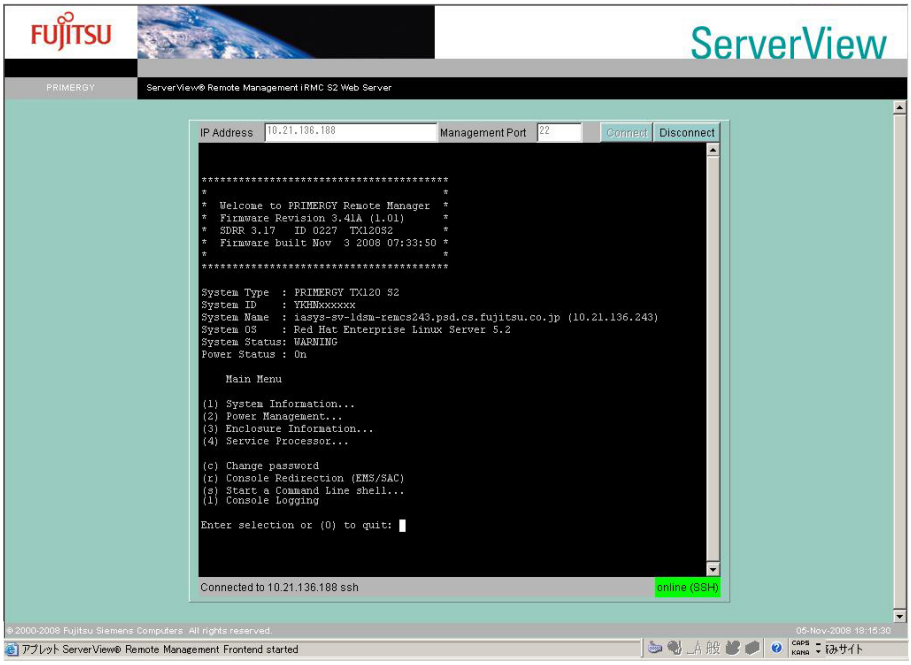
4.13.1 接続方法と終了方法

● 接続方法

1 「Connect」をクリックします。

2 リモートマネジメントコントローラの接続 ID とパスワードを入力します。

リモートマネジメントコントローラへ接続されます。



● 終了方法

1 「Disconnect」をクリックします。

リモートマネジメントコントローラへの接続を終了します。

メインメニューから「quit」を選択せずに「Disconnect」をクリックした場合は、自動的に接続を終了します。

なお、接続を終了しても画面は閉じません。画面を閉じるには、「ファイル」メニューの「終了」を選択してください。

4.13.2 メインメニュー

リモートマネジメントコントローラのメインメニューです。
表示されるメニューはサーバにより異なり、使用可能なメニューが表示されます。
項目の左側の番号や文字を入力すると、各項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。利用できない機能には（*）が表示されます。
【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。メインメニューを表示しているときに【0】キーを押すと、接続が切断されます。

メニュー項目	説明
System Information	システム情報が表示されます。
Power Management	サーバの電源制御を行います。選択すると電源制御メニューが表示されます。
Enclosure Information	筐体情報や SEL が表示されます。
Service Processor	iRMC S2 の IP 設定の表示、変更を行います。
Change password	iRMC S2 パスワードの変更設定です。
Console Redirection (EMS/ASC)	コンソールをリダイレクトする場合に使用します。
Start a Command Line shell..	iRMC に対し、直にコマンドを入力する場合に使用します。
Console Logging	Telnet 接続のログをシリアルポート接続先にログ出力します。

■ PowerManagement

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
Power Cycle	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断し、電源を再投入します。
Power On	サーバの電源を投入します。
Graceful Power Off (Shutdown)	サーバをシャットダウンします。リモートマネジメントコントローラがシャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。
Graceful Reset (Reboot)	サーバを再起動します。リモートマネジメントコントローラがリセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。
Raise NMI (via iRMC S2)	サーバに NMI 信号を送信します。NMI をサポートしていないサーバでは選択できません。

■ Console Redirection（EMS/ASC）

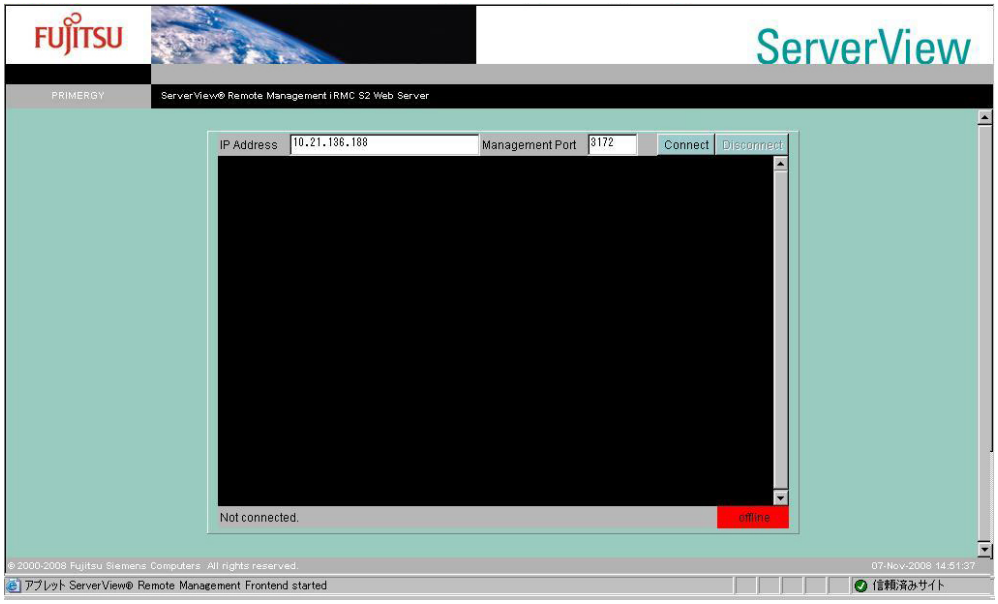
リモートマネジメントコントローラのコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。
キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。
コンソールリダイレクションによって次の操作が行えます。

- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ

コンソールリダイレクションは、チルダ（~）とピリオド（.）、または "Esc" と "(" を 2 秒以内に続けて入力すると終了します。

4.14 iRMC S2 Telnet アクセス

リモートマネジメントコントローラへ Telnet 接続を行います。



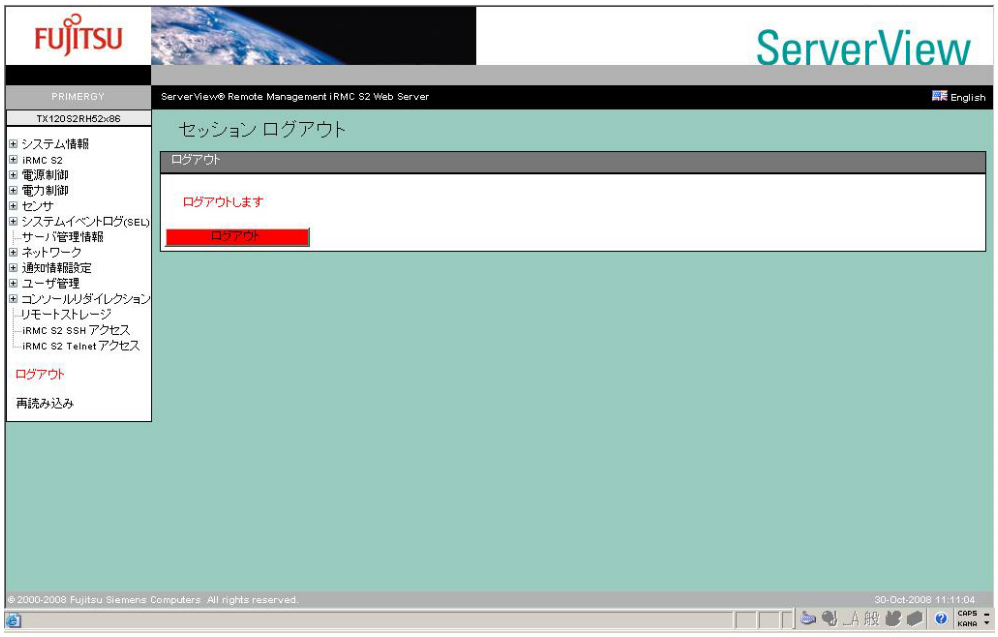
接続方法と終了方法、およびメインメニューは、「4.13 iRMC S2 SSH アクセス」（→ P.94）と同様です。それぞれ「4.13.1 接続方法と終了方法」（→ P.95）および「4.13.2 メインメニュー」（→ P.96）をご覧ください。

POINT

- リモートマネジメントコントローラへ Telnet 接続を行う場合は、あらかじめネットワーク画面の「ポート」で Telnet を有効にする必要があります。「4.8 ネットワーク」（→ P.59）をご覧ください。

4.15 セッションログアウト

リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースからログアウトします。



ボタン	説明
「ログアウト」	「ログアウト」をクリックすると、一度ログアウトの確認が行われた後に、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースとのセッションを終了します。 ログアウト後、「ログアウト」は「ログイン」に変わります。再度ログインする場合は、「ログイン」をクリックしてください。

POINT

- 「ログアウト」によりログアウトしても、ブラウザは終了しません。

付録

この章では、LDAP を使用する際に必要な設定や、リモートストレージサーバツールの設定について説明しています。

A　LDAP を使用する場合の設定 100
B　リモートストレージサーバツール 124

A　LDAP を使用する場合の設定

リモートマネジメントコントローラでは LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）を利用したディレクトリ・サービスを利用できます。
その際、ディレクトリ・サービス（Directory Service）にリモートマネジメントコントローラ専用の設定が必要となります。

A.1　ディレクトリ・サービスを利用する際に必要な設定

ディレクトリ・サービスを利用する設定は、iRMC S2 V3.77 より前と以降で異なります。

● iRMC S2 V3.77 より前の場合

LDAP v1 をサポートしています。また、Active Directory のみサポートしています。
グループに権限を割り当てます。グループにユーザが含まれるため権限も継承されます。

- ドメイン配下に Organizational Unit 「iRMCgroups」が必要です。
- 「iRMCgroups」配下に Organizational Unit「Departments」、「Shell」が必要です。
- 「Departments」配下に管理名（任意名）の Organizational Unit が必要です。
- 管理名の配下にリモートマネジメントコントローラアクセスの権限を設定するためのセキュリティグループが必要です。
  リモートマネジメントコントローラへ LDAP を利用してログインするためには、ユーザ（ID）がこのセキュリティグループに属している必要があります。

● iRMC S2 V3.77 以降の場合

LDAP v2 をサポートしています。また、Active Directory、Open LDAP をサポートしています。
ロールに権限を割り当てます。ユーザに対して 1 つ以上のロールを割り当てることができます。ロールベースの認証をします。

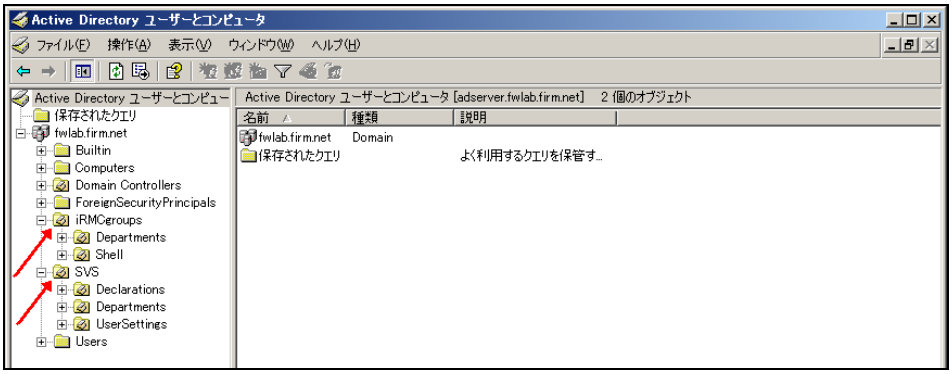
- ドメイン配下に Organizational Unit 「SVS」が必要です。
- 「SVS」配下に Organizational Unit「Declarations」、「Departments」、「User Settings」が必要です。
  ・「Declarations」は、あらかじめ定義されたアクセスレベルやルールが設定されます。
  ・「Departments」は、実際にアクセスを許可するグループやその特権が設定されます。
  ・「User Settings」は、アラーム通知などが設定されます。
- 「Departments」配下に管理名（任意名）の Organizational Unit が必要です。
- 管理名の配下にリモートマネジメントコントローラアクセスの権限を設定するためのセキュリティグループが必要です。
  リモートマネジメントコントローラへ LDAP を利用してログインするためには、ユーザ（ID）がこのセキュリティグループに属している必要があります。

POINT

▶ ロールとは、権限や他のロールをまとめた集合体のことです。

重 要

- 設定にはディレクトリ・サービスの知識が必要となります。十分な知識を持った方のみ、操作を行ってください。
- iRMC S2 V3.77 以降では、あらかじめ定義された設定が必要なため、SVS_LdapDeployer ツールを使用して設定を行います。
- iRMC S2 V3.77 より前では、OU「SVS」は使用できません。
- iRMC S2 V3.77 以降では、OU「iRMCgroups」、「SVS」のどちらも使用可能です。両方の OU が存在する LDAP では、まず「SVS」を検索し、見つからない場合に「iRMCgroups」を検索します。



A.2 ディレクトリ・サービスの手動設定（iRMC S2 V3.77 より前の場合）

Windows 標準のディレクトリ・サービスである「Active Directory」に対する設定手順を説明します。
リモートマネジメントコントローラがディレクトリ・サービスにアクセスし、利用するために、Active Directory（ディレクトリ・サービス）へ次の設定を行います。

POINT

- リモートマネジメントコントローラにアクセスする「ユーザ（ID）」／「パスワード」は事前に Active Directory で作成しておく必要があります。

1 Active Directory のドメイン配下に Organizational Unit（以降 OU と記載します）として「iRMCgroups」（名前固定）を作成します。

1. Active Directory が設定されているサーバで 「Active Directory ユーザーとコンピュータ」設定を起動します。
2. ドメイン名の配下に「iRMCgroups」という OU を作成します。

POINT

- Active Directory のドメイン名は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの「ディレクトリ サービス構成」の「ドメイン名」に設定します。
「4.10.2 ディレクトリサービス構成」（→ P.73）

2 手順 1 で作成した OU「iRMCgroups」の配下に、さらに「Departments」「Shell」（両方とも名前固定）という OU を作成します。

OU「Shell」は使用しません。

3 手順 2 で作成した OU「Departments」の配下に、さらに OU を作成します。

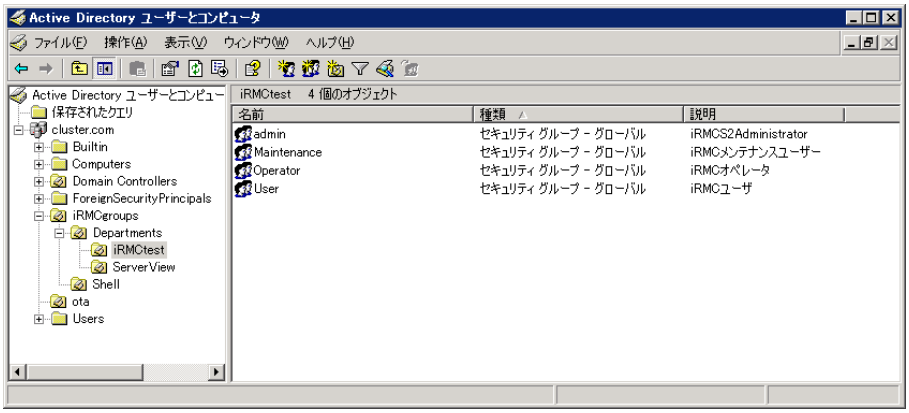
ここで作成する OU の名前は、任意です。

OU「Departments」の配下には、複数の OU を作成することができます。

POINT

- ここで設定した OU 名は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの「ディレクトリ サービス構成」の「Dept. name」に設定します。
  「4.10.2 ディレクトリサービス構成」（→ P.73）
  「ディレクトリ サービス構成」の「Dept. name」に設定できる OU 名は 1 つのみです。

4 手順 3 で作成した OU（任意の名前）の配下に「セキュリティグループ - グローバル」を新規作成します。



上の図では「admin」「Maintenance」「Operator」「User」の 4 つのセキュリティグループを作成しています。グループ名、グループ数は任意です。

5 作成したセキュリティグループのプロパティを表示し、「メモ」に各権限を設定したテキストを入力します。

項目	設定値
LAN	OEM ／ Administrator ／ Operator ／ User
Serial	OEM ／ Administrator ／ Operator ／ User
UserAccounts	On ／ Off
iRMCsettings	On ／ Off
VideoRedirection	On ／ Off
RemoteStorage	On ／ Off

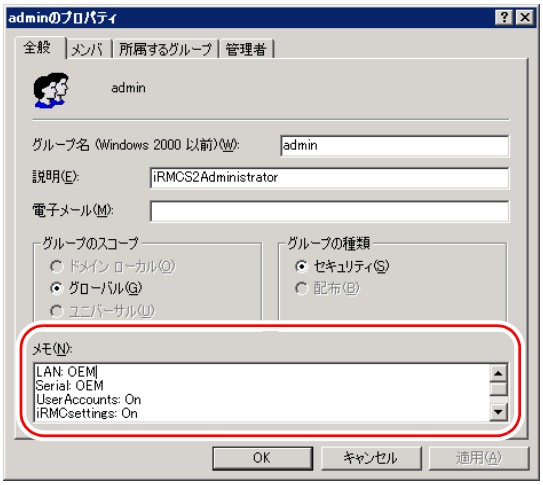
POINT

- 各権限の内容については「■ ユーザ情報の新規作成」（→ P.71）をご覧ください。

▶入力例

```
LAN: OEM
Serial: OEM
UserAccounts: On
iRMCsettings: On
VideoRedirection: On
RemoteStorage: On
```

ここで設定した権限がリモートマネジメントコントローラでの権限となります。



6 リモートマネジメントコントローラにアクセスするユーザ（ID）をセキュリティグループに登録します。

1. ユーザを登録するセキュリティグループのプロパティを表示し、「メンバ」タブをクリックします。

2. 「追加」をクリックして、リモートマネジメントコントローラにアクセスするユーザ（ID）を設定します。

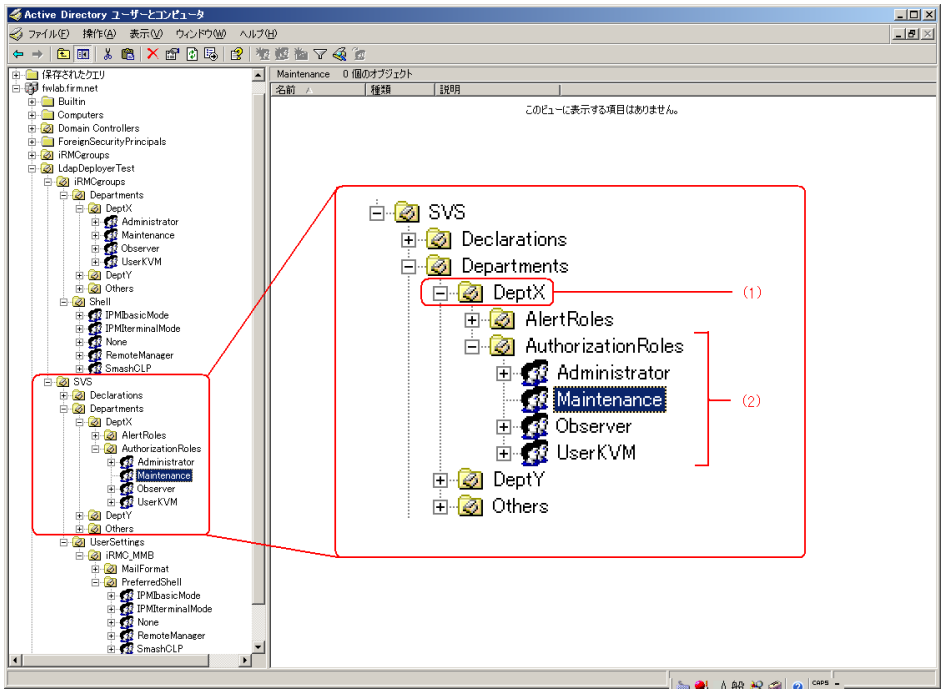
7 Active Directory の設定終了後、リモートマネジメントコントローラの「ディレクトリ サービス構成」の各項目を設定します。

「4.10.2 ディレクトリサービス構成」（→ P.73）

次回のログインより Active Directory が使用可能となります。

A.3 SVS_LdapDeployer ツールを使用した LDAP 設定（iRMC S2 V3.77 以降の場合）

iRMC S2 V3.77 以降では、LDAP で管理可能な設定やロールが増えたため、Java のツールを使用してロールの作成を行います。



■ SVS_LdapDeployer

ディレクトリサービスを使用して iRMC S2 のユーザ管理を行うには、SVS 構成と iRMC グループ構成を LDAP ディレクトリサービス内に作成する必要があります。

SVS_LdapDeployer を使用して、SVS 構成と iRMC グループ構成を作成し、修正します。

SVS_LdapDeployer は、Java アーカイブ（SVS_LdapDeployer.jar）で、PRIMERGY ServerView Suite DVD 1 に格納されています。

● 設定ファイル（XML ファイル）

SVS_LdapDeployer は、XML 形式の設定ファイルに基づいて LDAP 構成を作成します。この入力ファイルには、XML 形式構文で作成された SVS 構成や iRMC グループ構成の構成情報が含まれています。

POINT

- 設定ファイルの構文については、Generic_Settings.xml および Generic_InitialDeploy.xml というサンプル設定ファイルをご覧ください。これらのサンプルファイルは、SVS_LdapDeployer.jar と一緒に PRIMERGY ServerView Suite DVD 1 に格納されています。
  - ・Generic_InitialDeploy.xml
    SVS や iRMCgroups、プリセットされた部門を作成するための初期設定に使用します。
  - ・Generic_Settings.xml
    初期設定以降、個別の部門やユーザに対して、権限や権限を割り当てたロールを再設定する場合に使用します。
- 入力ファイルの <Settings> には、ディレクトリサーバへ接続するための有効な接続データを毎回必ず入力してください。
- サーバへアクセスするための認証データもオプションで入力できます。また、SVS_LdapDeloyer のコマンドラインでも認証データを指定できます。
- SVS_LdapDeployer を実行する場合は、設定ファイルまたはコマンドラインで認証データを指定してください。

● SVS_LdapDeployer の起動

1 ディレクトリサーバ上のフォルダに SVS_LdapDeployer.jar を保存します。

2 ディレクトリサーバのコマンドインターフェースを開きます。

3 SVS_LdapDeployer.jar が格納されているフォルダへ移動します。

4 次の構文を使用して、SVS_LdapDeployer を呼び出します。

```
java -jar SVS_LdapDeployer.jar <command> <file> [<option>...]
```

コマンド	説明
<command>	実行するアクションを指定します。
-deploy	ディレクトリサーバ上にグローバル iRMC ／ iRMC S2 ユーザ管理の LDAP 構成を作成します。
-delete	ディレクトリサーバ上からグローバル iRMC ／ iRMC S2 ユーザ管理のための LDAP 構成を削除します。
-import	既存の LDAP v1 構成から、同等の LDAP v2 構成を作成します。
-synchronize	LDAP v2 構成で行った変更を反映するために、既存の LDAP v1 構成の中でそれに対応した変更を行います。
<file>	SVS_LdapDeploy で入力ファイルとして使用される設定ファイル（.xml）です。この設定ファイルには、XML 形式構文で作成された SVS 構成や iRMC グループ構成の構成情報が含まれています。
<option> [<option> ...]	指定されたコマンドの実行を制御するオプションです。

POINT

- SVS_LdapDeployer を実行中に、行われている様々な手順が表示されます。詳細情報は log.txt で確認できます。log.txt は、SVS_LdapDeployer が実行されるたびに、その実行フォルダ内に作成されます。
- SVS_LdapDeployer は、必要に応じたサブツリーをすべて作成します。作成されたサブツリーは、そのグループすべてを含みますが、ユーザとグループの間に関連はありません。SVS や iRMC グループという組織単位（OU）をディレクトリサービスに作成した後、利用するディレクトリサービスで必要に応じたツールを使って、ユーザエントリを作成します。作成したユーザエントリをグループに割り当てます。

● LDAP 構成の作成、修正

-deploy コマンドを使用して、ディレクトリサーバ上に新規 LDAP 構成を作成できます。
また、既存の LDAP 構成に新しいエントリを追加できます。

POINT

- 既存の LDAP 構成からエントリを削除する前に、-delete を使用して LDAP 構成を削除してください。その後、適合した設定ファイルを使って再度 LDAP 構成を作成してください。

構文

```
-deploy <file> [-structure {v1 | v2 | both}]
      [ -username <user>]
      [ -password <password>][ -store_pwd <path>][ -kloc <path>]
      [ -kpwd [<key-password>]]
```

コマンド	説明
<file>	設定データを含んだ XML ファイルです。 初めて構成を作成するときや構成を拡大するには、設定ファイル内の <Data> 部分に必要なロールと部門がすべて含まれている必要があります。
-structure v1 | -structure v2 | -structure both	LDAP v1 構成、LDAP v2 構成、または LDAP v1 構成と LDAP v2 構成を作成します。
-username <user>	ディレクトリサーバにログインするためのユーザ名です。
-password <password>	ユーザ <user> のパスワードです。
-store_pwd	ランダムに作成されたキーを使用してパスワード <password> を暗号化します。-deploy が正常に実行された後、暗号化されたパスワードは設定ファイル内に保存されます。 初期設定では、ランダムに作成されたキーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダ内に保存されます。 **注意事項：** ▶ ランダムに作成されたキーは安全な場所に保存してください。前もって定義されたフォルダがセキュリティ上適切でない、または他のユーザがキーを保存しているフォルダにアクセスできてしまう場合は、-kloc および -kpwd オプションを使用してキーを安全に保存してください。
-kloc <path>	ランダムに作成されたキーを <path> へ保存します。このオプションを指定しない場合、キーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダに保存されます。

コマンド	説明
-kpwd [<password>]	ランダムに作成されたキーを保護するためのパスワードを指定します。<password> を指定しない場合、パスワードは現在のランタイム環境のスナップショットに基づき自動的に生成されます。

● LDAP 構成の削除

-delete コマンドを使用して、LDAP 構成をディレクトリサーバから削除できます。

構文

```
-delete <file> [-structure {v1 | v2 | both}]
      [ -username <user>]
      [ -password <password>][ -store_pwd <path>][ -kloc <path>]
      [ -kpwd [<key-password>]]
```

コマンド	説明
<file>	削除する構成を指定する XML ファイルです。
-structure v1 | -structure v2 | -structure both	LDAP v1 構成、LDAP v2 構成、または LDAP v1 構成と LDAP v2 構成を削除します。
-username <user>	ディレクトリサーバにログインするためのユーザ名です。
-password <password>	ユーザ <user> のパスワードです。
-store_pwd	ランダムに作成されたキーを使用してパスワード <password> を暗号化します。-delete が正常に実行された後、暗号化されたパスワードは設定ファイル内に保存されます。 初期設定では、ランダムに作成されたキーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダ内に保存されます。 **注意事項：** ▶ **ランダムに作成されたキーは安全な場所に保存してください。前もって定義されたフォルダがセキュリティ上適切でない、または他のユーザがキーを保存しているフォルダにアクセスできてしまう場合は、-kloc および -kpwd オプションを使用してキーを安全に保存してください。**
-kloc <path>	ランダムに作成されたキーを <path> へ保存します。このオプションを指定しない場合、キーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダに保存されます。
-kpwd [<password>]	ランダムに作成されたキーを保護するためのパスワードを指定します。<password> を指定しない場合、パスワードは現在のランタイム環境のスナップショットに基づき自動的に生成されます。

● LDAP v1 構成を LDAP v2 構成へインポートする

-import コマンドを使用すると、既存の LDAP v1 構成と同等の LDAP v2 構成をディレクトリサーバ上に作成できます。

構文

```
-import <file> [ -username <user>]
      [ -password <password>][ -store_pwd <path>][ -kloc <path>]
      [ -kpwd [<key-password>]]
```

コマンド	説明
<file>	インポートする構成を指定する XML ファイルです。
-username <user>	ディレクトリサーバにログインするためのユーザ名です。
-password <password>	ユーザ <user> のパスワードです。
-store_pwd	ランダムに作成されたキーを使用してパスワード <password> を暗号化します。-import が正常に実行された後、暗号化されたパスワードは設定ファイル内に保存されます。 初期設定では、ランダムに作成されたキーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダ内に保存されます。 **注意事項：** ▶ **ランダムに作成されたキーは安全な場所に保存してください。前もって定義されたフォルダがセキュリティ上適切でない、または他のユーザがキーを保存しているフォルダにアクセスできてしまう場合は、-kloc および -kpwd オプションを使用してキーを安全に保存してください。**
-kloc <path>	ランダムに作成されたキーを <path> へ保存します。このオプションを指定しない場合、キーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダに保存されます。
-kpwd [<password>]	ランダムに作成されたキーを保護するためのパスワードを指定します。 <password> を指定しない場合、パスワードは現在のランタイム環境のスナップショットに基づき自動的に生成されます。

● LDAP v2 構成の変更を LDAP v1 構成へ同期する

LDAP v1 構成と LDAP v2 構成が混在している場合、-synchronize コマンドを使用して、LDAP v2 構成で行った変更を既存の LDAP v1 構成へ同期できます。

POINT

▶ **変更する場合は、必ず LDAP v2 構成で変更してください。**

構文

```
-synchronize <file> [ -username <user>]
      [ -password <password>][ -store_pwd <path>][ -kloc <path>]
      [ -kpwd [<key-password>]]
```

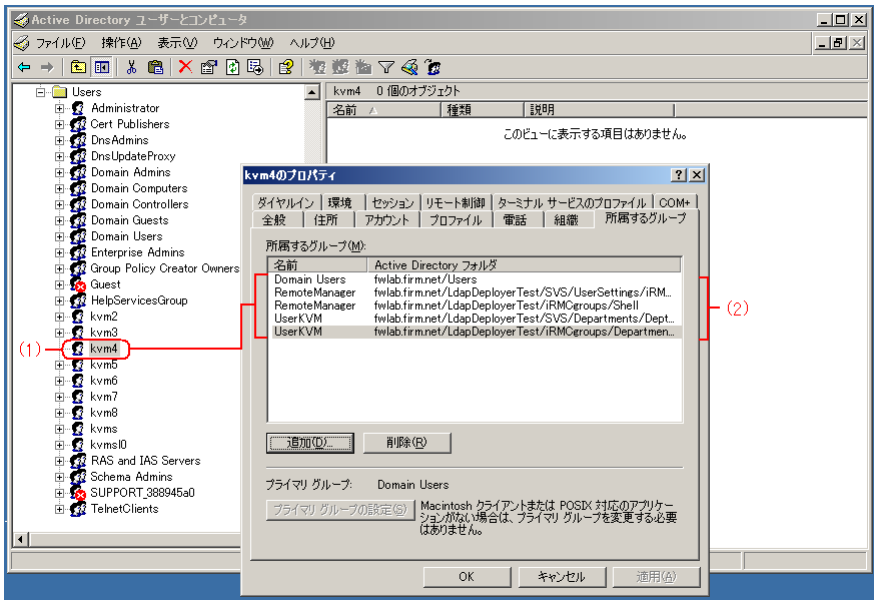
コマンド	説明
<file>	同期する構成を指定する XML ファイルです。
-username <user>	ディレクトリサーバにログインするためのユーザ名です。
-password <password>	ユーザ <user> のパスワードです。
-store_pwd	ランダムに作成されたキーを使用してパスワード <password> を暗号化します。-import が正常に実行された後、暗号化されたパスワードは設定ファイル内に保存されます。 初期設定では、ランダムに作成されたキーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダ内に保存されます。 **注意事項：** ▶ **ランダムに作成されたキーは安全な場所に保存してください。前もって定義されたフォルダがセキュリティ上適切でない、または他のユーザがキーを保存しているフォルダにアクセスできてしまう場合は、-kloc および -kpwd オプションを使用してキーを安全に保存してください。**
-kloc <path>	ランダムに作成されたキーを <path> へ保存します。このオプションを指定しない場合、キーは SVS_LdapDeployer が実行されたフォルダに保存されます。
-kpwd [<password>]	ランダムに作成されたキーを保護するためのパスワードを指定します。 <password> を指定しない場合、パスワードは現在のランタイム環境のスナップショットに基づき自動的に生成されます。

■ Active Directory を使用した iRMC S2 ユーザ管理

SVS_LdapDeployer で各ロールを作成した後、ユーザの所属グループを設定してください。

例）ユーザ kvms4 を次のグループに設定します。次の例では、iRMC S2 V3.77 以前に対する設定（iRMCgroups) も行われています。

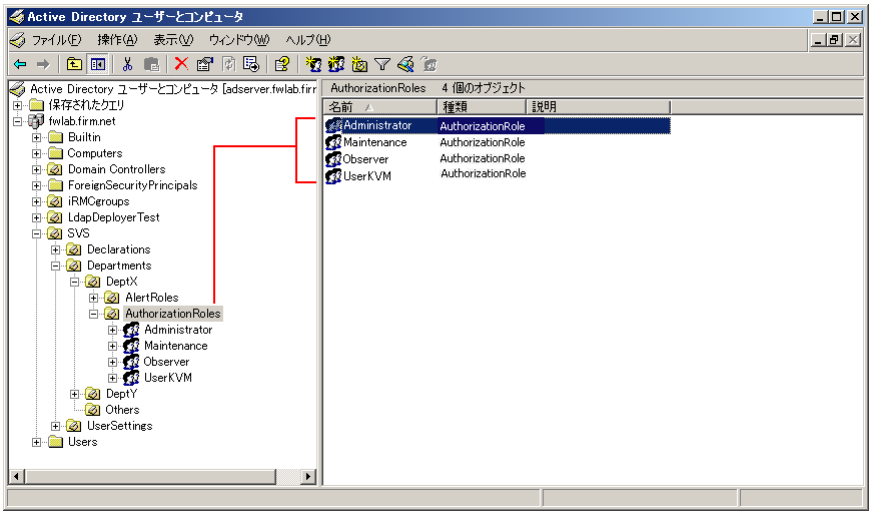
- ActiveDirectory 権限："Domain Users"
- iRMC S2 動作 Shell レベル："RemoteManager"
- iRMC S2 アクセス権限："UserKVM"



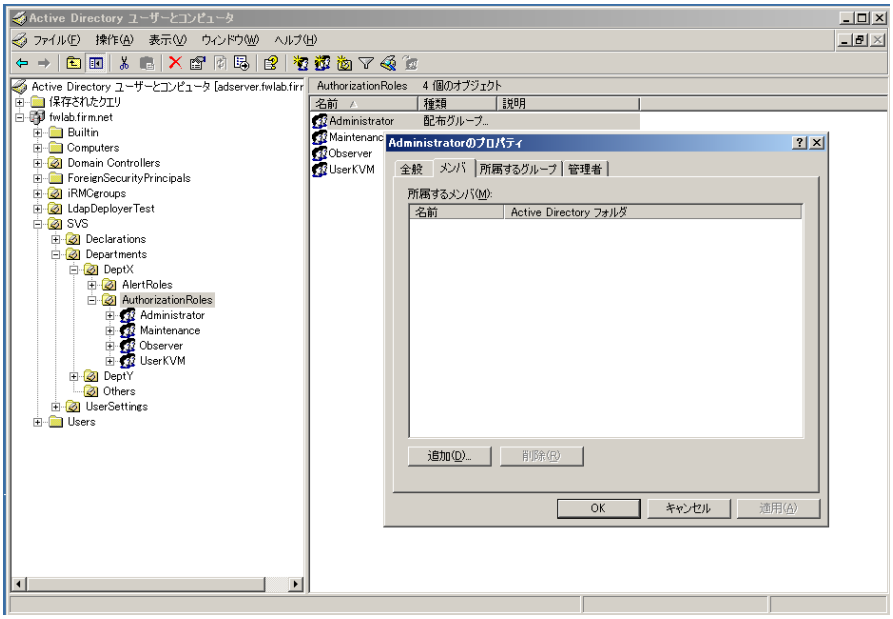
Active Directory では、各グループからユーザを設定することができます。

1 所属グループを選択します。

例）Administrator グループ

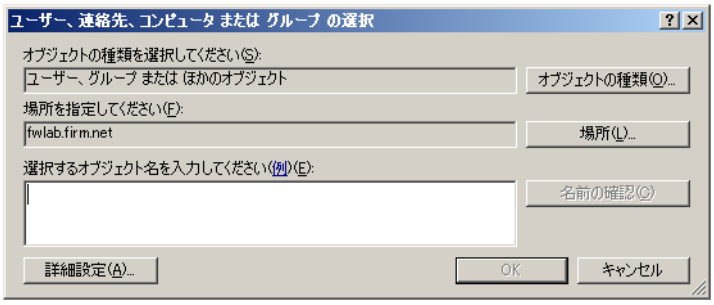


2 右クリックしてプロパティを表示し、「メンバ」タブを選択します。

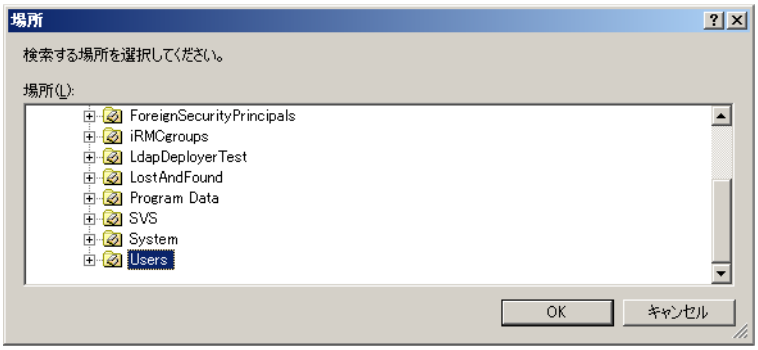


3 「追加」をクリックします。

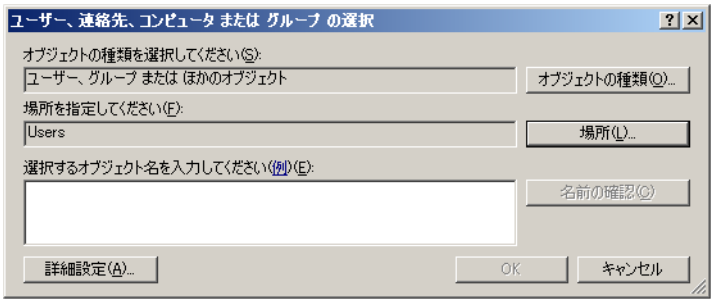
「ユーザ、連絡先、コンピュータまたはグループの選択」画面が表示されます。



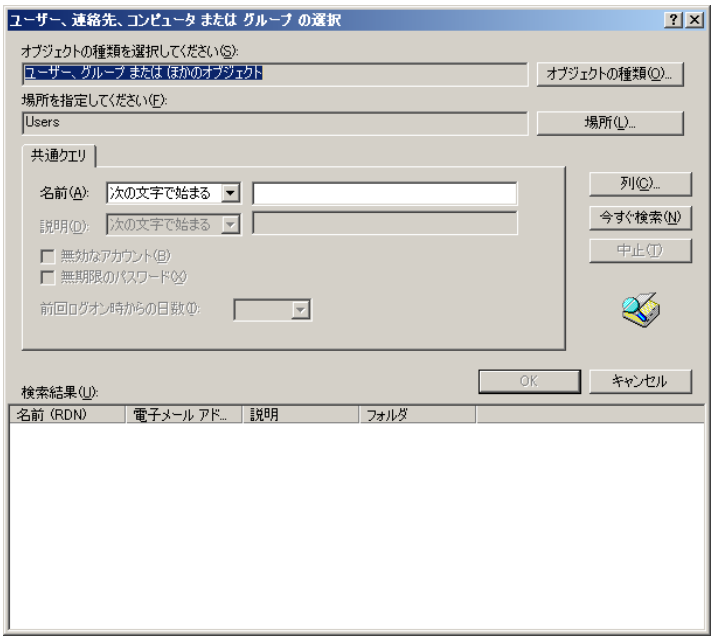
4 「場所」をクリックし、USER フォルダを選択して、「OK」をクリックします。



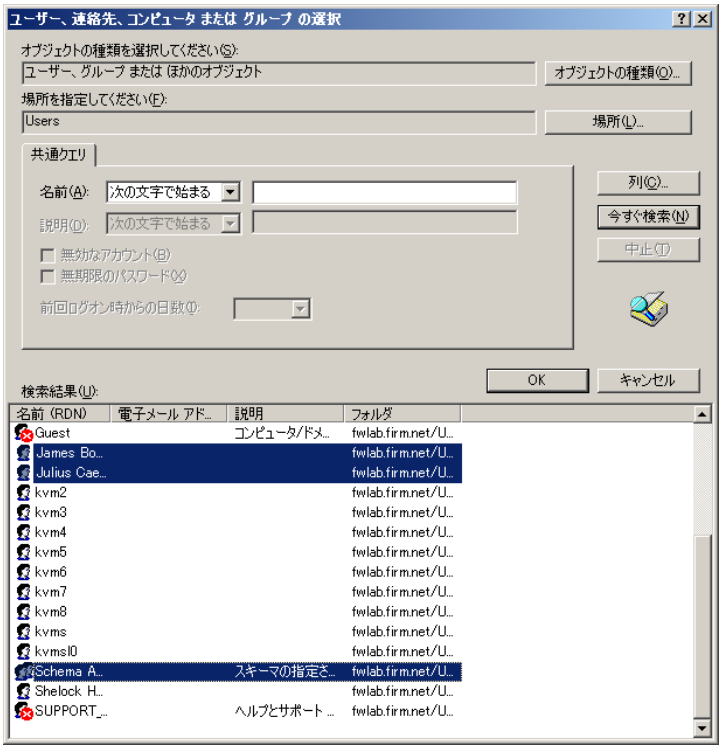
5 場所の指定欄が「Users」となっていることを確認し、「詳細設定」をクリックします。



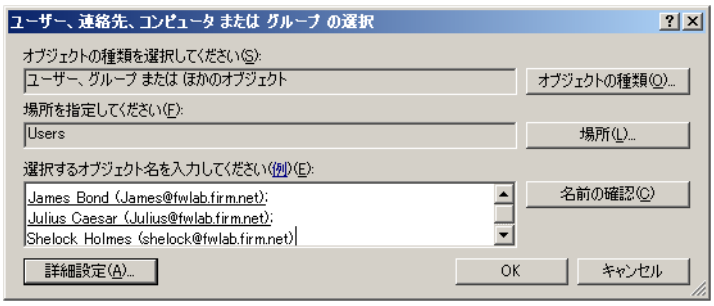
6 「今すぐ検索」をクリックします。



7 「検索結果」にユーザの一覧が表示されるので、対象ユーザを選択し、「OK」をクリックします。



8 選択したユーザが表示されるので、確認して「OK」をクリックします。



■ OpenLDAP を使用した iRMC S2 ユーザ管理

重 要

- OpenLDAP を使用するには、OpenSSL を設定しておく必要があります。
- OpenSSL での認証局証明書、ルート証明書、サーバ証明書、プライベートキーを事前に作成し、OpenLDAP サーバに適用してください。
- OpenLDAP の設定で、次の設定を行ってください。
  - ・LDAPv2-Bind 設定：有効
  - ・TLS 設定：有効

● iRMC S2 ユーザ管理から OpenLDAP への統合

POINT

前提要件

- LDAP v1 構成や LDAP v2 構成が、OpenLDAP ディレクトリサービス上ですでに作成されている必要があります。

iRMC S2 ユーザ管理から OpenLDAP への統合は、次の手順で構成されています。

1 プリンシパル iRMC ユーザを作成します。

2 新規 iRMC S2 ユーザの作成、およびそのユーザの許可グループの割り当てを行います。

POINT

- プリンシパルユーザ（オブジェクトクラス：Person）を設定するには、LDAP ブラウザ（LDAP Browser/Editor、coral directory など）を使用してください。

LDAP Browser/Editor について

Jarek Gawor 氏が作成した LDAP Browser/Editor は、グラフィカルユーザインターフェースを使用した簡易 LDAP 設定ツールです。LDAP Browser/Editor は、次のアドレスからダウンロードできます。

http://www.novell.com/communities/node/8652/gawors-excellent-ldap-browsereditor-v282

重 要

- LDAP Browser/Editor は、LDAP ブラウザの一例であり、動作の保証、サポートを行うものではありません。

プリンシパルユーザの作成

POINT

- プリンシパルユーザ（オブジェクトクラス：Person）を作成するには、LDAP ブラウザ（LDAP Browser/Editor など）を使用してください。

次の手順に従って、プリンシパルユーザを設定してください。LDAP Browser/Editor を使用した設定の手順を例として記載します。

1. LDAP ブラウザを起動します。
2. 有効な認証データを使って、OpenLDAP ディレクトリサービスにログインします。
3. プリンシパルユーザを作成するサブツリー（サブグループ）を選択します。
   プリンシパルユーザはツリー構造の中であればどこでも作成できます。
4. 「Edit」メニューを開きます。
5. 「Add Entry」を選択します。
6. 「Person」を選択します。
7. 識別名 DN を編集します。

   POINT

   - プリンシパルユーザの識別名とパスワードは、iRMC S2 設定の対応する仕様と一致している必要があります。

8. 「Set」をクリックし、パスワードを入力します。
9. 「SN」（姓）を入力します。
10. 「Apply」をクリックします。

新規 iRMC S2 ユーザの作成と許可グループの割り当て

POINT

- 新規ユーザ（オブジェクトクラス：Person）を作成し許可グループを割り当てるには、LDAP ブラウザ（LDAP Browser/Editor など）を使用してください。

次の手順に従って、新規 iRMC S2 ユーザを作成し、作成したユーザを許可グループに追加してください。LDAP Browser/Editor を使用した設定の手順を例として記載します。

1 LDAP ブラウザを起動します。

2 有効な認証データを使って、OpenLDAP ディレクトリサービスにログインします。

3 新規ユーザを作成します。

1. 新規ユーザを作成するサブツリー（サブグループ）を選択します。
   新規ユーザはツリー構造の中であればどこでも作成できます。
2. 「Edit」メニューを開きます。
3. 「Add Entry」を選択します。
4. 「Person」を選択します。
5. 識別名 DN を編集します。
6. 「Set」をクリックし、パスワードを入力します。
7. 姓「SN」を入力します。
8. 「Apply」をクリックします。

4 作成したユーザに許可グループを割り当てます。

1. ユーザが所属する iRMCgroups または SVS サブツリー（サブグループ）を選択します。
   - LDAP v1 の場合

   ```
   cn=UserKVM,ou=YourDepartment,ou=Departments,ou=iRMCgroups,
   dc=myorganisation,dc=mycompany
   ```

   - LDAP v2 の場合

   ```
   cn=UserKVM,ou=YourDepartment,ou=Departments,ou=SVS,
   dc=myorganisation,dc=mycompany
   ```

2. 「Edit」メニューを開きます。
3. 「Add Attribute」を選択します。
4. 「メンバー」を属性名として指定します。値は、作成したユーザの識別名を指定します。

   ```
   cn=UserKVM,ou=YourDepartment,ou=Departments,ou=iRMCgroups,
   dc=myorganization,dc=mycompany
   ```

   または

   ```
   cn=UserKVM,ou=YourDepartment,ou=Departments,ou=SVS,
   dc=myorganisation,dc=mycompany
   ```

● LDAP サービスの再起動

次の手順に従って、LDAP サービスを再起動してください。

1 コマンドボックスを開きます。

2 ルート権限でログインします。

3 次のコマンドを実行します。

```
rcldap restart
```

● メッセージロギング処理

LDAP デーモンは、メッセージロギング処理に Syslog プロトコルを使用します。

POINT

- ログレベルが /etc/openldap/slapd.conf ファイル上で 0 以外に設定された場合のみ、記録されたメッセージが表示されます。
  それぞれのログレベルについては、次のサイトをご覧ください。
  http://www.zytrax.com/books/ldap/ch6/#loglevel

ログレベルの概要とその意味については、次のとおりです。

ログレベル	意味
-1	広範囲のデバッグ
0	デバッグなし
1	関数呼び出しの記録
2	パケット処理のテスト
4	重点的なトレースデバッグ
8	接続管理
16	送受信したパケットの表示
32	検索フィルタ処理
64	設定ファイル処理
128	アクセスコントロール一覧処理
256	接続／動作／イベントの状態記録
512	送信したエントリの状態記録
1024	シェルバックエンドを使った通信の出力
2048	エントリ構文解析結果の出力

■ LDAP iRMC S2 ユーザへの E-mail 警告通知設定

LDAP で管理された iRMC S2 ユーザへの E-mail 警告通知設定は、LDAP の iRMC S2 ユーザ管理に統合されています。ディレクトリサーバを使用して、すべてのプラットフォームを中心的に設定し操作できます。適切に設定された LDAP のユーザ ID は、ネットワーク上のディレクトリサーバを使用しているすべての iRMC S2 で E-mail 警告設定を使用できます。

POINT

前提要件

- E-mail 警告通知を設定するには、次の要件が満たされている必要があります。
  - ・LDAP E-mail 警告通知設定を使用するには、V3.77A 以降の iRMC S2 ファームウェアが必要です。
  - ・iRMC S2 Web インターフェース上で、LDAP ツリー構造内を検索する権限のあるプリンシパルユーザを設定しておく必要があります。
  - ・ディレクトリサービス構成ページで LDAP 設定を行う場合、ディレクトリサービス E-mail 警告構成で「LDAP E-mail 警告を有効にする」をチェックしてください。

● LDAP E-mail 警告通知設定について

ディレクトリサーバを使った LDAP E-mail 警告通知設定には警告ロールが必要です。
SVS_LdapDeployer の設定ファイルでは、認証ロールに加えて警告ロールを定義できます。

警告グループの表示（警告ロール）

警告ロールは、警告タイプ（温度センサしきい値など）の選定と一緒にグループ化します。また、それぞれに重要度（危険以上など）を割り当てます。ユーザを特定の警告グループに割り当てることで、そのユーザが E-mail で警告を受ける警告タイプと重要度を指定できます。
警告ロールの構文は、Generic_Settings.xml および Generic_InitialDeploy.xml というサンプル設定ファイルで説明されています。これらのサンプルファイルは、jar アーカイブ SVS_LdapDeployer.jar と一緒に PRIMERGY ServerView Suite DVD 1 に格納されています。

警告タイプの表示

次の警告タイプに対応しています。

警告タイプ	説明
FanSens	ファンセンサー
Temperat	温度センサー
HWError	重大なハードウェアエラー
Security	セキュリティ
SysHang	システム停止
POSTErr	POST エラー
SysStat	システム状態
DDCtrl	ディスクドライブおよびコントローラ
NetInterf	ネットワークインターフェース
RemMgmt	リモートマネジメント
SysPwr	電源管理

警告タイプ	説明
Memory	メモリ
Others	その他諸原因

各警告タイプには、重要度（送信しない／危険以上／警告以上／すべて送信）のうちどれか1 つを割り当てられます。

優先 E-mail サーバについて

LDAP E-mail 警告送信のために、優先 E-mail サーバでは自動選択設定を使用します。例えば、1 台目のメールサーバが利用できない場合、E-mail は 2 台目のメールサーバへ送信されます。

対応メール形式について

次のメール形式に対応しています。

- 標準メール
- 題名固定
- ITS フォーマット（未サポート）
- Fujitsu REMCS フォーマット

POINT

- メール形式で標準メール以外を使用する場合、対応するメール形式グループにユーザを追加してください。追加しない場合、標準メールとなります。

LDAP E-mail 一覧

LDAP で E-mail 警告が設定されていて、かつ「LDAP E-mail 警告を有効にする」がチェックされている場合、iRMC S2 は警告が発行された時、次にあてはまるユーザへ E-mail を送信します。

- iRMC S2 のローカルユーザのうち、E-mail 警告通知が設定されている全員
- LDAP E-mail 一覧で、発生した警告に対して登録されている LDAP iRMC S2 ユーザ全員

iRMC S2 が初めて起動された時、まず iRMC S2 ファームウェアで LDAP E-mail 一覧が作成されます。その後、定期的に更新されます。LDAP E-mail 一覧のサイズは、LDAP 警告ロール数を最大 64 個に制限しています。E-mail 警告を設定できる LDAP iRMC S2 ユーザも最大 64 人です。

POINT

- LDAP E-mail 警告には、E-mail メーリングリストを使用することを推奨します。

E-mail 警告通知を行うために iRMC S2 の LDAP ディレクトリサーバ機能は、次の情報を E-mail 一覧より取得します。

- E-mail 警告通知が設定されている LDAP iRMC S2 ユーザの一覧
- 各 LDAP iRMC S2 ユーザごとの警告タイプに設定された警告の一覧（タイプおよび重要度）
- 各 LDAP iRMC S2 ユーザごとのメール形式

LDAP E-mail 一覧は、次の状況で更新されます。

- iRMC S2 を初めて起動した、または再起動した時
- LDAP の設定が変更された時
- 「LDAP 警告テーブルを更新する」で指定した間隔
  iRMC S2 Web インターフェースのディレクトリサービス構成画面で更新間隔を指定します。

ディレクトリサーバ上の E-mail 警告の設定

ディレクトリサーバ上で行う E-mail 警告の設定方法について説明します。

POINT

- iRMC S2 でも設定を行ってください。iRMC S2 Web インターフェースで設定できます。
  「4.10.2 ディレクトリサービス構成」（→ P.73）

1 ディレクトリサービスへ設定する、ユーザごとの E-mail 宛先メールアドレスを入力します。

POINT

- メールアドレスの設定方法は使用するディレクトリサーバによって異なります（Active Directory または OpenLDAP）。

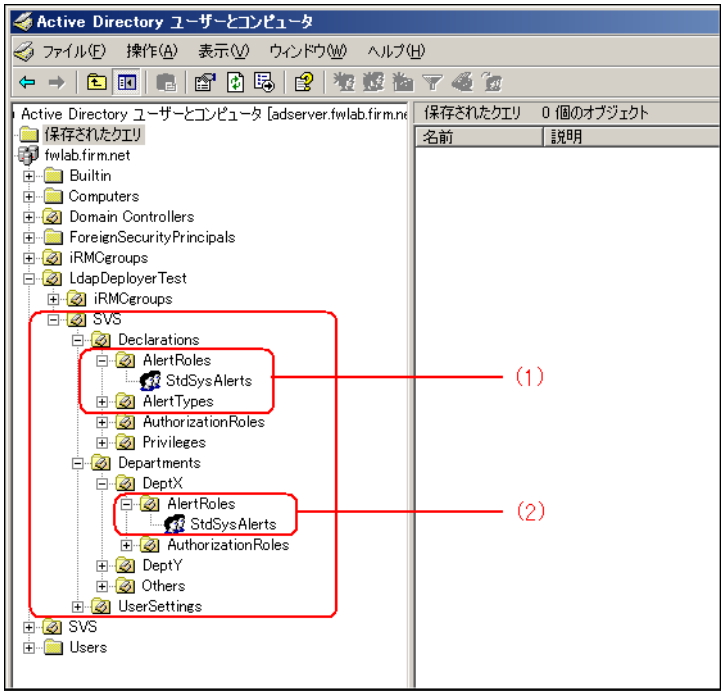
2 警告ロールを定義する設定ファイルを作成します。

3 SVS_LdapDeployer を起動して使用する設定ファイルを適用します。対応する LDAP v2 構成（SVS）がディレクトリサーバに作成されます。

● 警告ロールの表示

SVS_LdapDeployer を使用して LDAP v2 の構成を作成すると、OU「SVS」が作成され、Active Directory に表示されます。例えば、Alert Roles と Alert Types コンポーネントは一緒に Declarations の下に表示されます。また、Alert Roles コンポーネントは一緒に DeptX の下に表示されます。

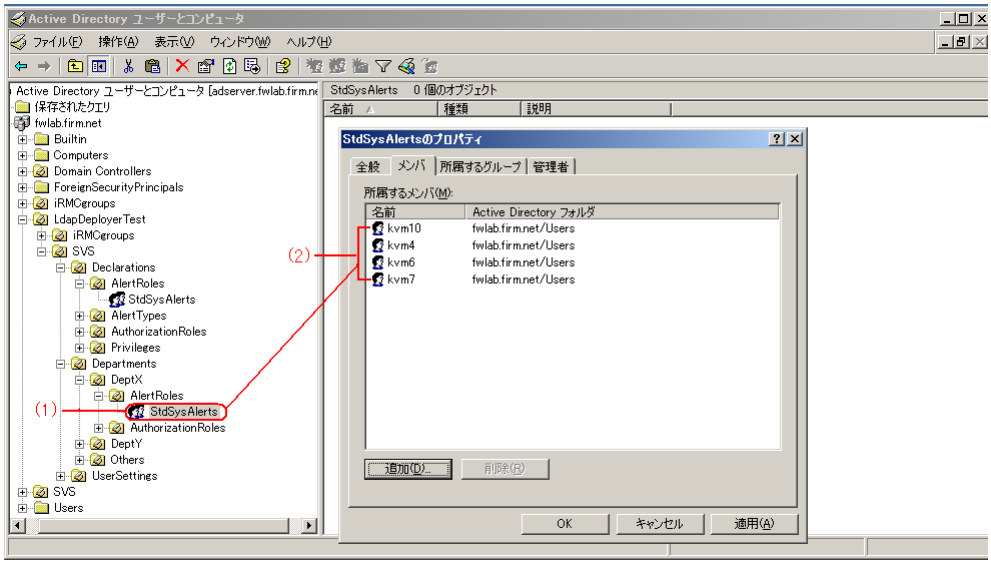
- 定義されたすべての警告ロールは、Declarations の下の Alert Roles に表示されます。また、すべての警告タイプは Alert Types（1）の下に表示されます。
- OU「DeptX」（2）で有効になっている警告ロールは、DeptX の下の Alert Roles に表示されます。



POINT

▶ 各警告ロールのユーザへ確実に E-mail を送信するためには、iRMC S2 を設定してください。
「4.10.2 ディレクトリサービス構成」（→ P.73）

警告ロール（例：StdSysAlerts）を構成ツリー（Active Directory ユーザとコンピュータ）の中の「SVS」→「Departments」→「DeptX」→「Alert Roles」の順にクリックします。その後、警告ロールを選択し、右クリックからプロパティ画面を起動して「メンバ」タブをクリックします。選択した警告ロール（この場合は StdSysAlert）に所属するユーザが「メンバ」タブ（2）に表示されます。



● iRMC S2 ユーザの警告ロール指定

次のいずれかで iRMC S2 ユーザの警告ロールを指定できます。

- ユーザエントリからの指定
- ロールエントリからの指定

それぞれ異なったディレクトリサービス（Microsoft Active Directory および OpenLDAP）では、iRMC S2 ユーザの認証ロールを指定するときと同じ方法とツールを使用して、iRMC S2 ユーザの警告ロールを指定します。

例えば Active Directory では、Active Directory ユーザとコンピュータスナップインのプロパティ画面で「追加」をクリックして割り当てます。

A.4 SSL copyright

The iRMC S2-LDAP integration uses the SSL implementation developed by Eric Young on the basis of the OpenSSL Project.

```
/* ====================================================================
 * Copyright (c) 1998-2002 The OpenSSL Project.  All rights reserved.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
 *
 * 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 *
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer in
 *    the documentation and/or other materials provided with the
 *    distribution.
 *
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this
 *    software must display the following acknowledgment:
 *    "This product includes software developed by the OpenSSL Project
 *    for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
 *
 * 4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to
 *    endorse or promote products derived from this software without
 *    prior written permission. For written permission, please contact
 *    openssl-core@openssl.org.
 *
 * 5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL"
 *    nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written
 *    permission of the OpenSSL Project.
 *
 * 6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
 *    acknowledgment:
 *    "This product includes software developed by the OpenSSL Project
 *    for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY
 * EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
 * PURPOSE ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
 * ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
 * SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
 * NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
 * LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
 * STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
 * ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
 * OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.
 * ====================================================================
 *
 * This product includes cryptographic software written by Eric Young
 * (eay@cryptsoft.com).  This product includes software written by Tim
 * Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
 */
```

```
/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
 * All rights reserved.
 *
 * This package is an SSL implementation written
 * by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
 * The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
 *
 * This library is free for commercial and non-commercial use as long as
 * the following conditions are aheared to.  The following conditions
 * apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,
 * lhash, DES, etc., code; not just the SSL code.  The SSL documentation
 * included with this distribution is covered by the same copyright terms
 * except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
 * Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in
 * the code are not to be removed.
 * If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution
 * as the author of the parts of the library used.
 * This can be in the form of a textual message at program startup or
 * in documentation (online or textual) provided with the package.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
 * 1. Redistributions of source code must retain the copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 *    notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
 *    documentation and/or other materials provided with the distribution.
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this software
 *    must display the following acknowledgement:
 *    "This product includes cryptographic software written by
 *     Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
 *    The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
 *    being used are not cryptographic related :-).
 * 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
 *    the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
 *    "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND
 * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 * ARE DISCLAIMED.  IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
 * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
 * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
 * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
 * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
 * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
 * SUCH DAMAGE.
 *
 * The licence and distribution terms for any publically available version or
 * derivative of this code cannot be changed.  i.e. this code cannot simply be
 * copied and put under another distribution licence
 * [including the GNU Public Licence.]
 */
```

B　リモートストレージサーバツール

リモートストレージサーバでは、任意の「ISO/NRG イメージ」を iRMC の搭載サーバに媒体として接続することができます。リモートストレージサーバを使用する際、専用のツールのインストールが必要です。ツールのインストール方法と設定について説明します。

POINT

- 接続媒体となる「ISO/NRG イメージ」はあらかじめ用意してください。

B.1　リモートストレージサーバツールのインストール

1 PRIMERGY ServerView Suite DVD 1 をセットし、次の該当 OS のフォルダへ移動します。

▶Windows の場合

¥SVSoftware¥Software¥RemoteView¥iRMC¥Windows_32

または

¥SVSoftware¥Software¥RemoteView¥iRMC¥Windows_x64

▶Linux の場合

¥SVSoftware¥Software¥RemoteView¥iRMC¥Linux_32

または

¥SVSoftware¥Software¥RemoteView¥iRMC¥Linux_64

POINT

- Linux でのインストールについては、同フォルダ内の ReadMe.html をご覧ください。

2 次のインストーラを起動します。

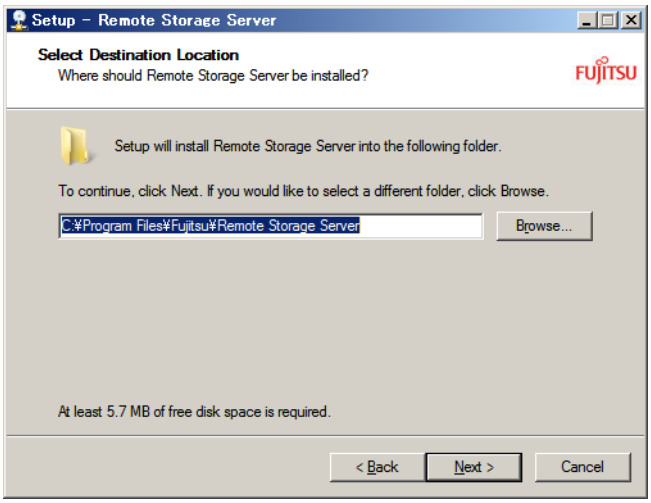
RemoteStorageServer_Installer32.exe

または

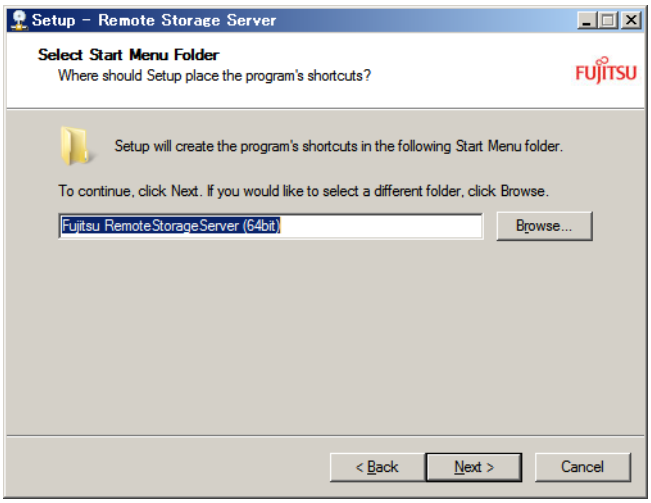
RemoteStorageServer_Installer64.exe

3 「Next」をクリックします。

4 インストール先フォルダを指定し、「Next」をクリックします。

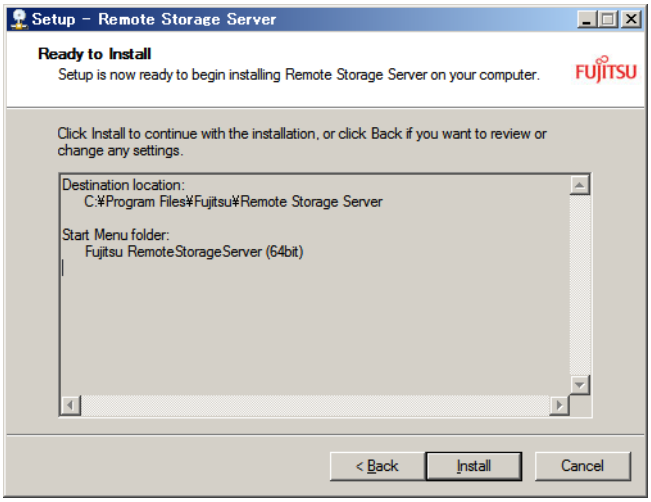


5 「スタート」メニュー登録グループを指定し、「Next」をクリックします。



6 インストール先、「スタート」メニュー登録グループを確認します。

インストール先、「スタート」メニュー登録グループを変更する場合は、「Back」をクリックして戻ってください。
「Install」をクリックすると、インストールが開始されます。



7 「Finish」をクリックすると、インストールは終了です。

「Launth Remote Storage Server」をチェックすると、終了後に ReadMe（英語）が表示されます。

POINT

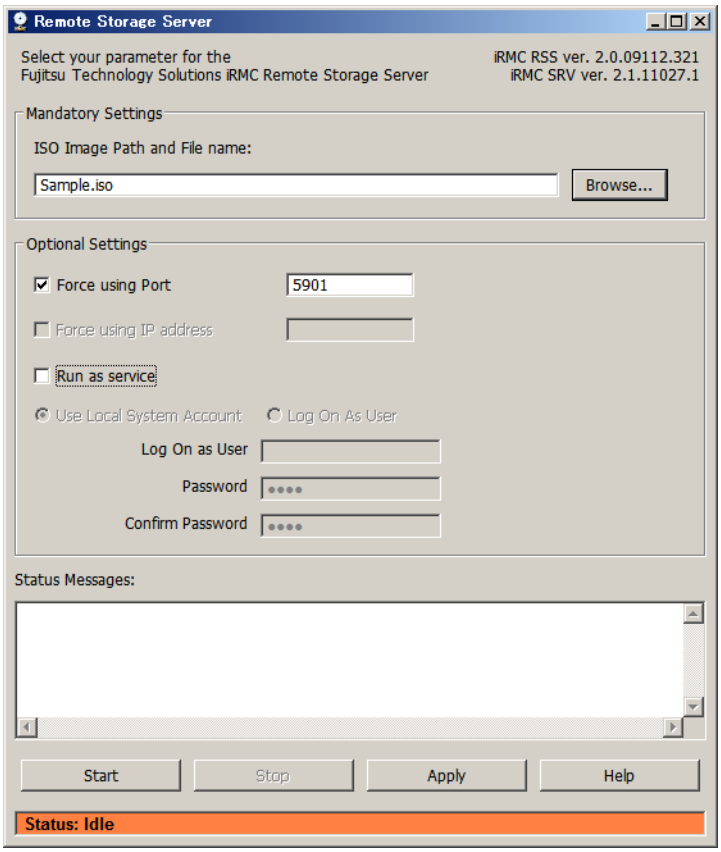
- リモートストレージサーバツールをアンインストールする場合は、「スタート」メニューの指定したグループ内に作成される「Uninstall Remote Storage Server」を実行してください。

B.2 リモートストレージサーバツールの設定

リモートストレージサーバツールの設定を行います。

1 「スタート」メニューから「Remote Storage Server」ツールを起動します。

「Remote Storage Server」画面が表示されます。



項目	説明
ISO Image Path & File name:	ISO/NRG イメージファイルのパス、ファイル名を指定します。
Force using Port	接続に使用するポートを指定する場合にチェックします。 デフォルトは「5901」です。この Port 番号は、iRMC の設定とあわせる必要があります。
Force using IP address	装置に複数の IP アドレスが設定されている場合、使用する IP アドレスを指定する際にチェックします。デフォルトは OS が最初に見つけた IP アドレスが設定されます。

項目	説明
Run as Service	Remote Strage Server サービスの起動方法を設定します。 チェックを付けていない場合、ツール画面からの起動が必要です。 チェックを付けると、次の 2 つから起動方法が選択できます。 ・Use Local System Account 選択すると、ローカルのユーザアカウントでログインした場合にサービスが起動します。 ・Log On As User 選択すると、指定したユーザがログオンした場合にサービスが起動します。ログオンユーザー名、パスワード、確認パスワードを入力してください。
Status Manages	サービスの起動など、状態が表示されます。
「Start」	サービスを起動します。
「Stop」	サービスを停止します。
「Apply」	ツールで設定した内容を適用します。「Apply」をクリックしないと、設定した内容は適用されません。
「Help」	Remote Strage Server のヘルプ（英語）が表示されます。

2 Remote Strage Server サービスを開始します。

手順 1 で設定した内容は、「Apply」をクリックした後、サービスを停止／起動しないと反映されません。「Start」をクリックしてサービスを開始してください。

索　引

く

グラフィカルキーボード 90

つ

通信プロトコル 14

て

ディレクトリ・サービス 100

ひ

ビデオリダイレクション
- 画面構成 82
- グラフィカルキーボード 90
- 操作ボタン 83
- マウスとキーボードの設定 90
- メニュー 82
- リモートストレージ接続 86

ま

マウスカーソルのシンクロ動作設定 83

り

リモートマネジメントコントローラ 10
- ユーザ名とパスワードの設定 13
- IP アドレスの設定 13
- Web インターフェースの機能 10
- 留意事項 11

L

LDAP 100

O

Organizational Unit 101

W

Web インターフェース
- 起動 16
- 終了 22
- メニュー一覧 19
- 温度 49
- 現在のシステム消費電力 43
- コンソールリダイレクション 75
- サーバ管理情報 57
- 自己署名 RSA 証明書の作成 32

システムイベントログ 54
システムイベントログ設定 56
システムイベントログ内容 54
システム構成情報 26
システム情報 24
システムの概要 24
消費電力制御 41
消費電力モニタリング履歴 44
セッションログアウト 98
センサ 46
センサの状態 53
通知情報設定 64
ディレクトリ サービス構成 73
電圧 51
電源制御 36
電源制御オプション 38
電源装置個別情報 52
電源装置情報 39
電力制御 41
認証データアップロード 31
ネットワーク 59
ネットワーク インタフェース 59
ビデオリダイレクション（AVR） 77
ファン 46
ユーザ管理 67
ライセンスキー設定 29
リモートストレージ 92
BIOS テキストコンソール 75
DHCP 構成 62
DNS 構成 63
E-mail 設定 65
iRMC S2 28
iRMC S2 SSH アクセス 94
iRMC S2 Telnet アクセス 97
iRMC S2 情報 28
iRMC S2 ファームウェア設定の保存 . . 30
Power On/Off 36
SNMP トラップ送信設定 64

リモートマネジメントコントローラ
ユーザーズガイド

B7FH-6591-01 Z0-00

発 行 日　2010 年 1 月

発行責任　富士通株式会社

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。